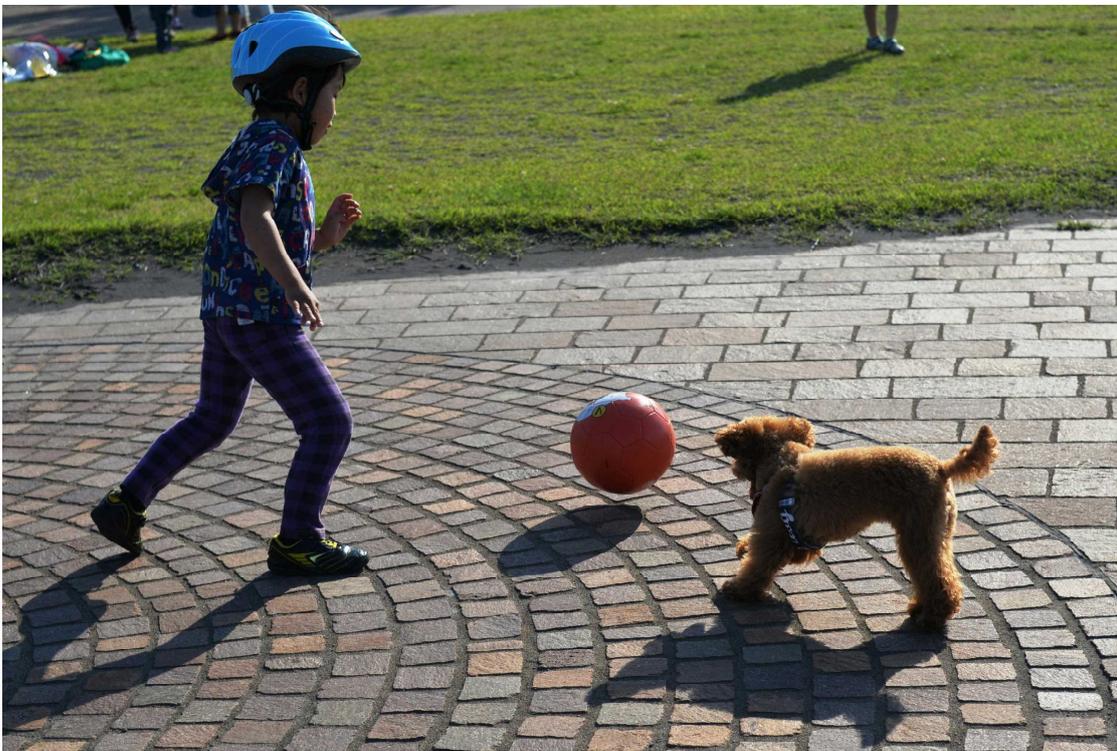


平成29年度

# 鹿児島学習定着度調査結果及び対策

[平成30年1月調査]



平成30年5月

鹿児島市教育委員会

# 目 次

I	本報告書の見方	1
II	調査結果の概要	2
III	学力調査の結果	4
1	国語	4
2	社会	12
3	算数・数学	20
4	理科	28
5	英語	36
IV	学習状況調査の結果	42
V	今後の対策－主体的・対話的で深い学びを実現するために－	48

表紙写真：福元 徹

## I 本報告書の見方

本調査の結果及び対策は、鹿児島県教育委員会が平成30年1月に実施した鹿児島学習定着度調査における鹿児島市に関するものです。

については、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

### 【調査内容に関する表記について】

本調査では、学力調査と学習状況調査が行われています。学力調査は、次の二つの内容で出題されています。

- ① 主として「基礎・基本」に関する問題・・・本書では、「基礎・基本」と示しています。
- ② 主として「思考・表現」に関する問題・・・本書では、「思考・表現」と示しています。

②の問題は、次の内容を問うものであり、本書では各教科ごとに「思考・表現1」などと番号を用いて示しています。

教科名	番号	主として「思考・表現」に関する問題の内容
国 語	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	身近な資料を用いて、表現の仕方や文章の特徴を捉え、自分の表現に役立てることができるようにする問題
	3	複数の情報を関連付け、それを基に自分の考えを論理的に書くことができるようにする問題
社 会	1	社会的事象の特徴や背景・原因等について、自分の考えを筋道立てて説明する問題
	2	提示された資料を関連付けたり、比較したりして読み取ったことを基に、社会的事象について説明する問題
	3	歴史的事象の相互の関係を判断したり、社会的事象について正しく説明しているものを判断したりする問題（選択肢による出題）
算数・数学	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	示された課題解決の過程を、新たな課題に活用して解決する問題
	3	課題解決の方法や判断の根拠などを言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道立てて説明する問題
理 科	1	観察、実験の結果（事実・データ）から結論を考察する問題
	2	原理、法則を他の身近な現象に当てはめて説明する問題
	3	視覚的に実感しにくい現象をモデルで説明する問題
英 語	1	「聞くこと」においては、聞き取った英語を基に、英文を完成させたり、英語の質問文に英語で答えたりする問題
	2	「読むこと」においては、文と文のつながりや段落と段落の関係、内容に合う英文選択などを問う問題
	3	「書くこと」においては、対話やまとまりのある文章における流れや文と文のつながりに留意し、適切な英文を書く問題

## II 調査結果の概要

### 1 調査の概要

#### (1) 趣 旨

ア 基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等に関する学力状況及び児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況の把握  
 イ 市全体の状況把握、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善

#### (2) 内 容

小学校：国語・社会・算数・理科、児童質問紙  
 中学校：国語・社会・数学・理科・英語、生徒質問紙

#### (3) 実施日 【学 力 調 査】平成30年1月17日(水)・18日(木)

【学習状況調査】平成30年1月17日(水)～19日(金)

#### (4) 対 象 全ての市立小・中学校

学 校 種	学 年	調 査 実 施 校 数		調 査 実 施 児 童 生 徒 数	
		鹿児島市	鹿児島県	鹿児島市	鹿児島県
小 学 校	第5学年	76校	501校	5,090人	13,342人
中 学 校	第1学年	38校	216校	4,208人	12,067人
	第2学年	38校	217校	4,497人	12,047人

### 2 学力調査の結果

#### (1) 各教科の平均通過率

	学年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
		市	県	差(市-県)	市	県	差(市-県)	市	県	差(市-県) (H28)
国 語	小5	73.8%	73.1%	0.7	46.0%	45.8%	0.2	67.4%	66.8%	0.6 (0.9)
	中1	70.0%	68.0%	2.0	60.5%	57.6%	2.9	67.4%	65.1%	2.3 (1.2)
	中2	69.1%	68.5%	0.6	55.2%	53.2%	2.0	64.9%	63.9%	1.0 (2.5)
社 会	小5	70.0%	69.4%	0.6	56.9%	57.0%	-0.1	65.9%	65.6%	0.3 (0.4)
	中1	61.1%	59.2%	1.9	40.7%	39.3%	1.4	55.1%	53.3%	1.8 (2.7)
	中2	63.6%	61.4%	2.2	44.8%	46.9%	-2.1	58.1%	57.1%	1.0 (1.9)
算 数 ・ 数 学	小5	72.7%	72.6%	0.1	45.1%	43.9%	1.2	63.1%	62.7%	0.4 (0.6)
	中1	69.5%	67.7%	1.8	52.9%	50.6%	2.3	64.8%	62.8%	2.0 (1.2)
	中2	67.7%	66.8%	0.9	46.0%	44.3%	1.7	60.2%	59.0%	1.2 (2.4)
理 科	小5	66.3%	65.9%	0.4	72.7%	73.4%	-0.7	68.8%	68.8%	0.0 (1.1)
	中1	61.8%	59.7%	2.1	49.9%	46.9%	3.0	57.5%	55.1%	2.4 (1.6)
	中2	57.1%	56.3%	0.8	27.2%	28.5%	-1.3	46.3%	46.3%	0.0 (2.1)
英 語	中1	71.8%	68.4%	3.4	60.1%	55.9%	4.2	67.0%	63.3%	3.7 (3.0)
	中2	67.6%	64.4%	3.2	55.3%	52.6%	2.7	62.8%	59.8%	3.0 (3.6)

#### (2) 結果の概要

小学校、中学校のいずれも、全ての教科で「基礎・基本」及び「全体」は、県平均通過率を上回っているか同じである。ただし、「思考・表現」については、小5と中2の社会と理科が県平均通過率を下回っている。

3 学習状況調査の結果（主なもののみ抜粋、詳細はpp. 42-47に掲載）

(1) 主な質問に対する回答の割合

			市	県	差(市-県)
ア 家庭学習について	① 家では、自分で学習（宿題や自分で計画した学習） していますか。 ※ 「している」「どちらかといえばしている」と回答した 児童生徒の割合 (質問1)	小5	84.5%	84.1%	0.4
		中1	77.8%	79.7%	-1.9
		中2	76.0%	76.9%	-0.9
	② あなたが自分で計画を立ててやる学習の内容は、 どんなものが多いですか。 ※ 「計画を立てて学習していない」と回答した児童生 徒の割合 (質問2)	小5	11.8%	12.0%	-0.2
		中1	14.6%	15.1%	-0.5
		中2	16.8%	17.4%	-0.6
イ 学校での学習活動について	③ あなたの学級では、授業のめあて（学習目標）を 立てていますか。 ※ 「よくしている」「どちらかといえばしている」と回 答した児童生徒の割合（以下、同じ） (質問10)	小5	91.0%	90.6%	0.4
		中1	86.6%	87.8%	-1.2
		中2	86.6%	87.2%	-0.6
	④ めあてを確認した後、学習を見通す活動（めあてを 解決するためにどのように考えればよいか見通す活動） を行っていますか。 (質問11)	小5	77.3%	78.8%	-1.5
		中1	63.2%	66.4%	-3.2
		中2	61.4%	63.7%	-2.3
	⑤ 授業の終わりに学習内容を振り返る活動（ノート にまとめたり、考えたことを整理したりするなど）を 行っていますか。 (質問12)	小5	76.2%	76.2%	0.0
		中1	62.7%	64.5%	-1.8
		中2	60.3%	61.2%	-0.9
	⑥ 授業では、自分で考えたり、進んで活動に取り組 んだりしていますか。 (質問13)	小5	77.6%	78.0%	-0.4
		中1	72.0%	72.5%	-0.5
		中2	71.2%	71.3%	-0.1
⑦ 授業では、先生から教えてもらったことや友達と 話し合ったことなどを通じて、自分の考えを深めたり 広げたりすることができますか。 (質問15)	小5	73.3%	72.0%	1.3	
	中1	72.2%	71.4%	0.8	
	中2	71.6%	71.1%	0.5	
⑧ 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生 かすことができますか。 (質問16)	小5	82.2%	82.1%	0.1	
	中1	73.3%	72.3%	1.0	
	中2	70.0%	68.4%	1.6	

(2) 結果の概要

家庭学習については、7～8割の児童生徒が取り組んでいるが、その割合は学年が上がるにつれて減少する傾向にある。

学校での学習活動については、授業のめあて（学習目標）を立てている学級は多いが、「学習を見通す活動」や「振り返る活動」は十分に行われていない状況が見られる。また、「授業では、自分の考えを深めたり広げたりすることができます」、「授業で学んだことをほかの学習や普段の生活に生かすことができます」と回答した児童生徒の割合は県を上回っているが、「自分で考えたり、進んで活動に取り組んだりしている」と回答した児童生徒の割合は県を下回っている。

これらのことから、日々の授業では、児童生徒がめあて（学習目標）の達成や学習課題の解決に向けて方向性や手立てを具体的に考え、検討し合う活動や、学習したことを個人でノート等にまとめた上で相互に確認し合ったり、類似の問題場面に活用して考えたりする活動等を一層重視し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る必要がある。

### Ⅲ 学力調査の結果

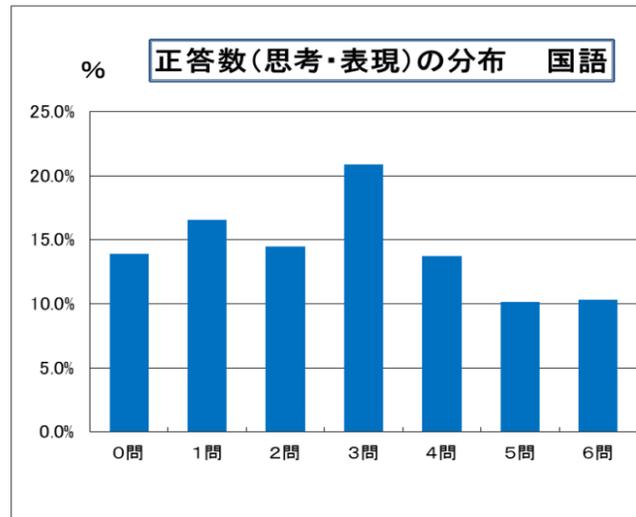
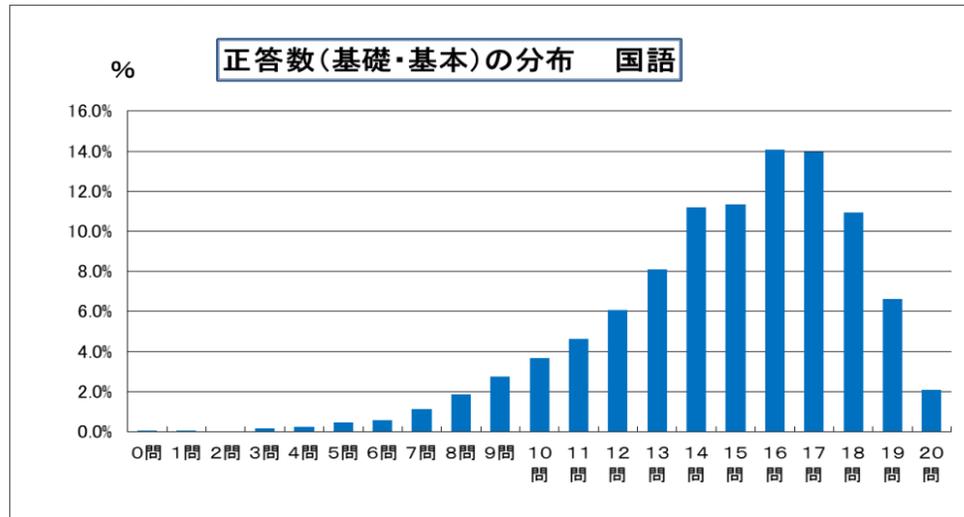
#### 1 国語

○分析 ◆対策

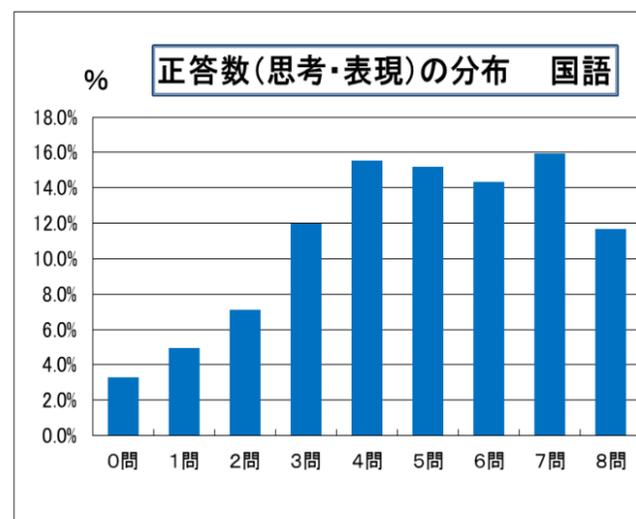
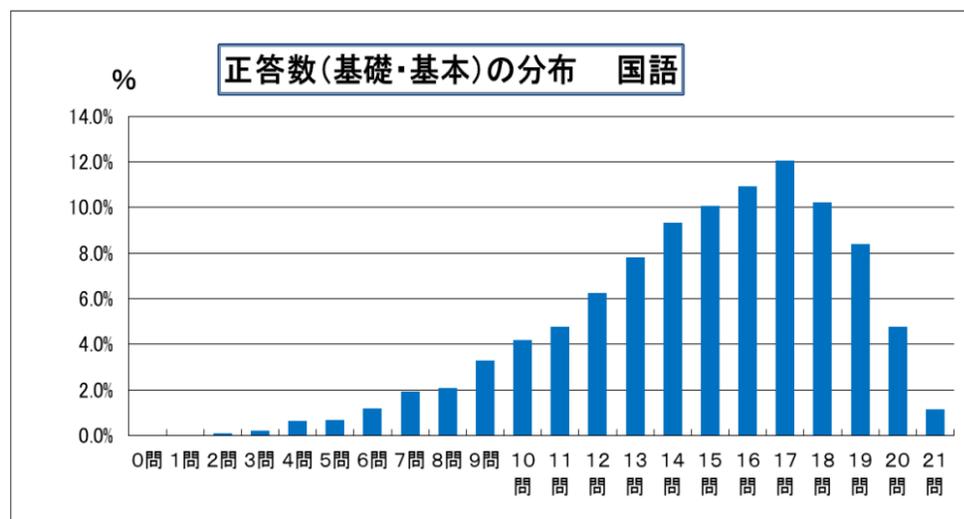
#### (1) 全体

学 年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
	市	県	県との差	市	県	県との差	市	県	県との差
小5	73.8%	73.1%	0.7	46.0%	45.8%	0.2	67.4%	66.8%	0.6
中1	70.0%	67.9%	2.1	60.5%	57.6%	2.9	67.4%	65.1%	2.3
中2	69.1%	68.4%	0.7	55.2%	53.3%	1.9	64.9%	63.9%	1.0

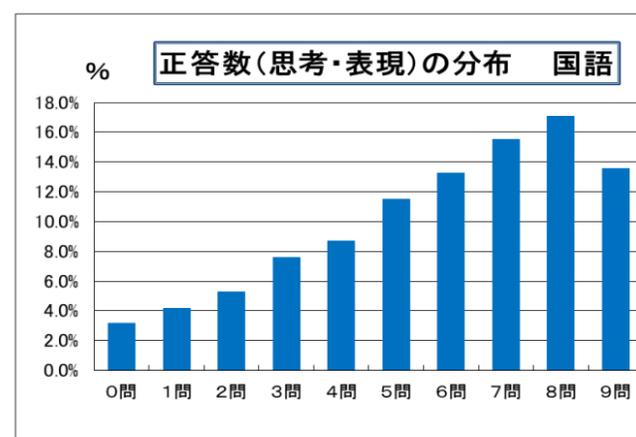
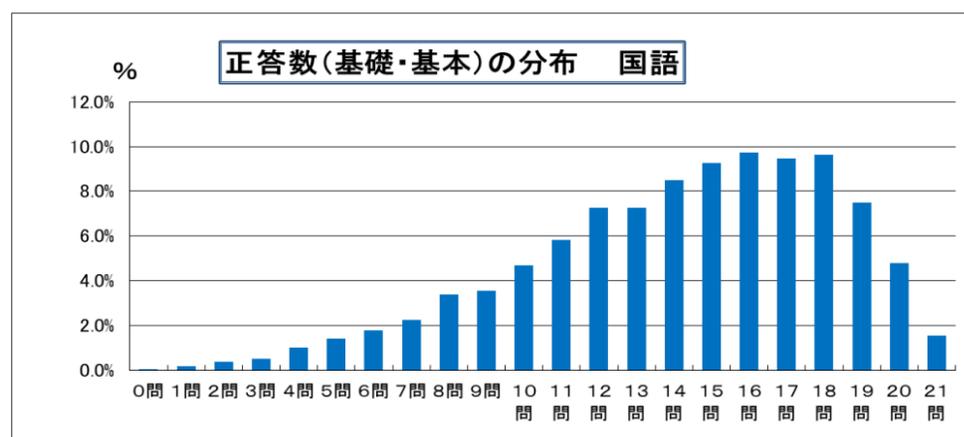
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】

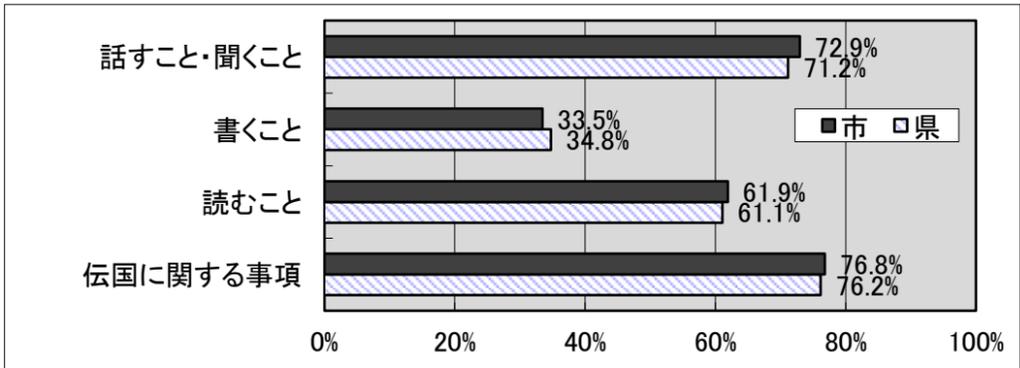


- 全体では、小5、中1、中2いずれも県を上回っている。
- 「基礎・基本」では、いずれの学年も県を上回っているが、中2は7割に満たない状況であり、定着が望まれる。
- 「思考・表現」では、中1は県を3ポイント近く上回っているが、小5は県とほとんど同じであり、平均通過率も5割に満たないなど、課題が見られる。
- ◆ 「基礎・基本」の更なる定着に向けて、通過率の低い問題をやり直すなど補充指導を徹底するとともに、課題解決のための言語活動を位置付けた学習活動を展開し、「思考・表現」力を高める。

(2) 内容・領域別平均通過率

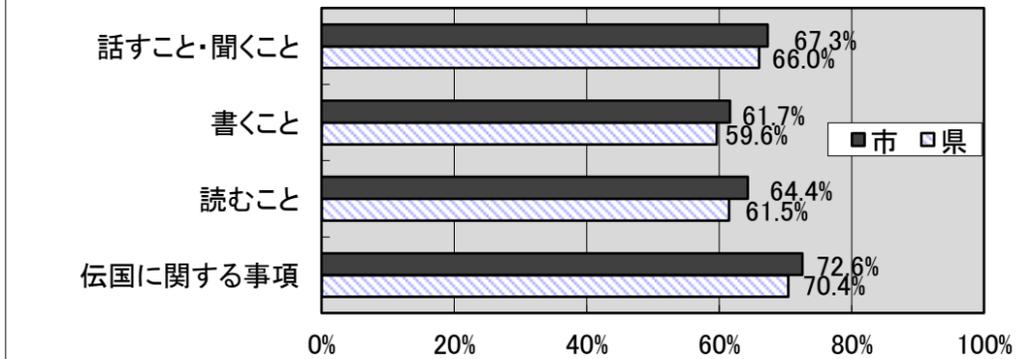
ア 小学校第5学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
話すこと・聞くこと	72.9%	71.2%	1.7
書くこと	33.5%	34.8%	-1.3
読むこと	61.9%	61.1%	0.8
伝国	76.8%	76.2%	0.6



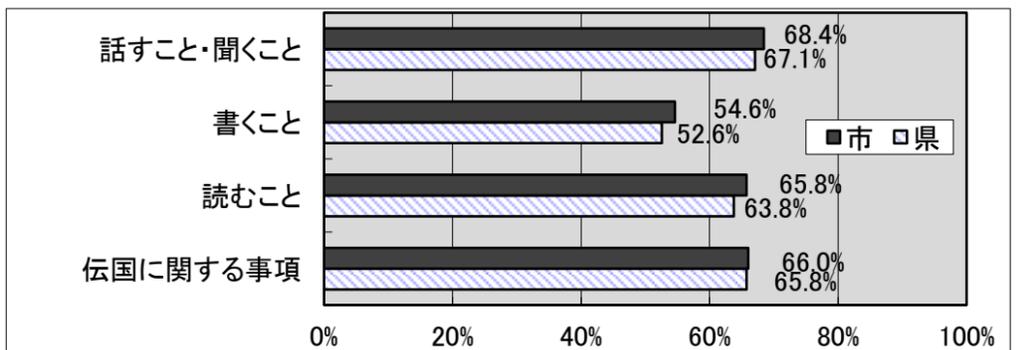
イ 中学校第1学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
話すこと・聞くこと	67.3%	66.0%	1.3
書くこと	61.7%	59.6%	2.1
読むこと	64.4%	61.5%	2.9
伝国	72.6%	70.4%	2.2



ウ 中学校第2学年

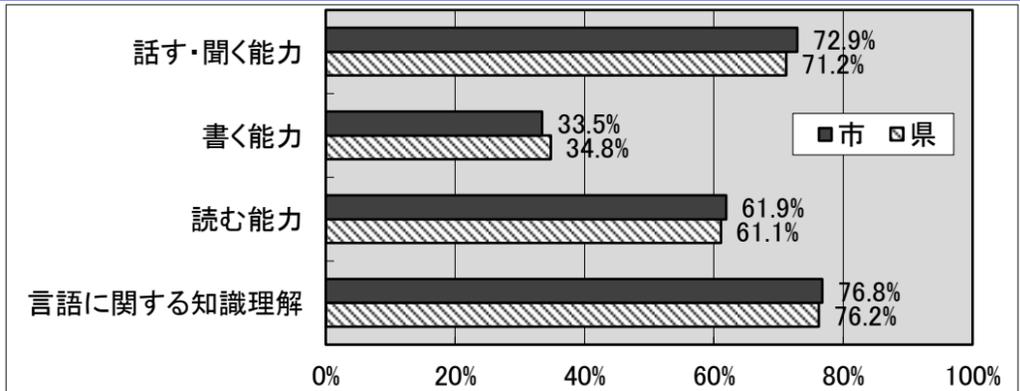
	平均通過率		県との差
	市	県	
話すこと・聞くこと	68.4%	67.1%	1.3
書くこと	54.6%	52.6%	2.0
読むこと	65.8%	63.8%	2.0
伝国	66.0%	65.8%	0.2



(3) 観点別平均通過率

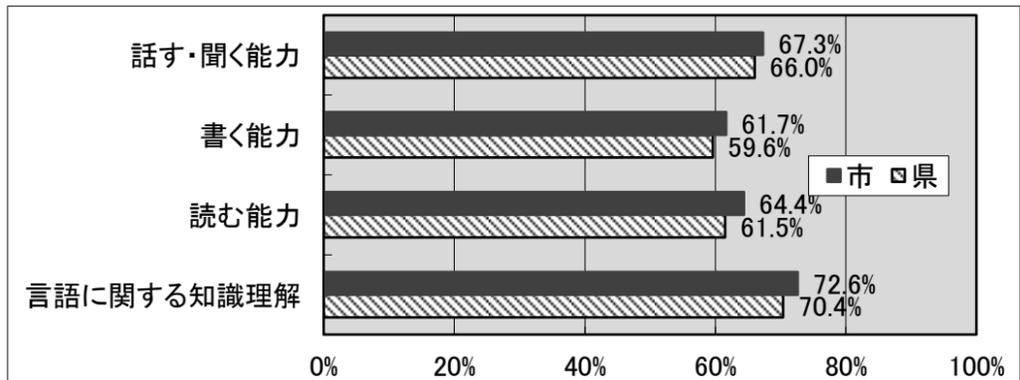
ア 小学校5年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
話す・聞く能力	72.9%	71.2%	1.7
書く能力	33.5%	34.8%	-1.3
読む能力	61.9%	61.1%	0.8
言語に関する知識理解	76.8%	76.2%	0.6



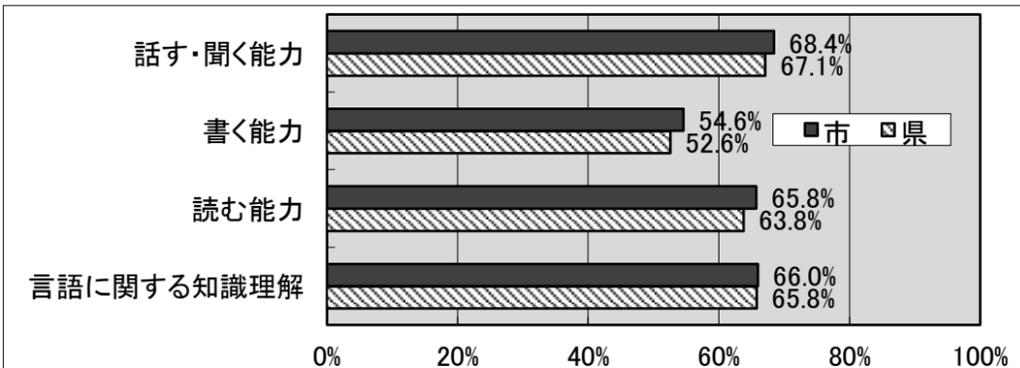
イ 中学校1年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
話す・聞く能力	67.3%	66.0%	1.3
書く能力	61.7%	59.6%	2.1
読む能力	64.4%	61.5%	2.9
言語に関する知識理解	72.6%	70.4%	2.2



ウ 中学校2年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
話す・聞く能力	68.4%	67.1%	1.3
書く能力	54.6%	52.6%	2.0
読む能力	65.8%	63.8%	2.0
言語に関する知識理解	66.0%	65.8%	0.2



- 小5の「書くこと」及び「書く能力」は県を1.3ポイント下回っている。
- 「読むこと」及び「読む能力」は、中1、中2いずれも県を2ポイント以上上回っている。
- ◆ 小5においては、自分の考えを明らかにしながら短くまとめ、交流する学習活動に継続して取り組ませたい。

(4) 小学校第5学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	大問	中問	小問	出題学年	問題内容別		内容領域別				観点別				県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図				
					基礎・基本	思考・表現	話す・聞くこと	書くこと	読むこと	伝国	話す・聞く	書く	読む	言語	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率					
1			ア	小4	○					○					○	97.2%		0.2%	97.5%		0.1%					学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり、書いたりすることができるか。		
2			イ	小5	○					○					○	77.9%		2.9%	80.3%		2.3%							
3			ウ	小1	○					○					○	73.4%		1.0%	74.6%		1.0%							
4	1		エ	小3	○					○					○	89.4%		0.7%	90.1%		0.6%							
5			2	小3	○					○					○	47.6%		1.0%	48.2%		0.8%						手紙を書き方のきまりを理解しているか。	
6			1	小3	○					○					○	78.4%		4.4%	79.1%		4.2%						ローマ字を正しく読んだり、書いたりすることができるか。	
7			2	小3	○					○					○	62.4%		3.7%	60.8%		3.5%							
8			1	小4	○					○					○	91.6%		0.1%	91.3%		0.1%					季語を理解しているか。		
9			2	小3	○					○					○	76.7%		0.2%	78.2%		0.2%					ことわざや慣用語の意味を理解しているか。		
10			二	小5	○					○					○	83.3%		0.1%	83.7%		0.1%					相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができるか。		
11			三	小3	○					○					○	93.0%		0.1%	93.2%		0.1%					国語辞典の基本的な引き方を身に付けているか。		
12			四	小2	○					○					○	67.4%		0.2%	67.1%		0.2%					主語と述語の関係を理解しているか。		
13			五	小3・4	○					○					○	51.8%		0.2%	54.4%		0.3%					修飾語や接続語の果たす役割を理解し、使うことができるか。		
14			①	小3・4	○					○					○	74.9%		0.3%	76.7%		0.4%					全員が発言できるように促したり、軌道修正をしたりといった司会の役割を理解しているか。		
15			②	小3・4	○					○					○	77.1%		0.3%	77.9%		0.5%							
16			二	小3・4		○	○								○		61.6%	4.8%	64.2%	4.5%							話し合いが目的に応じて適切に進行するように、提案者や参加者の発言を整理したり、促したり、まとめたりすることができるか。	
17			一	小2	○					○					○	71.8%		0.9%	73.8%		1.0%					場面の様子について、登場人物の言動を中心に創造を広げながら読むことができるか。		
18			二	小4	○					○					○	14.9%		9.6%	14.8%		11.6%					場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に想像して読むことができるか。		
19			①表現	小5		○				○					○		53.3%	11.2%	55.1%	11.6%						登場人物の心情、場面についての描写を捉えることができるか。		
20			②効果	小5		○				○					○		55.7%	11.7%	56.1%	12.1%						優れた叙述について自分の考えをまとめることができるか。		
21			①	小5	○					○					○	87.8%		0.6%	88.1%		0.7%					筆者の意図や思考を想定して読むことができるか。		
22			②	小5	○					○					○	86.1%		0.6%	86.8%		0.7%							
23			③	小5	○					○					○	58.3%		0.9%	58.8%		1.2%						文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えることができるか。	
24			①	小5		○				○					○		37.2%	19.7%	36.5%	22.1%						事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるか。		
25			②	小5		○				○					○		23.2%	24.8%	22.6%	27.6%						目的に応じて適切な文章を複数選んで読むことができるか。		
26			③	小5		○				○					○		43.9%	25.1%	41.3%	28.2%						目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができるか。		
計		問題数	20	6	3	3	7	13	3	3	7	13																
		出題割合	76.9%	23.1%	11.5%	11.5%	27.0%	50.0%	11.5%	11.5%	27.0%	50.0%																
		通過率	73.1%	45.8%	4.8%	73.8%	46.0%	5.2%																				
			66.8%			67.4%																						

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問1-2-2 (小3 ローマ字)、大問2-4 (小2 主語・述語) 【基礎・基本】

ひよこ

↓

四 次の文の主語として、適切なものをアからエの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

ア わたしの  
イ 家で  
ウ 梅の  
エ 花が  
さいた。

ローマ字 平均通過率		
市	県	差
60.8%	62.4%	-1.6

主語と述語の関係 平均通過率		
市	県	差
67.1%	67.4%	-0.3

指導のポイント

2問とも、これまでも類似の問題が出題されており、引き続き課題である。

ローマ字に関しては、固有名詞をローマ字に直す学習を意図的に繰り返して定着を図りたい。

主述の関係については、述語を特定してから主語を探す取組を繰り返して確実に定着を図りたい。

(イ) 大問5-2 (小5 事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを、明確にしながらか読むことができる。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりできる。【思考・表現】

「人間が自然とかかわりながら自然を守る立場」

考	え	理	由	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ	と	し	た
資	料	を	上	段
「	考	え	」	は
二	十	字	以	内
で	書	き	、	も
と	に	し	た	資
料	を	下	段	に
書	く	こ	と	し
た	資	料	を	上
段	「	考	え	」
は	二	つ	つ	上
の	以	上	の	資
の	料	を	関	係
付	け	て	書	く
こ	と	中	段	「
理	由	」	は	五
十	字	以	内	で
書	き	、	も	と
に	し	た	資	料
を	下	段	に	書
く	こ			

(5) 中学校第1学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	大問	中間	小問	出題学年	問題内容別		内容領域別				観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図										
					基礎・基本	思考・表現	話す・聞くこと	書くこと	読むこと	伝達	話す・聞く	書く	読む	言語	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現		無解答率									
1			1	中1・小4	○					○				○	79.5%		1.6%	81.6%		1.0%			中学校新出音訓を正しく読むことができるか。										
2			2	中1	○					○				○	97.2%		0.2%	97.4%		0.1%			中学校学習漢字を正しく読むことができるか。										
3			3	小6・2	○					○				○	61.5%		11.4%	65.7%		10.1%			小学校学習漢字を正しく書くことができるか。										
4			4	小3・2	○					○				○	65.8%		8.2%	69.5%		7.2%			小学校学習漢字を正しく書くことができるか。										
5	1		二	中1	○					○				○	67.4%		0.6%	66.3%		0.1%			漢字の筆順を理解し、正しい筆順を選ぶことができるか。										
6			三	中1	○					○				○	51.2%		0.9%	53.1%		0.2%			単語について理解し、単語に正しく区切ることができるか。										
7			四	1	小3	○				○				○		72.8%		9.2%		77.0%		7.5%	話し言葉を書き言葉に正しく直すことができるか。										
8			2	小3	○					○				○	87.2%		5.0%	88.6%		4.1%			案内の手紙に必要な情報を判断することができるか。										
9			一	中1	○					○				○	69.2%		0.9%	71.9%		0.3%			故事成語の意味を理解し、適切に活用することができるか。										
10			二	小5・6	○					○				○	30.7%		1.5%	34.7%		0.4%			文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、語句と語句との関係を理解したりすることができるか。										
11	2		1	中1	○					○				○	81.3%		2.4%	82.8%		2.5%			歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができるか。										
12			2	中1	○					○				○	97.9%		0.2%	97.8%		0.2%			古語の意味を正しく理解することができるか。										
13			一	中1	○					○				○	57.9%		1.3%	59.8%		0.7%			必要に応じて質問したり、聞き取ったことを自分の考えと比較したりするなどして聞き取ることができるか。										
14			3	二	中1	○	○			○				○		68.1%		9.7%		69.9%		8.0%	話の全体を捉えながら聞いた内容を正しく聞き取り、聞き手として質問したり、助言したりできるか。										
15			三	中1	○	○				○				○		72.1%		11.8%		72.2%		10.1%	全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手に分かりやすく伝えることができるか。										
16			一	中1	○					○				○	65.7%		1.3%	69.1%		0.8%			文章の内容や特徴を捉えることができるか。										
17			二	中1	○					○				○	76.0%		0.9%	77.1%		0.7%			会話や発言から登場人物の心情を読み取ることができるか。										
18			3	三	中1	○				○				○		53.6%		16.8%		59.2%		14.4%	会話や発言から登場人物の心情を読み取ることができるか。										
19	4		四	中1	○					○				○	71.8%		1.5%	73.9%		1.2%			会話や話の展開から登場人物の心情を読み取ることができるか。										
20			五	中1	○					○				○	59.8%		2.0%	63.5%		1.4%			会話や話の展開から登場人物の心情を読み取ることができるか。										
21			六	中1	○					○				○		42.8%		17.8%		47.8%		14.9%	作者の意図を読み取り、自分の考えをもち、表現することができるか。										
22			一	中1	○					○				○	52.1%		3.0%	55.9%		2.1%			文章の構成や展開を的確に捉えることができるか。										
23			二	中1	○					○				○	74.6%		9.4%	76.3%		8.6%			文章中の語句が指示する意味を的確に捉えることができるか。										
24			三	中1	○					○				○	79.5%		4.1%	81.5%		4.0%			文章と図表との関連を捉え、部分に合う図表を選択できるか。										
25			四	中1	○					○				○	53.0%		13.0%	55.2%		11.2%			文の前後の関係を正しく捉え、内容の理解に役立てることができるか。										
26	5		1	中1	○					○				○	47.4%		17.0%	48.4%		15.2%			資料から目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるか。										
27			①	中1	○					○				○		55.7%		25.0%		56.8%		24.2%	文章と図表との関連を考えながら、文章を読むことができるか。										
28			②	中1	○					○				○		42.7%		27.2%		44.1%		26.1%	文章と図表との関連を考えながら、文章を読むことができるか。										
29			③	中1	○					○				○		52.8%		26.2%		57.2%		26.0%	自分の伝えたい事柄について、条件に応じて文章にまとめることができるか。										
計				問題数	21	8	3	4	11	11	3	4	11	11																			
				出題割合	72.4%	27.6%	10.4%	13.8%	37.9%	37.9%	10.4%	13.8%	37.9%	37.9%																			
															通過率																		
															68.0%			57.6%			7.9%			70.0%			60.5%			7.0%			
															65.1%						67.4%												

イ 特に課題のあった設問

(7) 大問1-2 (中1漢字の筆順)、大問2-2 (小5・6 文章理解)

【基礎・基本】

二 次の文章を読み、本文の内容から分かることとして最も適切なものを1から4の中から一つ選び、その番号を書け。

「日本とのつながり」

日本で消費される小麦、大豆、トウモロコシなどは、主にアメリカから輸入しています。アメリカは、輸出入とも中国に次ぐ貿易相手国です。また、自動車の大量生産やコンピュータ産業など、人々の生活を支える技術や産業の多くがアメリカで生まれました。

1 日本で消費される小麦、大豆、トウモロコシは、アメリカよりも中国から多く輸入している。

2 アメリカは、日本の最大の貿易相手国ではない。

3 日本は、自動車やコンピュータを主にアメリカから輸入している。

4 自動車はアメリカで生まれた。

情

二 次の漢字の→で示した部分は何画目に書くか。答えよ。

漢字の筆順 平均通過率		
市	県	差
66.3%	67.4%	-1.6

文章理解 平均通過率		
市	県	差
34.7%	30.7%	4.0

指導のポイント

漢字の筆順については、小学校と比較して中学校では時間を割かない傾向にあるが、機会を捉えて定着を図りたい。文章理解については、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、語句と語句との関係を理解したりできるように、文章中に線を引いたり、語句と語句を○で囲んだりするなどの視覚的な学習活動も取り入れて、確実に定着を図りたい。

(イ) 大問5-5-2 (文章と図表との関連を考えながら文章を読む。自分の伝えたい事柄について、条件に応じて文章にまとめることができる。) 【思考・表現】

【グラフ1】(表1をグラフ化したもの)

テスト	音読しない	音読後
①迷路テスト	88	62
②符号合わせテスト	29	32
③単語記憶テスト	8	10

2 青木さんは、②「音読のすすめ」について、学習委員会に発表することになった。発表の方法は、パソコンを用いて、スライドを映し出しながら説明することにした。その際、見ている人に分かりやすいように、文章中の表1・2を次のようにグラフ化した。あなたが青木さんだったら、どちらのグラフを用いて、どのように発表するか。発表の内容を原稿にまとめてよ。ただし、あとの【条件】に従うこと。

① (グラフの選択と内容) 平均通過率		
市	県	差
56.8%	55.7%	0.9

② (文章とグラフの関係) 平均通過率		
市	県	差
44.1%	42.7%	1.4

③ (条件に応じて書く) 平均通過率		
市	県	差
57.2%	52.8%	4.4

③ 無解答率		
市	県	差
26.0%	26.2%	-0.2

指導のポイント

複数のグラフから、自ら選択したグラフの示す内容を説明し、自分の意見を関連付けながら条件に応じた文章にまとめることが求められている。日頃から、資料と文章の関連をペアやグループで話し合わせたり、複数の資料から一つを選択して文章と関連付けて書かせたりする学習活動を取り入れて、定着を図りたい。

【グラフ2】(表2をグラフ化したもの)

状況	記憶した単語数
何もしない	10
音読をした5分後	12
音読練習を1か月続けた後	14

【条件】

① 選んだグラフのほうを、解答用紙に○で囲み、第一段落は、「こちらのグラフをご覧ください。」という書き出しに続けて、グラフの示す内容が分かるようにすること。

② 第二段落は、選択したグラフを用いて、「音読のよさ」について紹介すること。

③ 原稿は、発表するときのように話しことばで、解答用紙に六行以上八行以内で書くこと。

(6) 中学校第2学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

大問	設問			問題内容別			内容領域別			観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図			
	中問	小問	出題学年	基礎・基本	思考・表現	話す・聞く	書くこと	読むこと	伝国	話す・聞く	書く	読む	言語	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現		無解答率		
1		1	小5	○				○				○	54.8%		2.8%	54.1%		2.9%				小学校学習漢字(訓)が読めるか。			
2		2	中1	○				○				○	96.9%		0.3%	96.7%		0.2%				中学校で学習漢字(音)が読めるか。			
3		3	小4	○				○				○	61.6%		5.0%	63.0%		4.8%				小学校学習漢字(訓)が書けるか。			
4		4	小4・2	○				○				○	68.9%		4.3%	66.6%		4.2%				小学校学習漢字(音)が書けるか。			
5	1	1	中2	○				○				○	69.1%		0.5%	70.3%		0.4%				動詞の活用形を理解しているか。			
6		2	中2	○				○				○	82.6%		0.3%	84.6%		0.2%				接続詞のつながり方や表す意味を理解しているか。			
7		1	中2	○				○				○	59.7%		0.4%	61.7%		0.2%				敬語の種類を理解しているか。			
8		2	中2	○				○				○	47.0%		4.5%	42.0%		4.2%				敬語の特徴を捉え正しく使うことができるか。			
9		四	中2	○				○				○	43.3%		0.7%	37.1%		0.5%				行書の特徴(筆順の変化)を理解しているか。			
10		五	小5・6	○				○				○	38.4%		0.3%	42.0%		0.3%					文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、語句と語句との関係を理解したりすることができるか。		
11		2	①	中1	○				○				○	51.0%		1.7%	51.4%		1.6%				歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができるか。		
12			③	中1	○				○				○	90.2%		1.0%	91.2%		1.0%						
13			二	中1	○				○				○	41.1%		0.5%	44.2%		0.4%				古語の意味を正しく捉えることができるか。		
14			1	中2	○				○				○	90.0%		2.7%	90.9%		2.6%					古文を読み、文意を捉えることができるか。	
15	2		中2	○				○				○	91.4%		3.1%	92.0%		2.9%							
16	3	一	中2	○		○					○		83.8%		0.6%	85.3%		0.4%					話し合い活動における司会の役割を理解しているか。		
17		二	中2		○	○						○		50.4%	7.3%		51.6%	6.9%					発言を比較し、その違いに気づき、自分の考えをまとめて書くことができるか。		
18	4	一	中2	○				○				○	70.6%		0.9%	72.8%		1.0%					比喩の働きと効果を理解しているか。		
19		二	中1	○				○				○	72.1%		13.4%	74.1%		12.7%					登場人物の心情や場面の描写を捉えられるか。		
20		1	中2		○			○					○	46.1%	24.7%		49.8%	23.5%					二作品を比較し、共通点を捉えることができるか。		
21		2	中2		○			○					○	68.3%	2.9%		70.7%	3.1%					二作品を比較し、共通点を捉えることができるか。		
22	3	中2		○			○						37.8%	25.6%		39.7%	24.3%						二作品を比較しながら、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるか。		
23	5	一	中1	○				○				○	83.4%		5.9%	84.3%		5.8%					文章と図を関連付けることができるか。		
24		二	中2	○				○				○	69.4%		13.0%	69.9%		12.8%					接続詞(さらに)の働きを捉え、文章を整理して理解できるか。		
25		三	中2	○				○					○	72.2%		3.2%	75.0%		3.2%				話の構成や展開、表現の仕方について、考えをもつことができるか。		
26		④	中1		○			○					○	40.5%	22.5%		42.2%	21.8%						グラフのデータから顕著な特徴を捉えることができるか。	
27		⑤	中2		○			○					○	77.9%	6.0%		79.1%	6.1%						文章に表れているものの見方や考え方を捉えることができるか。	
28		①	中2		○		○						○		32.4%	21.7%		31.3%	19.2%					提示された情報を関連付けて、文章を読むことができるか。	
29		②	中2		○		○						○		59.7%	22.3%		62.7%	19.7%					提示された情報を関連付けて、自分の考えをもつことができるか。	
30		③	中2		○		○						○		65.9%	21.9%		69.9%	19.7%					自分の伝えたい事柄について、条件に応じて文章にまとめることができるか。	
計				問題数	21	9	2	3	10	15	2	3	10	15											
				出題割合	70.0%	30.0%	6.7%	10.0%	33.3%	50.0%	6.7%	10.0%	33.3%	50.0%											
				通過率	68.5%			53.2%			7.3%			69.1%			55.2%			6.9%					
					63.9%						64.9%														

イ 特に課題のあった設問

(7) 大問1-3-2 (中2 敬語の特徴)、大問1-4 (中2 行書の特徴) 【基礎・基本】

ア 読  
イ 打  
ウ 花

四 次の漢字の部首について、行書で書いたときと、楷書で書いたときに筆順が異なるものを一つ選び、記号で答えよ。

2 次の文にある——線部の敬語を正しく直して書け。

○田中様、新聞を拝見しましたか。

(敬語の特徴)		平均通過率
市	県	差
42.0%	47.0%	-5.0

(行書の特徴)		平均通過率
市	県	差
37.1%	43.3%	-6.2

指導のポイント

敬語の意味とその種類について、誤った使い方をしている文章を正しく直す課題に繰り返し取り組ませて、確実に定着を図る。

筆順が変わったり、点画が連続したりするなどの行書の特徴について、実際に毛筆に取り組む際に、課題となっている字以外についても例題を多く取り上げ、定着を図る。

(イ) 大問5-5 (提示された情報を関連付けて、文章を読んだり自分の考えをもつことができる。自分の伝えたい事柄について、条件に応じて文章にまとめることができる。) 【思考・表現】

図表3) 経済産業省指定の伝統工芸品の年間生産高と従事者数の推移

五 別の発表者が紹介した発表に、次のようなデータとデータの説明があった。鈴木さんの発表内容、次のデータ・説明を踏まえて、「日本の工業と伝統技術」について、七行以上八行以下であなたの考えを述べよ。

データの説明  
伝統工芸品の現状  
伝統工芸品の年間生産高については、昭和五十九年の約五千億円をピークに、年々減少し、平成二十五年は七千億に比べ五分の一の約一億四千万円にまで減少している。また、従事者(伝統工芸生産にかかわる人)も大幅な減少傾向にある。さらに、従事者の高齢化も深刻な問題となっている。

① 「日本の職人の技と心」

発表者：鈴木丸子

② 日本の花火の特徴

☆一発ずつの花火をじっくり鑑賞できる打ち上げる方法

一発のできばえを極限まで追求

☆西洋の花火は大量の花火を連続して打ち上げる方法が主流

③ 花火玉の仕組み

① (二つの観点)		平均通過率
市	県	差
31.3%	32.4%	-1.1

② (自分の考え)		平均通過率
市	県	差
62.7%	59.7%	3.0

③ (指示された字数)		平均通過率
市	県	差
69.9%	65.9%	4.0

③ 無解答率		平均通過率
市	県	差
19.7%	21.9%	-2.2

指導のポイント

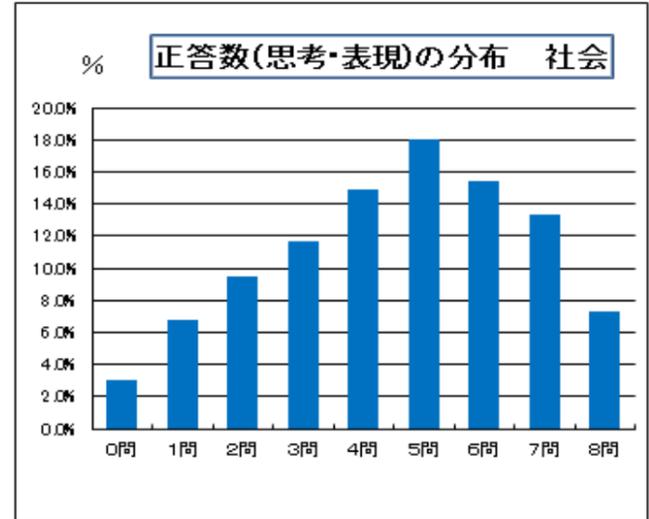
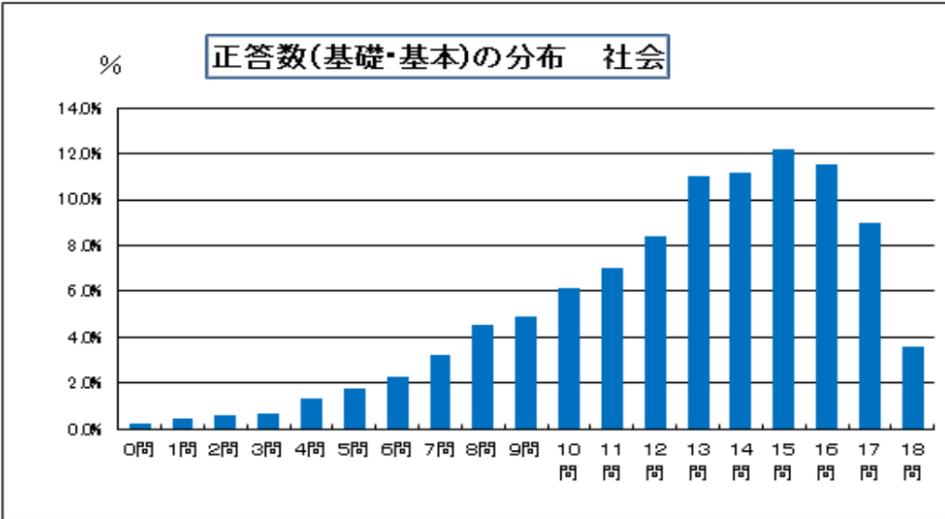
鈴木さんが行ったプレゼンテーションと、別の発表者が紹介したデータとその説明を踏まえて、自分の考えを述べる問題である。

日頃から、単元全体を通して課題解決型の学習活動を展開して、自ら発表したり他人の意見を聞いたりしながら、自分の考えを文章にまとめる取組を通じて、思考・表現する力を育みたい。

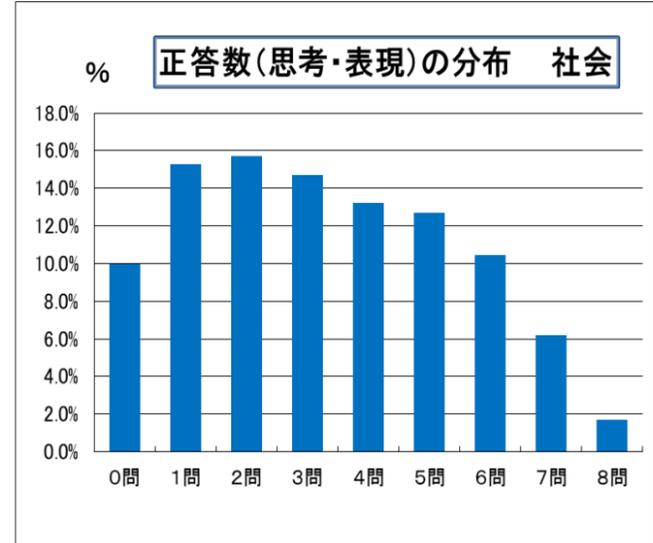
(1) 全体

学 年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
	市	県	県との差	市	県	県との差	市	県	県との差
小5	70.0%	69.4%	0.6	56.9%	57.0%	-0.1	65.9%	65.6%	0.3
中1	61.1%	59.2%	1.9	40.7%	39.3%	1.4	55.1%	53.3%	1.8
中2	63.3%	61.4%	1.9	45.6%	46.9%	-1.3	58.1%	57.1%	1.0

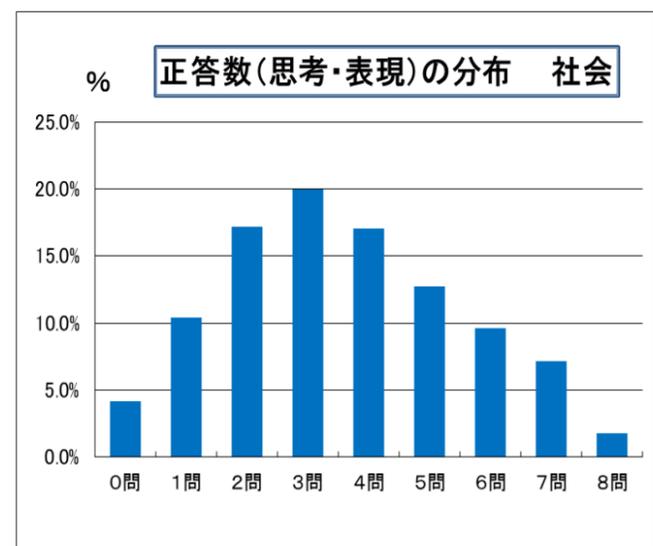
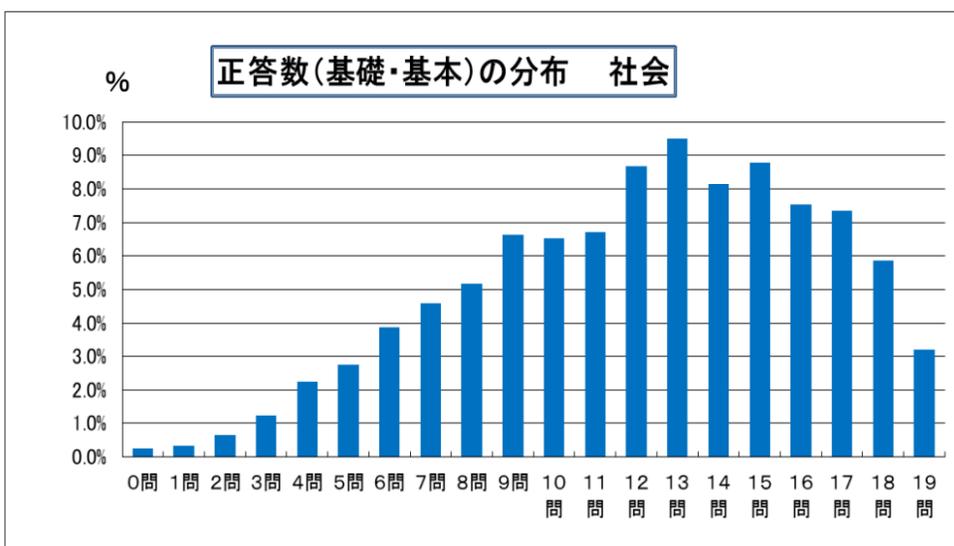
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】

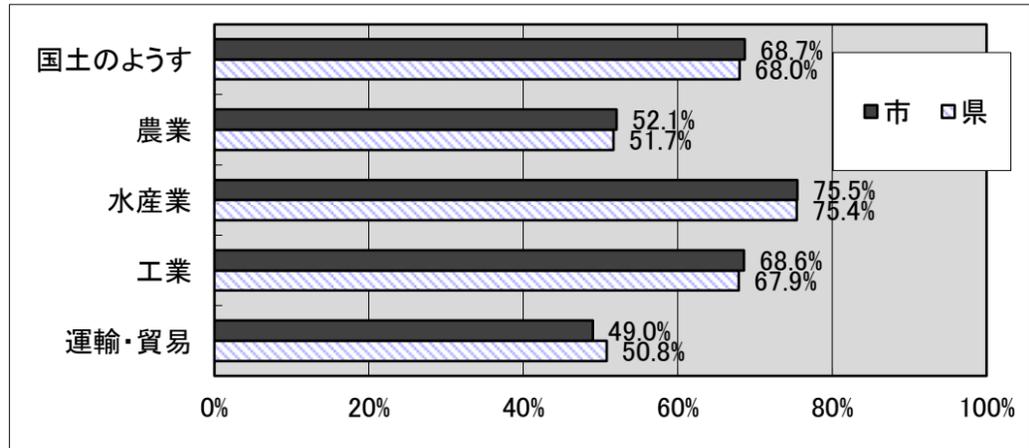


- 全体では、いずれの学年も県を上回っている。
- 「基礎・基本」では、いずれの学年も県を上回っているが、中1と中2は7割に満たない状況であり、課題が見られる。
- 「思考・表現」では、中1は県を上回っているが、小5と中2は、県を下回っており、課題が見られる。
- ◆ 考えをまとめる学習活動を行う際には、選択・判断した根拠や理由を明確にすることを意識するよう指導する。

(2) 内容・領域別平均通過率

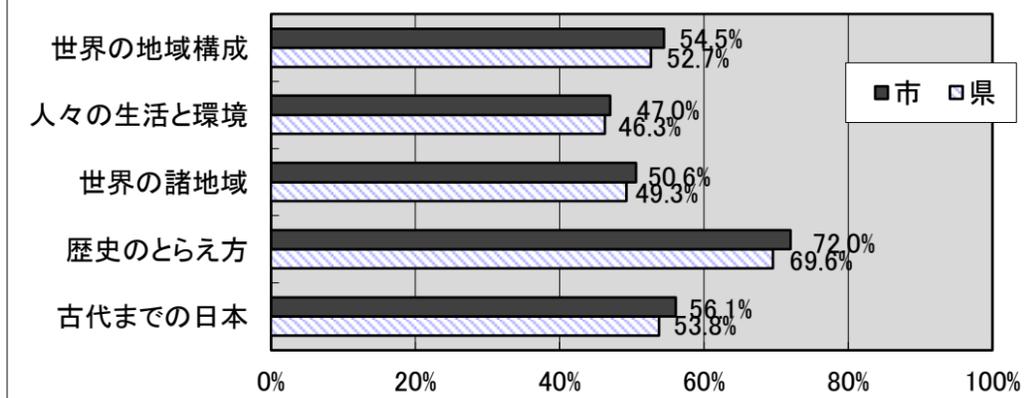
ア 小学校第5学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
国土のようす	68.7%	68.0%	0.7
農業	52.1%	51.7%	0.4
水産業	75.5%	75.4%	0.1
工業	68.6%	67.9%	0.7
運輸・貿易	49.0%	50.8%	-1.8



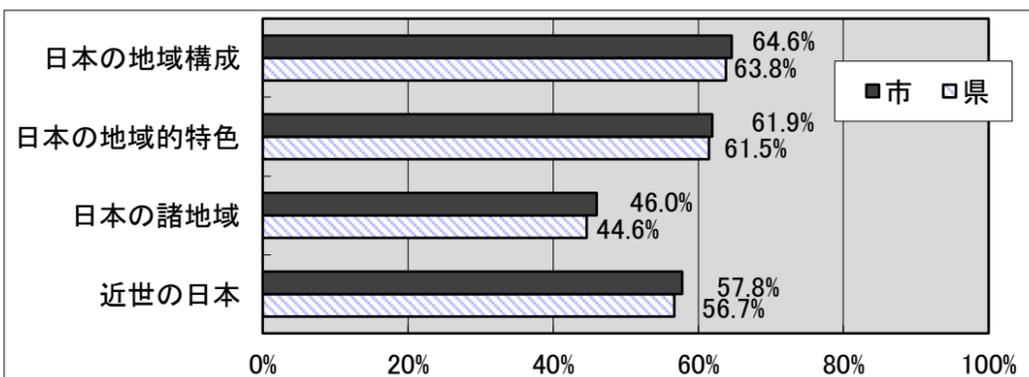
イ 中学校第1学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
世界の地域構成	54.5%	52.7%	1.8
人々の生活と環境	47.0%	46.3%	0.7
世界の諸地域	50.6%	49.3%	1.3
歴史のとらえ方	72.0%	69.6%	2.4
古代までの日本	56.1%	53.8%	2.3



ウ 中学校第2学年

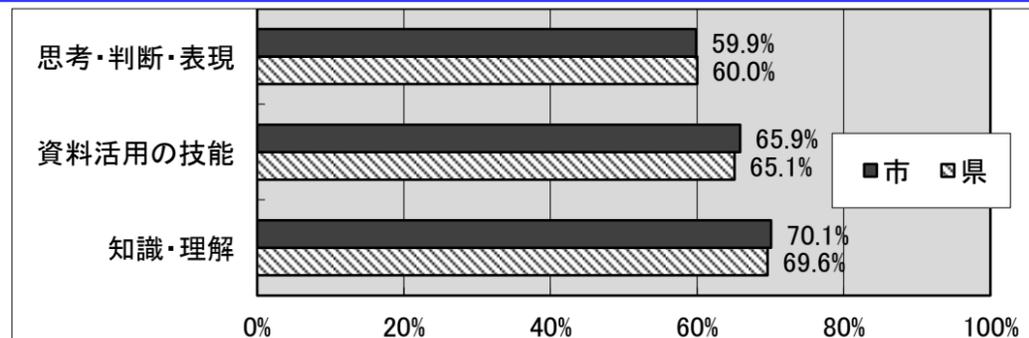
	平均通過率		県との差
	市	県	
日本の地域構成	64.6%	63.8%	0.8
日本の地域的特色	61.9%	61.5%	0.4
日本の諸地域	46.0%	44.6%	1.4
近世の日本	57.8%	56.7%	1.1



(3) 観点別平均通過率

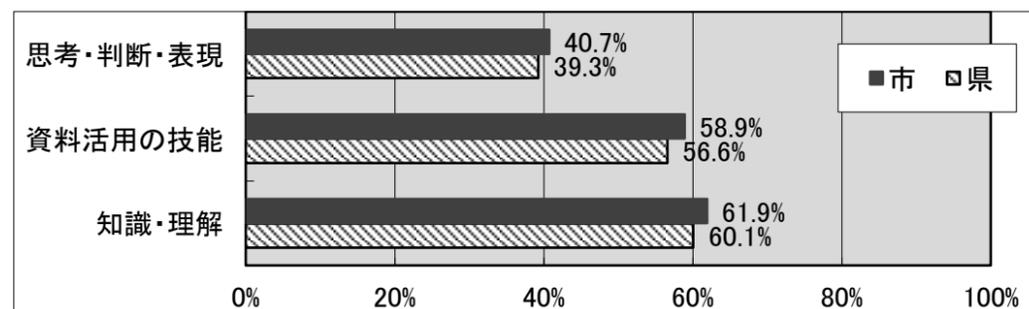
ア 小学校5年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
思考・判断・表現	59.9%	60.0%	-0.1
資料活用の技能	65.9%	65.1%	0.8
知識・理解	70.1%	69.6%	0.5



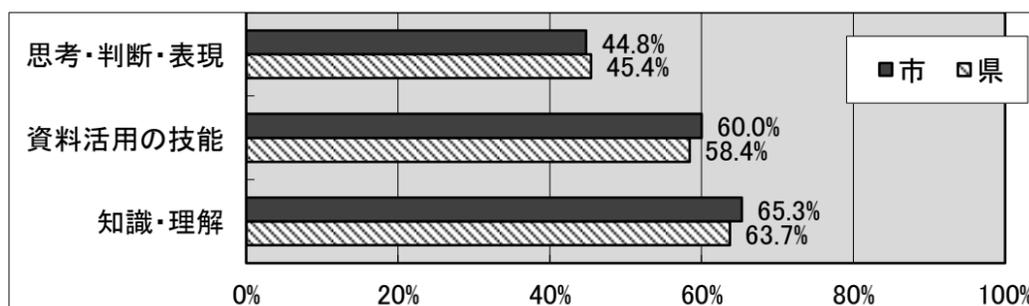
イ 中学校1年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
思考・判断・表現	40.7%	39.3%	1.4
資料活用の技能	58.9%	56.6%	2.3
知識・理解	61.9%	60.1%	1.8



ウ 中学校2年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
思考・判断・表現	44.8%	45.4%	-0.6
資料活用の技能	60.0%	58.4%	1.6
知識・理解	65.3%	63.7%	1.6



- 内容・領域別平均通過率では、小5の「運輸・貿易」において県を下回っている。
- 観点別平均通過率では、小5と中2の「思考・判断・表現」が県を下回っている。
- ◆ 説明文に関連する資料を選択させたり、資料に関連する説明文を選択させたりするなど、関連付けを意識した学習活動を取り入れる。

(4) 小学校第5学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	設問			出題学年	問題内容別		内容領域別					観点別			県通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図								
	大問	中間	小問		基礎・基本	思考・表現	国土の様子	農業	水産業	工業	運輸・貿易	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率									
1	1	1	小5	○		○							○	53.1%		12.8%	53.0%		14.8%					我が国の近隣の国々との領土をめぐる問題について理解できているか。								
2		2	小5	○		○							○	85.1%		3.7%	87.2%		3.9%					世界の主な大陸、近隣の国々の位置と名称を理解できているか。								
3		3	小5	○		○							○	69.2%		0.4%	68.1%		0.4%						我が国の領土の広がり、地図帳を用いて具体的に調べる技能が身に付いているか。							
4	2	1	小5	○		○							○	81.5%		3.2%	81.5%		3.5%					我が国の国土の地形の概要を理解できているか。								
5		2	小3・4	○		○							○	53.6%		4.2%	55.9%		4.5%					各都道府県の位置や名称を理解できているか。								
6		3	小5	○		○							○	67.9%		1.1%	68.6%		1.2%					地形に特色ある地域について、断面図を活用して調べる技能が身に付いているか。								
7		4	小5	○		○							○	70.9%		5.8%	71.9%		5.6%					我が国の国土の気候の概要を理解できているか。								
8		5	小5		思・表2	○							○		68.8%	2.1%		68.5%	2.1%						家屋の特徴を、それぞれの地域の気候と関連付けながら考え、説明することができるか。							
9	3	1	① 小4	○		○							○	61.5%		1.3%	63.6%		1.6%					資料中に示されている県の位置を理解できているか。								
10			② 小5	○		○							○	59.5%		0.8%	61.8%		0.9%					米の生産が盛んな地域とその理由を自然条件と関連付けてとらえることができるか。								
11		2	小5	○		○							○	60.2%		0.5%	55.8%		0.6%					米作りの作業の内容や手順について、理解できているか。								
12	3	1	小5	○		○						○	37.3%		6.9%	40.4%		7.4%						トレーサビリティの考え方を理解し、見学や観察の視点として身に付けることができるか。								
13		2	小5		思・表2	○						○		49.9%	9.9%		50.3%	10.7%						食料自給率を上げていくための具体的な取組について考えたことを表現できているか。								
14	4	1	小5											—	—	—	—	—	—					—								
15		2	小5	○									○	91.6%		1.9%	89.8%		2.4%					凡例やデータ値に注意しながら、資料を正しく読み取ることができるか。								
16		3	小5		思・表1								○		50.3%	11.6%		52.1%	12.4%					水産業が盛んな地域について、自然条件と関連付けて考えたことを説明することができるか。								
17		1	小5	○									○	85.8%		0.9%	86.5%		1.1%					遠洋漁業が大きく漁獲量を減らしたことを資料から読み取ることができるか。								
18		2	2	小5		思・表3							○		80.8%	1.1%		81.9%	1.2%					遠洋漁業の漁獲量減少の原因を、経済水域の設定と関連付けて考えることができるか。								
19	3	小5		思・表1								○		68.6%	9.0%		67.4%	9.6%						水産業の課題について、資料から読み取ったことをもとに考え、表現することができるか。								
20	5	1	小5		思・表3							○		83.6%		1.8%	84.2%		2.2%					自動車工場と関連工場との関係を資料をもとに考え、指摘することができるか。								
21		2	小5	○								○	69.5%		1.6%	71.9%		1.9%						組立工場の工夫について理解できているか。								
22		3	小5		思・表2								○		50.5%	9.2%		51.1%	9.8%						価格及び費用と、消費者のニーズとを関連付けて考え、説明することができるか。							
23		4	小5		思・表3								○		54.5%	3.1%		54.3%	3.6%						自動車をはじめとする工場の海外生産のメリットについて考え、判断することができるか。							
24	6	1	小5	○								○	61.7%		9.8%	64.4%		10.8%						中京工業地帯の名称と位置を理解できているか。								
25		2	小5	○								○	87.5%		4.9%	86.0%		5.8%						工業が盛んな太平洋ベルトの名称と位置を理解できているか。								
26		3	小5	○									○	68.9%		4.7%	68.5%		6.0%						工業の原材料や製品の輸送手段の特徴を理解できているか。							
27		4	小5		思・表1								○		32.7%	16.8%		29.5%	18.4%						工業地帯等の立地条件を、工業の種類や輸送手段と関連付けて考え、説明することができるか。							
計				問題数	17	9	9	4	5	6	2	9	4	13																		
				出題割合	65.4%	34.6%	34.6%	15.4%	19.2%	23.1%	7.7%	34.6%	15.4%	50.0%																		
														通過率																		
														69.4%			57.0%			5.0%			70.0%			56.9%			5.5%			
														65.6%			65.9%															

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問3 第5学年「日本の食料生産」

(2) 次のA～Dは、米作りの作業内容を表した写真です。それぞれの作業内容に適する写真をA～Dから一つずつ選び、下の□の中に、その記号を書きましょう。

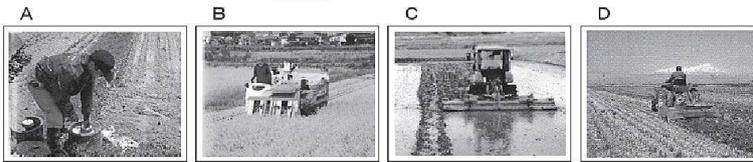
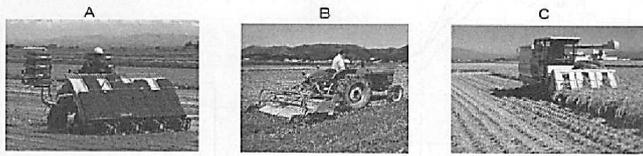


写真	□	□	□	□	□
作業内容	田おこし	しろかき	田植え	水の管理	いねかり

《平成28年度の問題》

(2) 次のA～Cは、米作りの作業を表した写真です。それぞれの機械が行っている作業は何ですか。また、どの順番で作業を行いますか。□の中に、作業内容を下のア～ウから一つずつ選び、その記号を、また、作業の順番を1～3の数字で書きましょう。



(作業内容)  
ア 稲刈り  
イ 田植え  
ウ 田おこし・しろかき

写真	A	B	C
作業内容	□	□	□
順番	□	□	□

【基礎・基本】

平成29年度平均通過率		
市	県	差
55.8%	60.2%	-4.4
平成28年度平均通過率		
市	県	差
70.9%	71.1%	-0.2
平成27年度平均通過率		
市	県	差
47.2%	51.9%	-4.7

指導のポイント

平成27年度から3年連続で出題されているが、引き続き課題であることから、定着の低い調査問題については、年間指導計画に朱書きするなどして、授業の中で確実に理解し、定着が図られるようにする。また、日頃から資料集や写真、映像等を活用して実生活に結び付き、児童の興味関心を高める工夫をする。

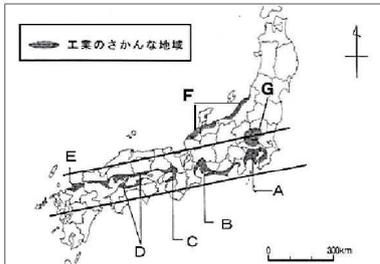
(イ) 大問6 第5学年「日本の工業（運輸・貿易）」

【思考・表現2】

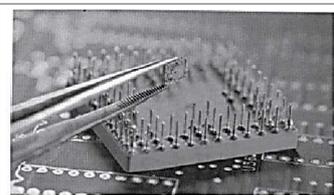
⑥ 次のA～Cは、見さんたちが日本の工業について、資料をもとに話し合っているところです。これを読んで各問いに答えましょう

見さん： 資料1から、日本には、工業がさかんな地域が全国各地にあることが分かるよ。  
和さん： その中でも、Bの(①)工業地帯は、工業生産額が最も高い工業地帯だよ。  
見さん： そうだね。②工業が盛んな地域の多くは、太平洋側の海沿いの地域に多く、帯のように広がっているよ。これは、どうしてなのかな。  
裕さん： 工業製品や③その製品の輸出方法と関係があると思うよ。  
見さん： 例えば、原材料や燃料を船で運んだり、工場ですでにできた製品を船で出荷したりするのに便利だから、海沿いに工業地帯や工業地域が広がっていると思うよ。  
和さん： でも、④Gの地域は、海沿いではなく、内陸部にあるよ。どうしてかな。  
見さん： 裕さんの考えをもとに、資料2を見ながらみんなでさらに話し合ってみよう。

(資料1) 日本の工業のさかんな地域



(資料2) 内陸部の工場で生産されるICチップ



コンピュータや携帯電話などに使われており、中には1mm以下の大きさのものもある。多くの情報を処理できる。

(4) 下線④について、Gの地域のように工業がさかんな地域が内陸部にある理由を、資料2や裕さんの考えをもとに、下の□の中に書きましょう。

平均通過率		
市	県	差
29.5%	32.7%	-3.2
無解答率		
市	県	差
18.4%	16.8%	1.6

指導のポイント

平均通過率が、3割を下回り、県よりも3.2ポイント下回っており課題である。  
資料(地図、写真、グラフ、表等)にどのような内容が書かれているのか、自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする活動を充実させる。  
また、複数の資料の関連を多面的・多角的に捉えられるように、比較・関連付け等を意識した授業づくりを行う。  
工業製品等イメージが容易でないものについては、児童の実生活と関連付けられるよう資料提示を工夫をする。

(5) 中学校第1学年

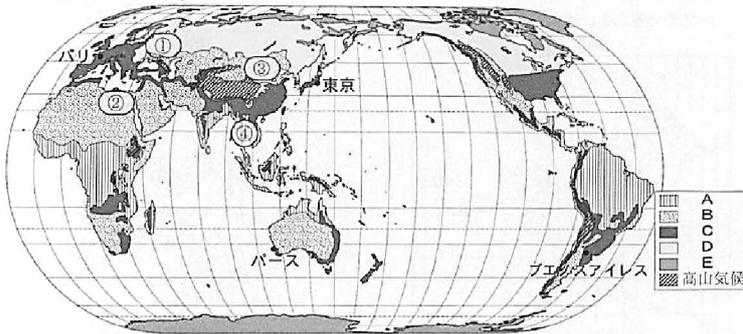
ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	問題内容別			内容領域別					観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図				
	大問	中間	小問	基礎・基本	思考・表現	世界の地域構成	世界各地人の生活と環境	世界の諸地域	歴史のらえ方	古代までの日本	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本		思考・表現	無解答率		
																								出題学年	基礎・基本
1		1	中1	○		○						○	69.6%		0.2%	70.4%		0.1%				赤道が地図上のどこを通過しているかを理解できているか。			
2		2	中1	○		○						○	53.1%		0.5%	55.2%		0.5%				地球上の位置を、緯度と経度で示すことができるか。			
3		3	中1	○		○						○	46.0%		0.9%	47.3%		0.8%				球体の地球の見えていない部分の大陸とその位置を、地図と関連付けて理解できているか。			
4		4	中1		思・表2	○						○		42.3%	2.8%		45.1%	2.8%				選択した根拠として地図の特色を正しく表現することができているか。			
5		1	中1	○			○					○	42.7%		1.2%	43.7%		0.8%				気候帯の特色とその分布を理解できているか。			
6		2	中1	○			○					○	52.6%		1.1%	52.4%		0.9%				遊牧や住居より、モンゴルで暮らす人々の生活の様子を理解できているか。			
7		3	中1		思・表2		○					○		9.5%	5.9%		9.5%	6.2%				雨温図から他の地域との違いを読み取り、地中海性気候の特色を説明することができているか。			
8		4	中1	○			○					○	80.4%		0.9%	82.3%		0.8%				三大宗教の特徴について理解できているか。			
9		1	中1	○				○				○	59.2%		0.4%	61.2%		0.3%				イギリスの位置を地図上で正しく理解できているか。			
10		2	中1		思・表3			○				○		44.7%	1.2%		45.4%	1.2%				農業分布図、写真資料や統計資料から、地中海式農業の分布を判断することができているか。			
11		3	中1		思・表2			○				○		39.2%	12.8%		39.0%	10.8%				拡大するEUの課題について、資料から読み取れることをもとに説明することができているか。			
12		4	中1	○				○				○	61.2%		0.5%	61.9%		0.6%				アジアの自然環境について理解できているか。			
13		5	中1	○				○				○	36.8%		11.9%	39.1%		11.4%				東南アジアの地域連合の名称を理解できているか。			
14		6	中1	○				○				○	54.8%		1.4%	57.1%		1.7%				主題図や統計グラフの読み取りができているか。			
15		1	中1		思・表3				○	○				46.5%	0.8%		48.3%	0.7%				各古代文明の位置と特色について正しく説明している文を選択できるか。			
16		2	中1	○					○			○	62.7%		2.9%	63.6%		2.9%				縄文時代の思想を反映している土偶を理解できているか。			
17		3	中1	○					○			○	32.7%		0.9%	35.2%		0.8%				弥生時代の日本と東アジアの交流を理解できているか。			
18		4	中1	○					○			○	75.3%		4.3%	78.2%		4.1%				大和政権による支配の仕組みについて理解できているか。			
19		5	中1		思・表1				○	○				57.3%	6.3%		58.7%	5.9%				弥生時代における農耕文化の広まりと社会の変化について説明することができるか。			
20		1	中1	○					○			○	75.4%		9.8%	78.2%		8.9%				飛鳥時代の政治の改革を理解できているか。			
21		2	中1		思・表1				○	○				36.8%	22.3%		39.0%	20.5%				飛鳥時代の日本と東アジアの国々との関係について、正しく説明することができるか。			
22		3	中1	○					○			○	67.4%		12.2%	71.1%		10.7%				飛鳥時代に目指された政治について理解できているか。			
23		4	中1		思・表1				○	○				38.5%	15.4%		40.5%	13.6%				奈良時代の農民の生活の様子について、資料を基に説明することができるか。			
24		5	中1	○					○			○	45.8%		14.5%	48.1%		13.8%				桓武天皇が政治を立て直すために遷都した平安京を理解できているか。			
25		1	中1	○					○			○	61.5%		1.6%	63.7%		1.4%				世紀の表し方を理解できているか。			
26		2	中1	○					○			○	59.1%		13.4%	61.3%		13.4%				時代を区分する表し方を理解できているか。			
27		3	小6	○					○			○	88.0%		1.2%	91.1%		1.0%				小学校で学習した歴史上の人物について理解できているか。			
計	問題数			19	8	4	4	6	3	10	8	5	14												
	出題割合			70.4%	29.6%	14.8%	14.8%	22.2%	11.1%	37.1%	29.6%	18.5%	51.9%												
													通過率			59.2%	39.3%	5.5%	61.1%	40.7%	5.1%				
																53.3%			55.1%						

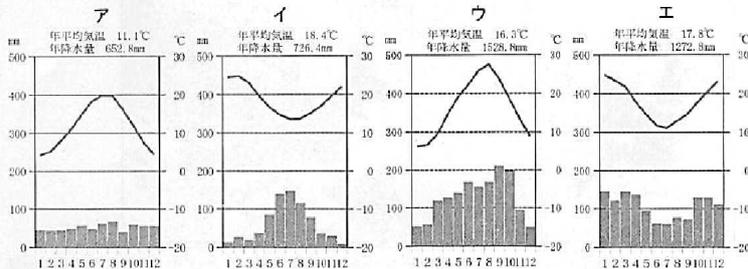
イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問2 第1学年「世界の気候」

② 次の地図や写真を見て、各問いに答えなさい。  
(地図)



(3) 次のア～エは、地図中の温暖(温帯)湿潤気候である東京とブエノスアイレス、西岸海洋性気候のパリ、地中海性気候のパースのいずれかの都市の気温と降水量を示したグラフである。地中海性気候であるパースのグラフはどれか、ア～エから一つ選び、記号で答えよ。また、地中海性気候の特色を、他のグラフと比べて説明せよ。



〔データブック オブ・ザ・ワールド2017年版〕より作成

(イ) 大問3 第1学年「ヨーロッパ」

(3) EU (ヨーロッパ連合) には、多くのヨーロッパの国々が加盟している。経済的・政治的な統合を進めているなかで、近年多くの課題も抱えている。どのような課題が見られるか。資料3と資料4から読み取れることを「格差」という語句を使って説明せよ。

(資料3) 2004年以降のEU加盟国



(資料4) EU各国の国民総所得(一人あたり)



【思考・表現2】

平成29年度平均通過率		
市	県	差
9.5%	9.5%	0
平成28年度平均通過率		
市	県	差
34.0%	29.6%	4.4

指導のポイント

平均通過率が1割を切っており、課題である。

気候についての授業では、まず、地図で国や都市の位置(緯度)を確実に押さえること。そして、気温が高い夏に少雨か気温の低い冬に少雨なのかなど、気温の変化と降水量の関係、植生の特徴等、他地域と比べる視点を意識した授業づくりをする。

【思考・表現2】

平均通過率		
市	県	差
39.0%	39.2%	-0.2
無解答率		
市	県	差
10.8%	12.8%	-2.0

指導のポイント

県の平均通過率を0.2ポイント下回っており課題である。

資料(写真、グラフ、表等)から読み取れる内容と地図が関連付けられるように、着目する視点を明確にし、課題を追究したり解決したりする活動を効果的に取り入れる。

また、無解答率も1割を越えていることから、授業の終末段階で自分の考えを書く活動を効果的に取り入れる。その際、考えたことや選択・判断したことを根拠や理由を基に記述させる活動を入れる。

(6) 中学校第2学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	大問	中問	小問	出題 学年	問題内容別		内容領域別				観点別			県通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図
					基礎・ 基本	思考・ 表現	日本の 地域 構成	日本の 地域 的特色	日本の 諸 地域	近 世 の 日 本	思考・ 判断・ 表現	観 察・ 資 料 活 用	知 識・ 理 解	基礎・ 基本	思考・ 表現	無解答率	基礎・ 基本	思考・ 表現	無解答率	基礎・ 基本	思考・ 表現	無解答率	
1			1	中2	○		○					○		48.4%		3.0%	49.4%		3.1%				地図上の経線を使って、時差について正しく指摘できるか。
2			2	中2	○		○					○		70.2%		0.6%	74.0%		0.5%				日本と同緯度、同経度にある国を地図上で正しく指摘できるか。
3	1		3	小5中2	○		○					○		57.6%		14.2%	56.7%		14.3%				竹島の位置と名称を正しく理解できているか。
4			4	中2	○		○					○		66.6%		8.2%	65.8%		6.7%				領土の面積よりも領海・排他的経済水域の面積の方がはるかに広いことを理解できているか。
5			5	小4中2		思表3	○					○			76.1%	1.6%		77.2%	1.3%				地域のさまざまな特色をもとに、都道府県の名称と位置を判断することができるか。
6			1	中2	○		○					○		80.3%		0.3%	81.6%		0.3%				世界の造山帯の分布について理解できているか。
7			2	中2	○		○					○		49.2%		0.4%	52.7%		0.3%				日本の地形の特色の一つである扇状地について理解できているか。
8	2		3	中2	○		○					○		64.5%		1.7%	65.0%		1.5%				気候に影響を与える季節風について、雨温図、地図、模式図を関連付けて理解できているか。
9			4	中2		思表2	○					○			82.5%	1.7%		81.2%	1.5%				少子高齢化について、グラフから読み取って説明することができるか。
10			5	中2		思表2	○					○			30.9%	5.3%		28.8%	4.6%				日本の発電所の分布について、発電所の立地条件から説明することができるか。
11			1	小4中2	○							○		43.4%		0.6%	46.4%		0.6%				シラス台地の分布やその特徴について理解できているか。
12			2	中2	○							○		33.8%		7.4%	36.5%		6.4%				砂浜海岸の分布やその特徴について理解できているか。
13	3		3	中2		思表2						○			35.2%	14.8%		32.7%	13.2%				連絡橋等の整備の結果、人や物の流れが活発になり、時間距離が短縮したことを説明できるか。
14			4	小5中2	○							○		65.9%		10.0%	68.4%		8.6%				阪神工業地帯について、名称と位置、生産割合の変化を理解できているか。
15			1	中2	○							○		54.9%		0.5%	58.2%		0.5%				新航路の開拓について理解できているか。
16			2	小6中2	○							○		93.6%		0.4%	94.0%		0.3%				我が国のキリスト教の伝来について理解できているか。
17	4		3	小6中2		思表3						○			31.2%	0.9%		31.3%	0.8%				豊臣秀吉による全国統一に関する動きについて相互の関係を判断することができるか。
18			4	小6中2		思表2						○			42.8%	13.8%		46.0%	13.1%				太閤検地とその影響について、資料と関連付けながら説明することができるか。
19			5	中2	○							○		51.5%		0.9%	53.3%		0.7%				桃山文化を代表する作品について理解できているか。
20			1	中2		思表2						○			37.5%	21.5%		36.4%	20.3%				武家諸法度により、幕府がどのような目的で全国の大名を取りしめたかを説明できるか。
21			2	小6中2	○							○		72.8%		0.7%	75.1%		0.7%				江戸時代の身分制度について理解できているか。
22			3	中2	○							○		77.0%		0.7%	78.6%		0.6%				鎖国以前の江戸幕府の外交関係について理解できているか。
23			4	小6中2	○							○		69.2%		3.9%	71.7%		3.3%				鎖国下の江戸幕府の外交関係について理解できているか。出島の位置を理解できているか。
24			1	小6中2	○							○		45.3%		18.9%	48.4%		17.1%				大阪に置かれた諸藩の蔵屋敷の名称とその役割について理解できているか。
25			2	中2		思表2						○			26.4%	12.2%		24.6%	10.7%				江戸時代の幕政改革の名称とその理由を、改革前の世の中の様子から読みとり、説明できるか。
26			3	中2	○							○		59.8%		1.3%	60.6%		1.3%				町人を担い手とした元禄文化について理解できているか。
27			4	小6中2	○							○		72.7%		1.1%	72.8%		1.1%				化政文化を代表する人物について理解できているか。
計				問題数	19	8	5	5	4	13	8	6	13										
				出題割合	70.4%	29.6%	18.5%	18.5%	14.8%	48.2%	29.6%	22.2%	48.2%										
				通過率								61.4%	46.9%	5.4%	63.6%	44.8%	4.9%						
												57.1%			58.1%								

イ 特に課題のあった設問

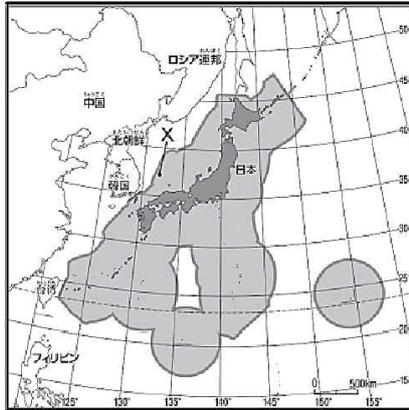
(ア) 大問1 小学5年、第2学年「日本の諸地域」

(3) 資料1は、地図2中のXの島の写真である。この島の周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行っており、1905年に国際法に基づき島根県に編入している日本固有の領土である。しかし、1952年以降、韓国が現在まで不法に占拠したため日本は抗議を重ね、国際社会での話し合いを提案しているが韓国側から拒否されている。この島の名前を漢字で答えよ。

(資料1) Xの島の写真



(地図2) 日本の領海と排他的経済水域



【基礎・基本】

平均通過率		
市	県	差
56.7%	57.6%	-0.9
無解答率		
市	県	差
14.3%	14.2%	0.1

指導のポイント

平均通過率が県を0.9ポイント下回っている。

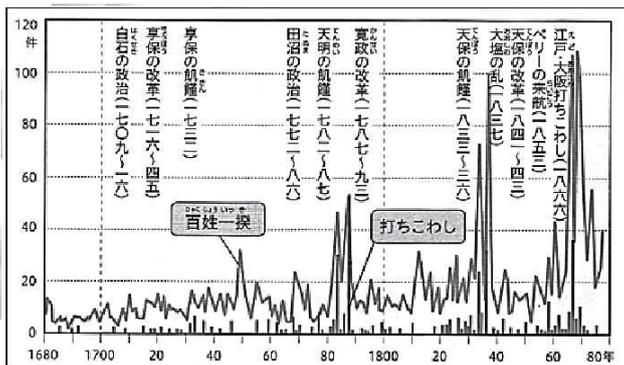
知識・理解の確実な定着を図るために、地球儀や地図、写真等の資料を活用し、資料から読み取ったことを基に自分の考えをまとめたり、話し合ったりする活動を充実させる必要がある。

地図の取扱いに当たっては、教科書に掲載されているものだけではなく、地図帳や掛け地図なども効果的に活用し、習得を図る必要がある。

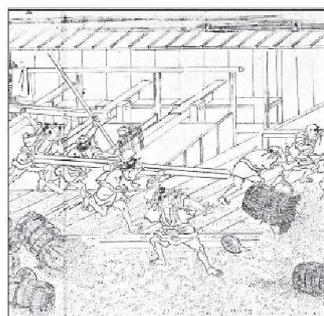
(イ) 大問6 第2学年「江戸時代」

(2) 18世紀後半、老中になった松平定信は、政治と経済を立て直すために改革を行った。松平定信が行った改革を資料2中から選び、改革名を答えよ。また、なぜこの改革を行うことになったのか、資料2、資料3を参考にして人々の生活の変化を読み取り、説明せよ。

(資料2) 百姓一揆・打ちこわしの発生件数の移り変わり



(資料3) 打ちこわしの様子



【思考・表現2】

平均通過率		
市	県	差
24.6%	26.4%	-1.8
無解答率		
市	県	差
10.7%	12.2%	-1.5

指導のポイント

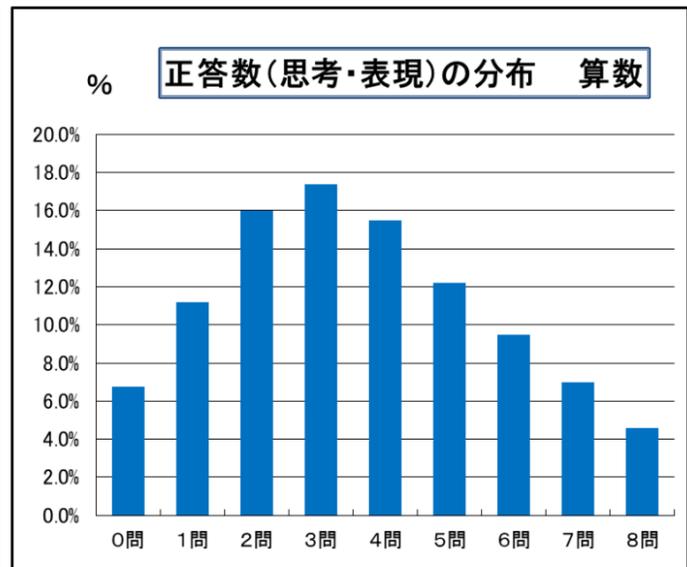
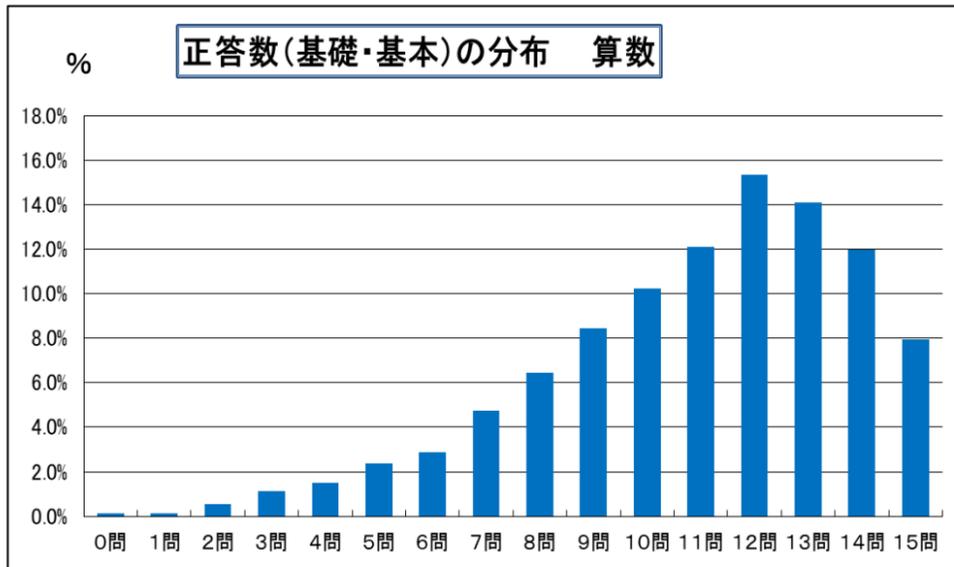
資料を読み取り説明することが求められる太閤検地や寛政の改革に関する問題は、無解答率が1割を超え、平均通過率も低いことから課題である。

自分の考えをまとめたり、話し合ったりして知識・理解を深める授業を重視するとともに、地図、グラフ、写真等の資料(史料)を活用し、社会的事象の特色等を事実と関連付けて説明し合う活動の充実を図る必要がある。

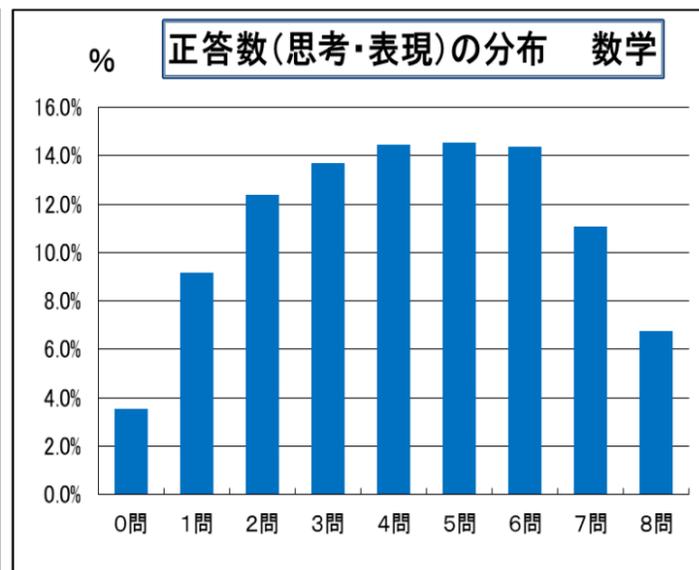
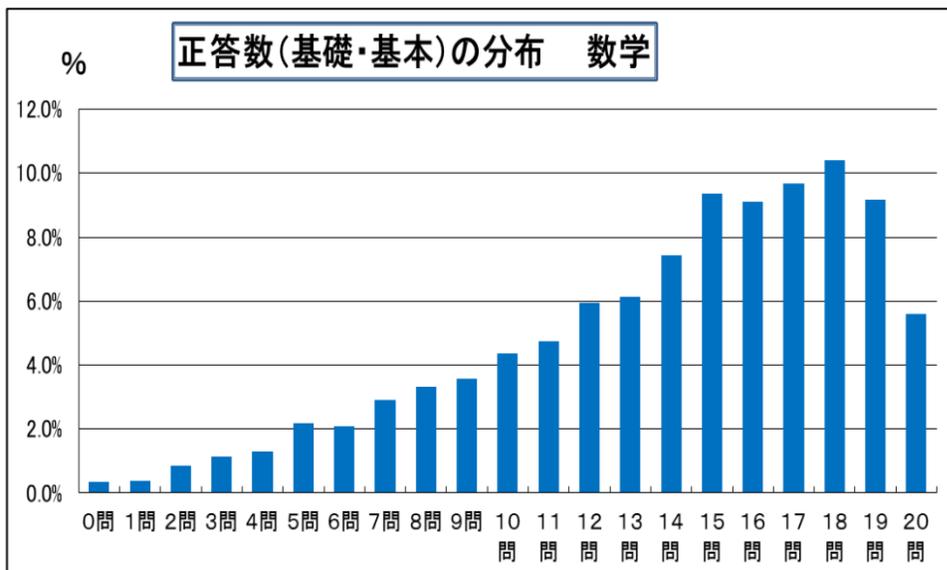
(1) 全体

学 年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
	市	県	県との差	市	県	県との差	市	県	県との差
小5	72.7%	72.6%	0.1	45.1%	43.9%	1.2	63.1%	62.7%	0.4
中1	69.5%	67.7%	1.8	52.9%	50.6%	2.3	64.8%	62.8%	2.0
中2	67.7%	66.8%	0.9	46.0%	44.3%	1.7	60.2%	59.0%	1.2

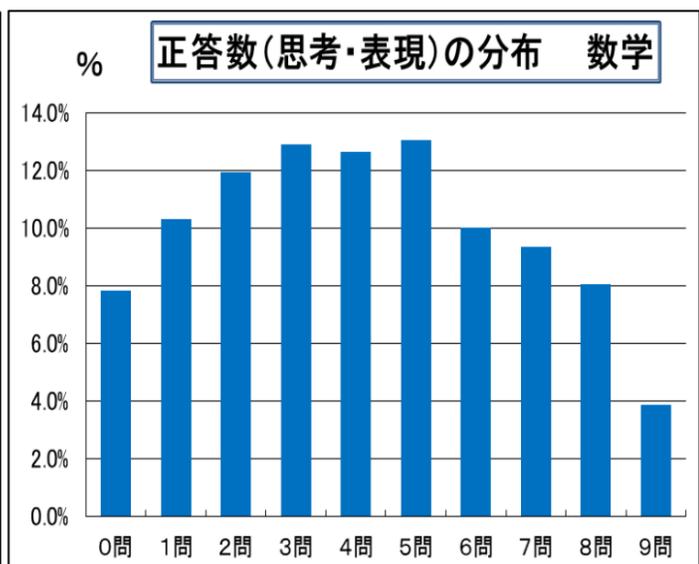
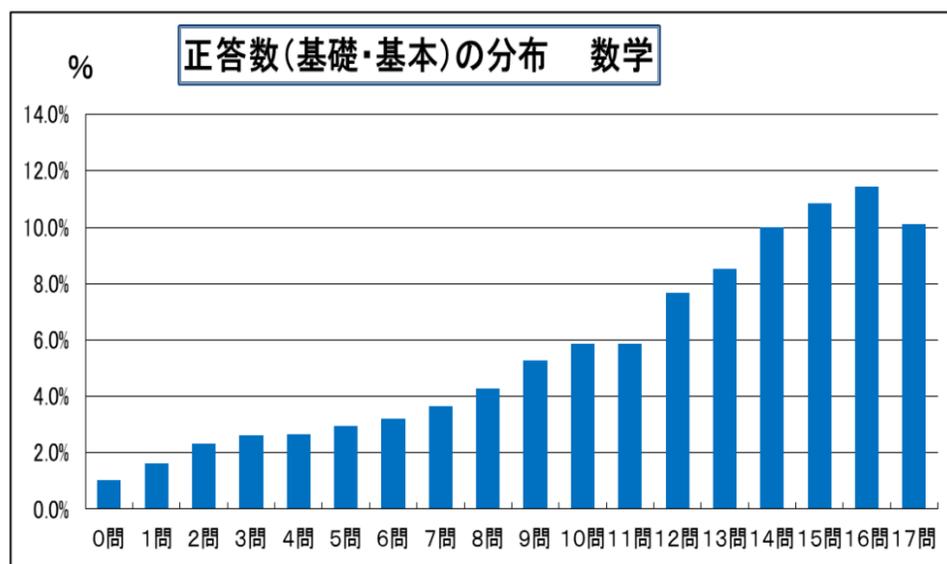
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】

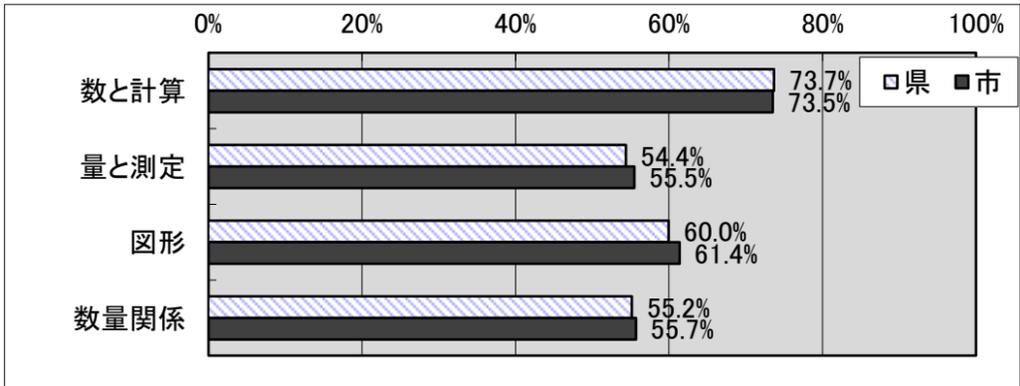


- 全体では、県平均を上回っているが、いずれの学年も7割に満たない状況にある。
- 「基礎・基本」では、いずれの学年も県を上回っているが、中1と中2は7割に満たない状況であり、課題が見られる。
- 「思考・表現」では、中1は5割を上回ったが、小5と中2では、5割を下回っており、課題が見られる。
- ◆ 基本的な概念や原理・原則を確実に定着させた上で、それらを活用して深く考え理解させる指導を重視する。

(2) 内容・領域別平均通過率

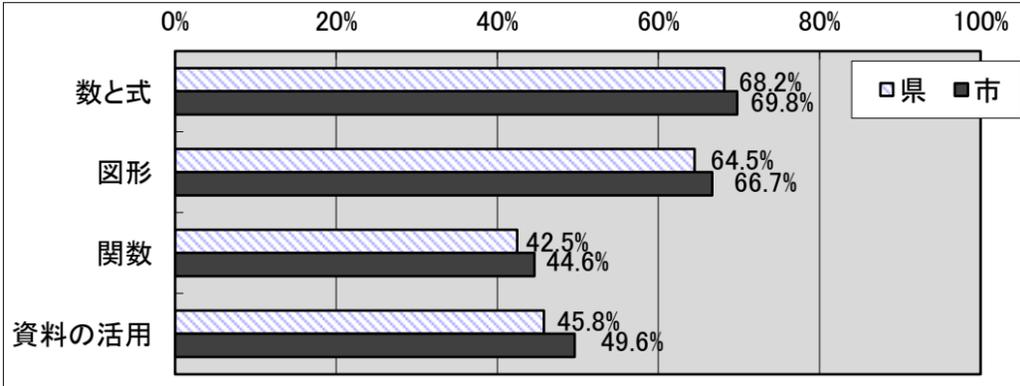
ア 小学校第5学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
数と計算	73.5%	73.7%	-0.2
量と測定	55.5%	54.4%	1.1
図形	61.4%	60.0%	1.4
数量関係	55.7%	55.2%	0.5



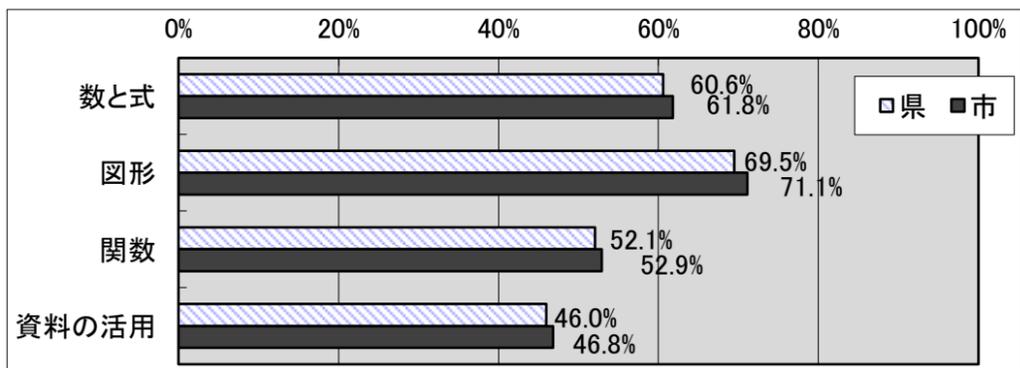
イ 中学校第1学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
数と式	69.8%	68.2%	1.6
図形	66.7%	64.5%	2.2
関数	44.6%	42.5%	2.1
資料の活用	49.6%	45.8%	3.8



ウ 中学校第2学年

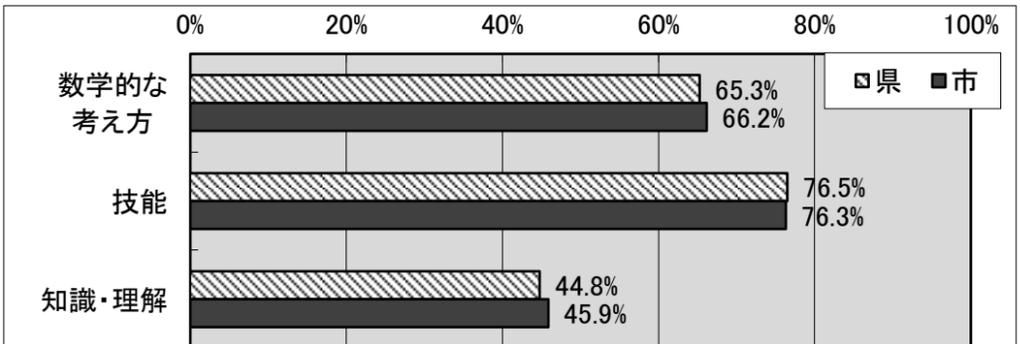
	平均通過率		県との差
	市	県	
数と式	61.8%	60.6%	1.2
図形	71.1%	69.5%	1.6
関数	52.9%	52.1%	0.8
資料の活用	46.8%	46.0%	0.8



(3) 観点別平均通過率

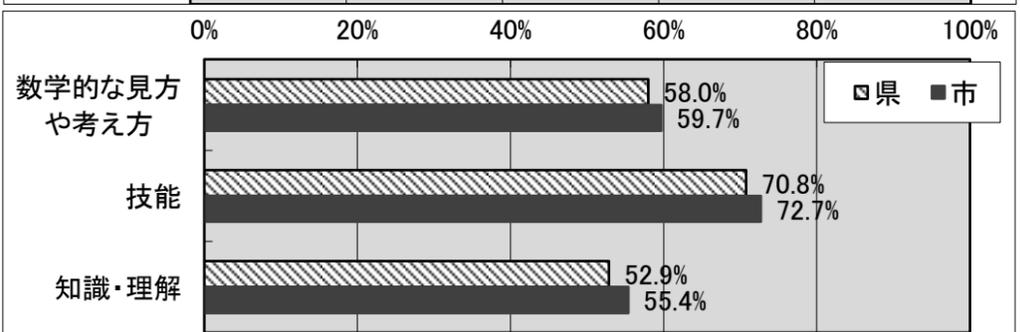
ア 小学校5年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
数学的な考え方	45.9%	44.8%	1.1
技能	76.3%	76.5%	-0.2
知識・理解	66.2%	65.3%	0.9



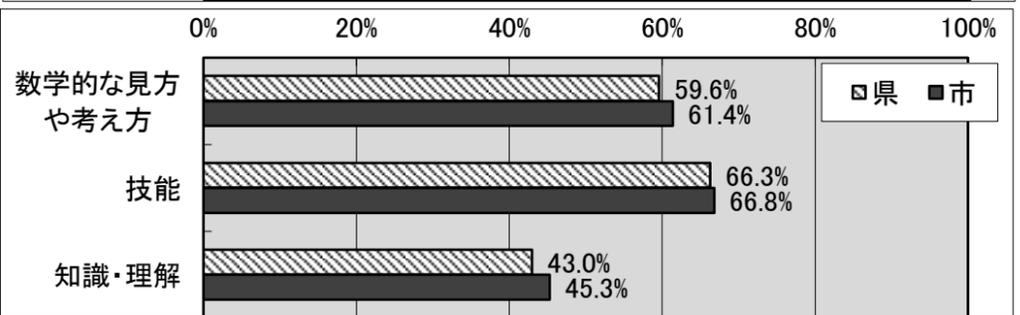
イ 中学校1年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
数学的な見方や考え方	55.4%	52.9%	2.5
技能	72.7%	70.8%	1.9
知識・理解	59.7%	58.0%	1.7



ウ 中学校2年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
数学的な見方や考え方	45.3%	43.0%	2.3
技能	66.8%	66.3%	0.5
知識・理解	61.4%	59.6%	1.8



- 内容・領域別平均通過率では、小5の「数と計算」が県を下回っている。
- 観点別平均通過率では、小5の「技能」が県を下回っている。
- 小5の「数学的な考え方」、中2の「数学的な見方や考え方」は5割を下回っており、課題が見られる。
- ◆ 問題場面から数量を読み取り、言葉や数、式、図表、グラフなどを用いて整理し、筋道立てて考えたことを数学的に表現したり、説明したりする学習活動の工夫、充実を図る。

(4) 小学校第5学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	問題内容別			内容領域別				観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図		
	大問	中問	小問	基礎・基本	思考・表現	数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	技能	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本		思考・表現	無解答率
1		(1)	小学4年	○		○					○		88.9%		0.1%	89.1%		0.2%				位をそろえて、整数と小数の加法を正しく計算することができるか。(H28の追跡調査)
2		(2)	小学5年	○		○					○		77.5%		1.1%	76.6%		1.4%				小数の除法で、商を整数で求め、余りを適切に求めることができるか。(H27, H28の追跡調査)
3	1	(3)	小学5年	○		○					○		60.2%		1.5%	59.3%		1.6%				異分母の分数の減法を正しく計算することができるか。また、差が約分できることに気づき、正しく答えを求めることができるか。(H28の追跡調査)
4		(4)	小学5年	○		○					○		89.7%		1.4%	89.5%		1.5%				分数÷整数を正しく計算することができるか。
5		(5)	小学4年	○		○					○		88.6%		0.9%	88.1%		1.2%				計算のきまりを使い、正しく計算することができるか。
6	2	(1)	小学5年	○		○					○		75.9%		0.3%	75.9%		0.4%				乗数と積の大小関係、除数と商の大小関係を正しく理解できているか。(H28の追跡調査)
7		(2)	小学5年	○		○				○			52.2%		0.4%	52.5%		0.4%				倍の関係にある2つの数量を表す線分図を選択することができるか。
8	3	(1)	小学5年	○		○					○		64.9%		1.8%	63.6%		2.0%				最小公倍数の意味を正しく理解し、求めることができるか。(H28の追跡調査)
9		(2)	小学5年	○		○					○		65.5%		2.9%	66.8%		3.0%				最大公約数の意味を正しく理解し、求めることができるか。(H28の追跡調査)
10	4	(1)	小学4年	○				○			○		69.9%		0.4%	71.4%		0.4%				いろいろな四角形の性質を正しく理解しているか。
11		(2)	小学5年	○				○			○		50.1%		0.5%	51.4%		0.8%				合同な三角形を作図するために必要な条件を見いだすことができるか。
12	5		小学5年	○		○					○		40.3%		3.2%	40.6%		3.6%				四角形の面積を既習の図形に分けたり、引いたりして、求めることができるか。
13	6		小学5年	○		○					○		89.9%		0.8%	90.1%		1.0%				展開図から体積を求めるために必要な辺の長さを抽出し、体積を求めることができるか。
14	7	(1)	小学4年	○				○			○		92.2%		0.4%	92.3%		0.5%				2つの数量の関係を表に整理して、答えを求めることができるか。
15		(2)	小学4年	○				○			○		83.9%		0.9%	83.8%		1.2%				2つの数量の関係を読み取り、答えを求めることができるか。
16	8	①	小学5年		思・表1			○			○		72.3%		0.9%	74.0%		1.0%				失敗した測定値を入れないで平均値を求める式を選ぶことができるか。
17		②	小学5年		思・表1			○			○		66.0%		1.3%	67.7%		1.4%				失敗した測定値を入れないで、仮の平均を利用して平均値を求める式を選ぶことができるか。
18		(2)	小学5年		思・表1			○			○		27.2%		5.0%	28.1%		5.5%				全体量(合計の秒数)を平均から算出し、合計秒数と比較して目標に足りないことに気づくことができるか。
19	9		小学5年		思・表2			○			○		30.7%		13.0%	32.4%		14.8%				共通する図形の面積の関係を捉え、その関係が成り立つことを説明することができるか。(H25~H28の追跡調査。)
20	10	(1)	小学4年		思・表1			○	○		○		60.2%		1.6%	62.5%		1.9%				折れ線グラフの変わり方の違いを直線の傾きを基にして考えることができるか。
21		(2)	小学4年		思・表3			○	○		○		34.2%		10.7%	33.4%		11.6%				折れ線グラフと棒グラフを関連させて読み取れたことを説明することができるか。
22		(3)	小学4年		思・表1			○	○		○		34.5%		4.7%	34.9%		5.5%				折れ線グラフと棒グラフを関連させて読み取れたことを説明することができるか。
23		(4)	小学4年		思・表1			○	○		○		26.1%		11.4%	27.6%		12.3%				棒グラフを読み取って、折れ線グラフをかくことができるか。
計		問題数	15	8	9	6	2	6	9	11	3											
		出題割合	65.2%	34.8%	39.1%	26.1%	8.7%	26.1%	39.1%	47.8%	13.1%											
		通過率										72.6%	43.9%	2.8%	72.7%	45.1%	3.2%					
												62.7%			63.1%							

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問5 第5学年「図形の面積」

5 下の太い線で囲まれた四角形の面積を求めましょう。ただし、方眼紙の1マスは正方形で $1\text{cm}^2$ とします。

【基礎・基本】

平均通過率		
市	県	差
40.6%	40.3%	0.3
無解答率		
市	県	差
3.6%	3.2%	0.4

指導のポイント

「基礎・基本」の問題の中で唯一、5割を下回った問題である。四角形の面積を既習の図形に分けたり、全体から引いたりして求めることに課題が見られる。図形を構成する要素に着目して、一つの図形を二つ以上の図形に分けるなどの図形の見方・考え方を働かせることによって、児童自ら工夫して面積を求めることができるように指導することが重要である。

(イ) 大問10 第4学年「折れ線グラフ」

10 たくまさんは、夏休みに3種類の植物を育てました。下の棒グラフは、たくまさんが育てたアサガオ、ゴーヤ、ヘチマの1週間ごとの長さののびを表しています。

A アサガオのつる長さののび (cm)

1	2	3	4	5
15	20	30	40	45

B ゴーヤのつる長さののび (cm)

1	2	3	4	5
10	40	30	20	20

C ヘチマのつる長さののび (cm)

1	2	3	4	5
20	30	40	30	10

右の折れ線グラフは、たくまさんが育てた3種類の植物のうち、ある植物の成長した長さを表しています。

(2) えりさんは、この折れ線グラフが、A、B、Cの3つの棒グラフのどれになるかについて、次のように話しています。

折れ線グラフの( )の部分と、棒グラフBの( )の部分を見ると、この折れ線グラフは、ゴーヤの成長した長さを表したものではありません。

えりさんが、「折れ線グラフは、ゴーヤのつるの成長を表したものではありません」と考えたのは、折れ線グラフの( )の部分の変わり方と、棒グラフBの( )の部分ののびを比べて、どちらかがいがあるからでしょうか。「変わり方」、「のび」という言葉や数を使って、説明しましょう。

(4) たくまさんは、ゴーヤの1週間ごとのつるの成長の様子を折れ線グラフで表そうとしました。

右のグラフは、ゴーヤの1週間ごとのつるの全体の長さを表す折れ線グラフを途中までかいたものです。

最後まで、折れ線グラフを完成させましょう。

(cm) ゴーヤの1週間ごとのつるの全体の長さ

1	2	3	4	5	6
120	140	150			

【思考・表現3】

(2) 平均通過率		
市	県	差
33.4%	34.2%	-0.8
(2) 無解答率		
市	県	差
11.6%	10.7%	0.9

【思考・表現1】

(4) 平均通過率		
市	県	差
27.6%	26.1%	1.5
(4) 無解答率		
市	県	差
12.3%	11.4%	0.9

指導のポイント

グラフの読み取りや複数のグラフを関連付けて説明を記述する問題に課題がある。無解答率も10%を超えている。

グラフの数値を読み取り比較したり、自分の考えを数学的な表現を用いてノートに記述し伝え合ったりする活動を重視し、取り組ませていく必要がある。また、折れ線グラフは、線の傾きで変化の様子を捉えるグラフであるため、その導入では、折れ線グラフの線だけを見て分かることを児童に交流させることも大切である。

(5) 中学校第1学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	出題学年			問題内容別		内容領域別				観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図			
	大問	中間	小問	基礎・基本	思考・表現	数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え	技能	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率				
1			(1)	中1	○	○					○		88.3%		0.4%	88.8%		0.5%				正負の数の加減の計算ができるか。			
2			(2)	中1	○	○					○		74.1%		0.5%	74.0%		0.4%				負の数の累乗の計算ができるか。			
3		1	(3)	中1	○	○					○		82.6%		0.9%	84.2%		0.8%				四則の混じった計算ができるか。			
4			(4)	中1	○	○					○		71.3%		4.7%	70.5%		4.4%				1次式と数の除法の計算ができるか。			
5			(5)	中1	○	○					○		55.7%		4.5%	58.5%		4.0%				分配法則を使い、同類項をまとめることができるか。			
6		2		中1	○	○					○		60.0%		0.5%	60.5%		0.4%				自然数の意味を理解しているか。(H28の追跡調査)			
7			(1)	中1	○	○					○		71.8%		3.3%	75.0%		2.9%				正・負の符号を使って表された数の意味を読み取ることができるか。			
8		3	(2)	中1	○	○					○		71.7%		3.5%	73.5%		3.1%				正・負の数の差を求める場合には、絶対値を用いて考えればよいことを理解しているか。			
9		1		中1	○	○					○		84.5%		3.5%	85.9%		3.0%				文字式に数を代入し、式の値を求めることができるか。			
10			2	中1	○	○				○			65.9%		5.5%	69.5%		4.3%				文字式の意味を読み取り、言葉で表すことができるか。			
11			3	中1	○	○					○		64.5%		1.4%	66.5%		1.5%				方程式の解の意味を理解しているか。(H28の追跡調査)			
12		2	4	中1	○	○					○		61.3%		5.7%	63.5%		4.5%				具体的な事象から数量関係をとらえ、不等式で表すことができるか。(H28の追跡調査)			
13			5	小6	○			○			○		59.1%		1.5%	60.2%		1.4%				与えられた表の数値から、数量の関係が反比例の関係であることを見いだすことができるか。			
14			(1)	小6	○				○		○		47.9%		20.1%	52.2%		19.5%				与えられた資料を整理し、表を完成させることができるか。			
15		6	(2)	小6	○				○		○		43.7%		18.5%	47.0%		18.7%				与えられた範囲の、全体に対する割合を求めることができるか。(H28の追跡調査)			
16		1		小4	○		○				○		90.7%		0.8%	91.5%		0.6%				立体の展開図を組み立てたときの辺や点の重なりを理解しているか。			
17		3	2	小4	○		○				○		42.9%		1.7%	45.5%		1.5%				立体の展開図を組み立てたときの辺と垂直な辺の位置関係を理解しているか。(H27の追跡調査)			
18			3	小6	○		○				○		59.6%		4.4%	63.5%		3.5%				立体の体積の求め方を理解しているか。			
19			1	中1	○		○				○		93.9%		1.0%	94.6%		1.0%				方眼を用いて平行移動した図形をかくことができるか。(H28の追跡調査)			
20		4	2	中1	○		○				○		63.6%		1.8%	65.6%		1.8%				基本的な作図が図形の対称性を基に行われていることを理解しているか。			
21			1	中1		思・表1	○				○		84.6%		1.1%	85.9%		0.9%				色紙(六角形)の並べ方の規則を理解することができるか。			
22		5	2	中1		思・表2	○				○		56.7%		2.7%	58.9%		2.4%				色紙(六角形)の並べ方の規則に気づき、個数を求める式を文字を用いて表すことができるか。			
23			3	中1		思・表3	○				○		29.8%		22.7%	32.3%		21.6%				条件を変えた色紙(六角形)の並べ方の規則に気づき、個数を求める式を文字を用いて説明することができるか。			
24			1	小6		思・表1		○			○		76.5%		7.0%	77.2%		6.9%				一つの点からの距離が等しい点の集合が円になることを理解し、条件に合わせて半円を作図することができるか。			
25		6	2	小6		思・表2		○			○		39.2%		10.3%	42.8%		9.6%				与えられた条件をもとに、おうぎ形の面積を求めることができるか。			
26			3	中1		思・表3		○			○		49.5%		4.2%	52.6%		3.9%				与えられた条件を基に、正しい点の軌跡を選択することができるか。			
27			1	小6		思・表1			○		○		46.6%		10.7%	50.1%		9.7%				資料から単位量をもとに関係を読みとり、比例の性質を利用して問題を解決することができるか。			
28		7	2	小6		思・表3			○		○		21.6%		11.7%	23.5%		10.0%				問題から数量関係を捉え、課題を解決することができるか。			
計	問題数			20	8	15	8	3	2	9	14	5													
	出題割合			71.4%	28.6%	53.6%	28.6%	10.7%	7.1%	32.1%	50.0%	17.9%													
													通過率	67.7%	50.6%	5.5%	69.5%	52.9%	5.1%						
													62.8%			64.8%									

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問2の6 小学校6学年「比とその応用」

6 収穫したサツマイモについて、重さごとに分類したところ下の表のようになった。次のヒントも参考にして次の(1)、(2)の問いに答えよ。

**【ヒント】**  
150g以上200g未満の個数と、300g以上350g未満の個数は1:6の割合だよ。

(1) 右の表の **A** に入る数を答えよ。

(2) 重さが250g以上300g未満のサツマイモの個数は、収穫したサツマイモ全部の個数の何%にあたるか。

重さ (g)	個数(個)
150以上 200未満	<input type="text"/>
200 ~ 250	18
250 ~ 300	60
300 ~ 350	<b>A</b>
350 ~ 400	22
400 ~ 450	15
合計	150

【基礎・基本】

(1) 平均通過率		
市	県	差
52.2%	47.9%	4.3
(2) 平均通過率		
市	県	差
47.0%	43.7%	3.3
(1) 無解答率		
市	県	差
19.5%	20.1%	-0.6
(2) 無解答率		
市	県	差
18.7%	18.5%	0.2

**指導のポイント**  
小学校第6学年で学習する内容である。比を活用して表を完成させたり、全体に対する割合を求めたりすることに課題があり、無解答率も高い。割合の関係については、具体的な数値や図、表を用いるなどして丁寧に繰り返し指導を行うことが重要である。

(イ) 大問5 第1学年「文字式」

※問題文 一部省略

5 ひなたさんたちは、六角形の色紙を掲示板にはっていきときに必要な画びょうの数について調べました。【図1】のように、色紙を1枚ずつ、その一部を重ねて横1列にはっていきます。横に重ねた部分は1個の画びょうを使ってはることにします。このとき、次の1～3の問いに答えなさい。

2 ひなたさんは、 $n$ 枚の色紙をはるために必要な画びょうの個数を【図2】を用いながら考えました。ア、イにあてはまる数や文字式を書け。

**【図2】**

$n$ 枚

ひなた 左はしをとめる1個と、その他をとめる(ア)個の画びょうのまとまりが $n$ 個できているね。したがって、 $n$ 枚の色紙をはるためには(イ)個の画びょうが必要であると考えることができるね。

3 あさひさんは、【図3】のように、色紙を縦に2枚、横に $n$ 列並べ、横に重ねた部分は1個、縦に重ねた部分は2個の画びょうを使ってはることにしました。

このとき、2のひなたさんの考えを参考に、 $2n$ 枚の色紙をはるために必要な画びょうの個数を求めよ。ただし、どのように考えたのかを【図2】のひなたさんにならって下の【図4】の「        」に示し、式やことばを用いて説明せよ。

**【図4】**

$n$ 枚

【思考・表現2】

2 平均通過率		
市	県	差
58.9%	56.7%	2.2
2 無解答率		
市	県	差
2.4%	2.7%	-0.3

【思考・表現3】

3 平均通過率		
市	県	差
32.3%	29.8%	2.5
3 無解答率		
市	県	差
21.6%	22.7%	-1.1

**指導のポイント**

文字を用いた式や言葉を使って自分の考え方を数学的に説明する問題に課題が見られ、無解答率も高くなっている。さらに、他の考えを理解し、それを活用して自分の考えを作り上げていくことに関しても課題が見られる。言葉や表、グラフ、式等を用いて自分の考えを記述させたり、説明させたりする活動を繰り返し行うことが大切である。また、文字を用いることのよさを実感させ、その必要性や意味を理解できるようにすることも大切である。

(6) 中学校第2学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	大問	中問	小問	出題学年	問題内容別				内容領域別				観点別			県通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図
					基礎・基本	思考・表現	数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え	技能	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率			
1			(1)	中1	○		○					○			73.8%		0.9%	75.4%		0.8%				乗除優先の規則、正負の数の加減が計算できるか。	
2			(2)	中2	○		○					○			72.1%		1.5%	72.5%		1.3%				多項式と多項式の減法、簡単な整式の減法ができるか。	
3		1	(3)	中2	○		○					○			81.9%		0.9%	79.8%		1.0%				負の符号がついた単項式の累乗の計算ができるか。	
4		1	(4)	中2	○		○					○			54.2%		5.5%	53.4%		6.1%				単項式どうしの乗除の混じった計算ができるか。	
5			(5)	中2	○		○					○			70.1%		5.5%	68.4%		5.8%				分数が含まれた多項式の加法の計算ができるか。	
6		2		中2	○		○					○			62.0%		5.7%	63.0%		5.2%				文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。	
7		3		中2	○		○					○			58.7%		13.5%	58.6%		13.8%				等式の性質を用いて目的にあうように変形できるか。(H29全国学力・学習状況調査の追跡問題)	
8		1		中2	○		○					○			73.3%		9.6%	75.5%		8.5%				小数を含む連立方程式を解くことができるか。	
9		2	(1)	中2	○		○					○			67.9%		12.2%	69.9%		11.5%				数量の関係を的確にとらえ、 $x$ と $y$ を用いて2元1次方程式を立式できるか。	
10		2	(2)	中2	○		○					○			52.4%		12.3%	56.7%		10.5%				立式された連立方程式の $x$ が何を表すのか、考えることができるか。	
11		1		中1	○		○					○			69.4%		11.2%	67.5%		12.5%				辺上にない点から垂線の作図ができるか。	
12		3	(1)	中2	○		○					○			87.6%		1.6%	87.8%		1.6%				平行線の性質を用いて角度を求めることができるか。	
13		2	(2)	中2	○		○					○			73.8%		6.4%	74.0%		6.5%				多角形の内角の和の公式を使い、正多角形の1つの角の大きさを求めることができるか。	
14		3		中2	○		○					○			58.6%		1.2%	62.5%		0.9%				三角形が合同であることを合同条件をもとに判断し、記号三を使って対応する順に表すことができるか。	
15		4		中1	○		○					○			58.3%		0.9%	63.6%		0.9%				見取図から投影図を考察することができるか。	
16		5	1	中1	○		○					○			54.7%		1.1%	56.9%		0.8%				2つの数量の関係について、変化や対応の様子、式の形から反比例の関係を判断できるか。	
17		2		中1	○		○					○			66.1%		1.3%	64.7%		1.3%				比例のグラフの特徴を理解しているか。(H28の追跡問題)	
18		1		中2		思・表3	○					○			42.2%		10.6%	45.1%		10.3%				文字式を使って、数の性質を説明することができるか。	
19		6	2	中2		思・表1	○					○			60.7%		7.7%	63.8%		7.1%				与えられた条件をもとに、具体的な数をあげ、その性質を見出すことができるか。	
20		3		中2		思・表2	○					○			18.4%		48.7%	21.4%		45.2%				文字式を使って数の性質を説明することができるか。	
21		1		中1		思・表1						○			59.0%		2.8%	61.6%		2.4%				与えられた資料の代表値を適切に求めることができるか。	
22		7	(1)	中1		思・表3						○			54.5%		24.4%	55.9%		23.8%				資料の比較をするために、必要な相対度数を求めることができるか。	
23		2	(2)	中1		思・表3						○			24.3%		37.7%	22.9%		36.9%				度数折れ線の特徴を比較して、説明することができるか。(H29全国学力・学習状況調査の追跡問題)	
24		1		中1		思・表1						○			76.1%		8.3%	76.7%		7.6%				必要な情報を読み取り、数量関係を比較することができるか。	
25		8	2	中1		思・表3						○			38.4%		8.9%	39.8%		7.4%				表から数量関係を読み取り、それぞれの費用を求め、比較することができるか。	
26		3		中1		思・表3						○			25.2%		31.3%	26.5%		28.0%				数量関係をグラフに表し、2つのグラフの関係を読み取ることができるか。	
計				問題数	17	9	13	5	5	3	7	15	4												
				出題割合	65.4%	34.6%	50.0%	19.2%	19.2%	11.6%	26.9%	57.7%	15.4%												
				通過率	66.8%			44.3%			10.4%			67.7%			46.0%			9.9%					
					59.0%						60.2%														

イ 特に課題のあった設問

(7) 大問1の3 第2学年「等式の変形」

3 等式  $x + 9y = 8$  を、 $y$  について解け。

【基礎・基本】

平均通過率		
市	県	差
58.6%	58.7%	-0.1
無解答率		
市	県	差
13.8%	13.5%	0.3

指導のポイント

「基礎・基本」に関する出題であるが、平均通過率が6割を切っており、無解答率も高い。等式の性質を用いて目的に合うように変形することに課題がある。等式の性質を確実に指導し、無目的に式の変形を行わせるのではなく、具体的な場面に即して目的に応じて式を変形することのよさを実感させる指導が重要である。

(イ) 大問6 第2学年「式の利用」

6 博人さんと優奈さんは、ある数の性質について調べています。次の1～3の間に答えなさい。

1 博人さんは、連続する2つの奇数の和について、次のように考えた。

3 と 5 のとき、 $3 + 5 = 8 = 4 \times 2$   
 7 と 9 のとき、 $7 + 9 = 16 = 4 \times 4$   
 このように、どの場合も  $4 \times$  (整数) となるので連続する2つの奇数の和はいつも4の倍数になるね。



博人さん

博人さんは、この考えた予想をもとに、文字を使って、次の【博人さんの説明】のように説明した。このとき、□にあてはまる式を求め、【博人さんの説明】を完成させよ。ただし、□の中には、すべて同じ式が入る。

**【博人さんの説明】**

$n$  を整数とすると、2つの連続する奇数は  $2n + 1$ 、 $2n + 3$  と表される。これら2つの数の和は

$$(2n + 1) + (2n + 3)$$

$$= 4 \times \square$$

となる。□は整数なので、 $4 \times \square$  は4の倍数となる。したがって、2つの連続する奇数の和は4の倍数になる。

3 優奈さんは、自分の立てた予想を説明するために、次のように考えた。優奈さんの用いた文字を参考にして、【優奈さんの説明】を完成させよ。

**【優奈さんの説明】**

連続する2つの奇数を表すときには、1つの文字  $n$  を使って表したけれど、連続しない2つの奇数を表すために2種類の文字  $m$ 、 $n$  (ともに整数) を使って表さなければならない。

だから、 $m$ 、 $n$  を整数とすると、

【思考・表現3】

1 平均通過率		
市	県	差
45.1%	42.2%	2.9
1 無解答率		
市	県	差
10.3%	10.6%	-0.3

【思考・表現2】

3 平均通過率		
市	県	差
21.4%	18.4%	3.0
3 無解答率		
市	県	差
45.2%	48.7%	-3.5

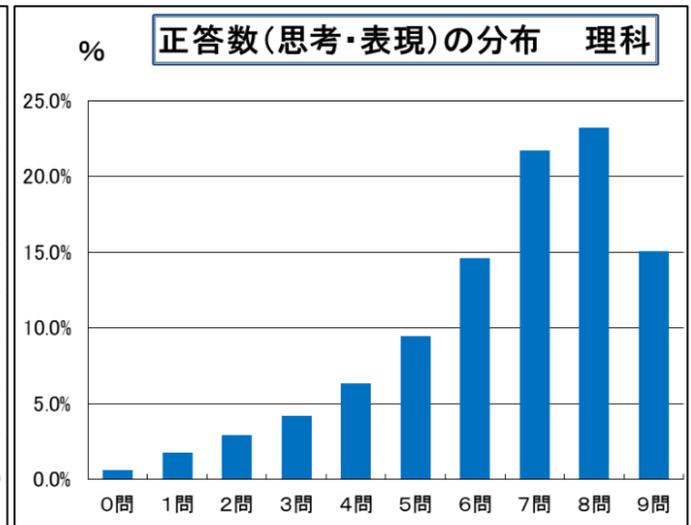
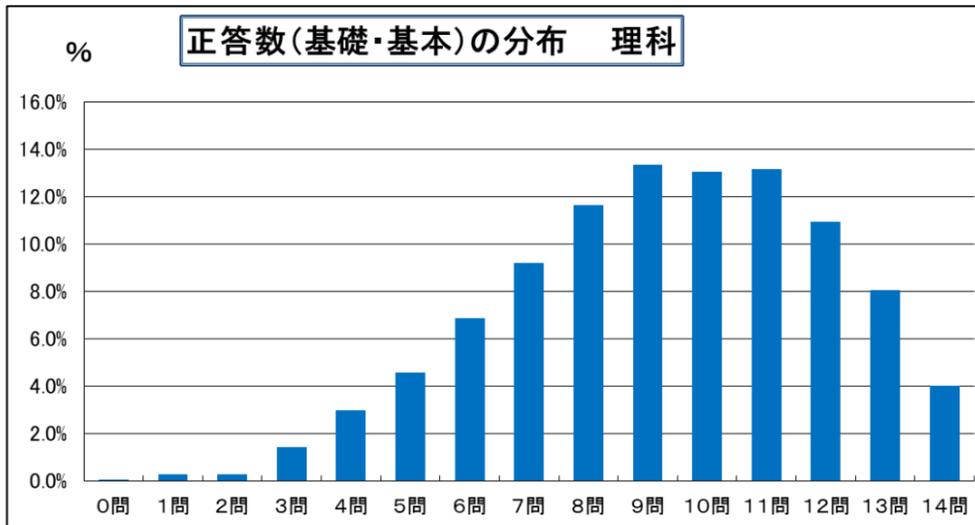
指導のポイント

文字を用いた式で、数量及び数量の関係を表したり、説明したりすることに課題が見られる。式や言葉を用いて説明する問題は、特に無解答率が高い。具体的な数で計算することから成り立つ性質を生徒が見いだしたり、見いだした性質について文字を用いて表現する方法を検討したりするなどの機会を繰り返し設けることが大切である。また、文字を用いた式を活用することにより、数量や数量の関係を簡単に表したり、能率的に処理したり、その意味を読み取ったりすることができるなどのよさを実感させることも大切である。

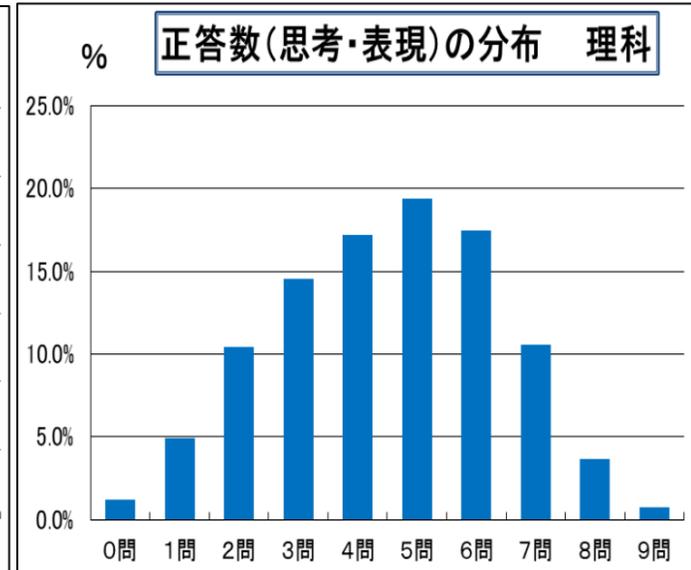
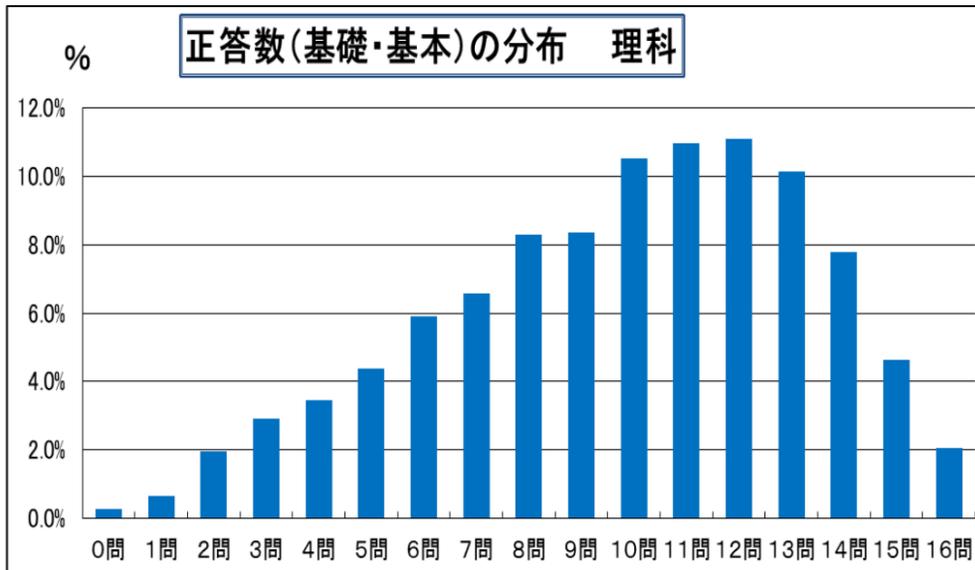
(1) 全体

学 年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
	市	県	県との差	市	県	県との差	市	県	県との差
小5	66.3%	65.9%	0.4	72.7%	73.4%	-0.7	68.8%	68.8%	0.0
中1	61.8%	59.7%	2.1	49.9%	46.9%	3.0	57.5%	55.1%	2.4
中2	57.1%	56.3%	0.8	27.2%	28.5%	-1.3	46.3%	46.3%	0.0

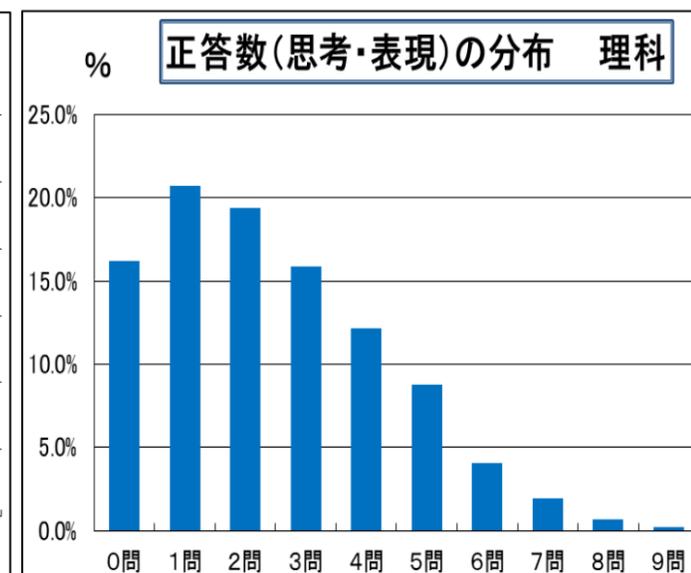
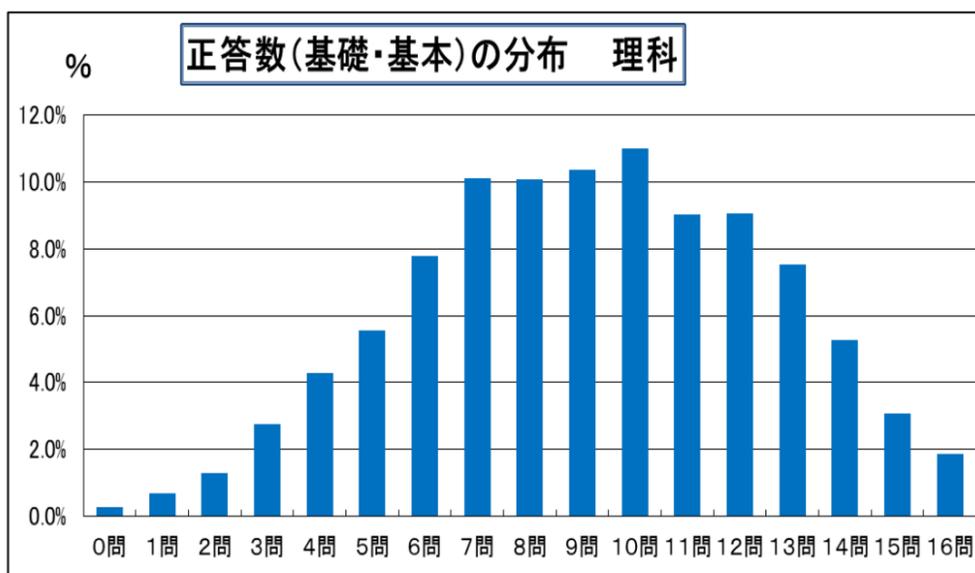
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】

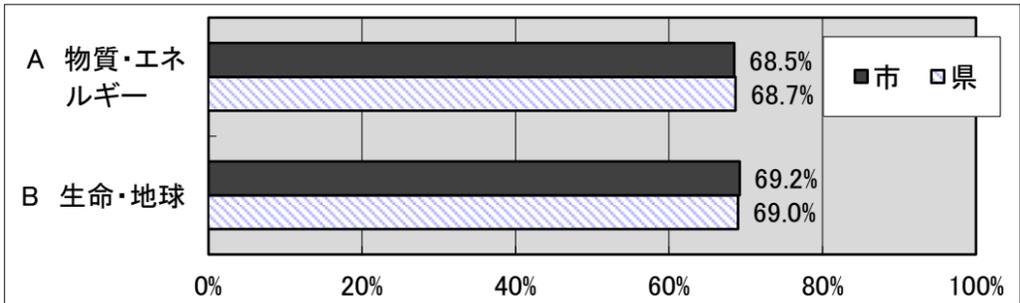


- 全体では、小5と中2が県と同じであり、中1は県を上回っている。
- 「基礎・基本」では、いずれの学年も県を上回っているが、中1と中2は6割に満たない状況であり、課題が見られる。
- 「思考・表現」では、中1は県を3ポイント上回っているが、小5と中2は、県を下回っており、課題が見られる。
- 学年が上がるにつれて平均通過率が下がっており、特に、「思考・表現」においては低下が著しい。
- ◆ 予想や仮説の設定、実験計画の立案、結果の整理・考察など、観察、実験前後の言語活動を重視した指導を行う。

(2) 内容・領域別平均通過率

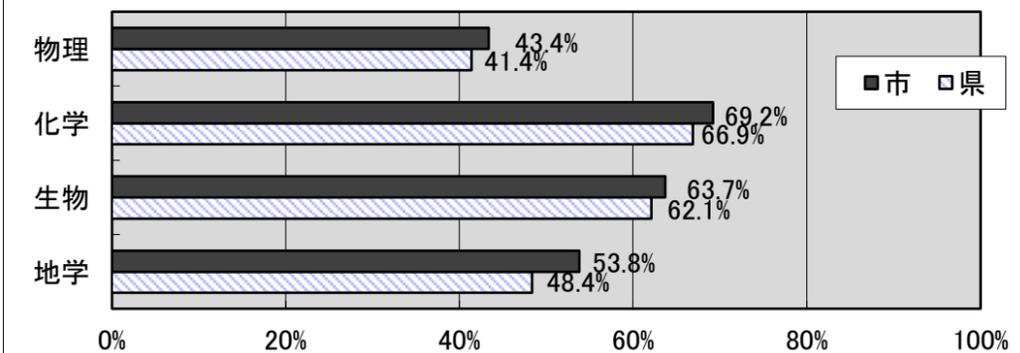
ア 小学校第5学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
A 物質・エネルギー	68.5%	68.7%	-0.2
B 生命・地球	69.2%	69.0%	0.2



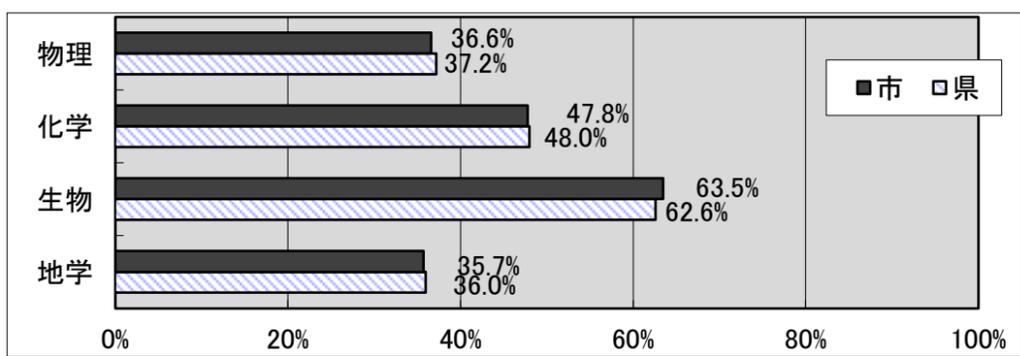
イ 中学校第1学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
エネルギー	43.4%	41.4%	2.0
粒子	69.2%	66.9%	2.3
生命	63.7%	62.1%	1.6
地球	53.8%	48.4%	5.4



ウ 中学校第2学年

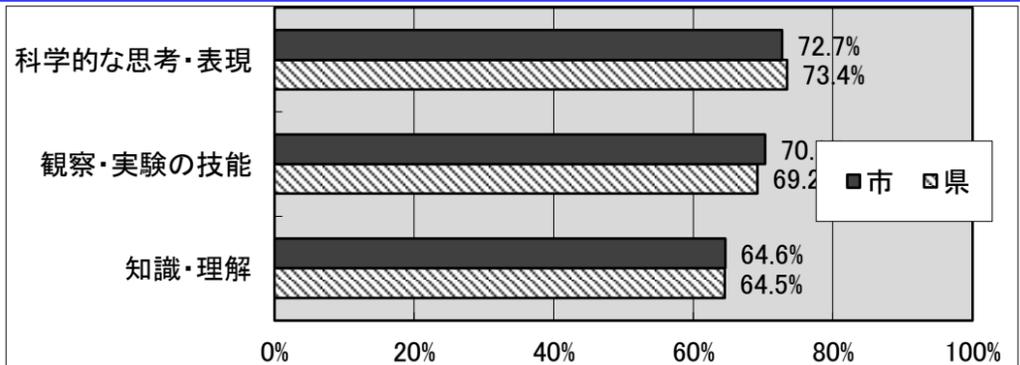
	平均通過率		県との差
	市	県	
エネルギー	36.6%	37.2%	-0.6
粒子	47.8%	48.0%	-0.2
生命	63.5%	62.6%	0.9
地球	35.7%	36.0%	-0.3



(3) 観点別平均通過率

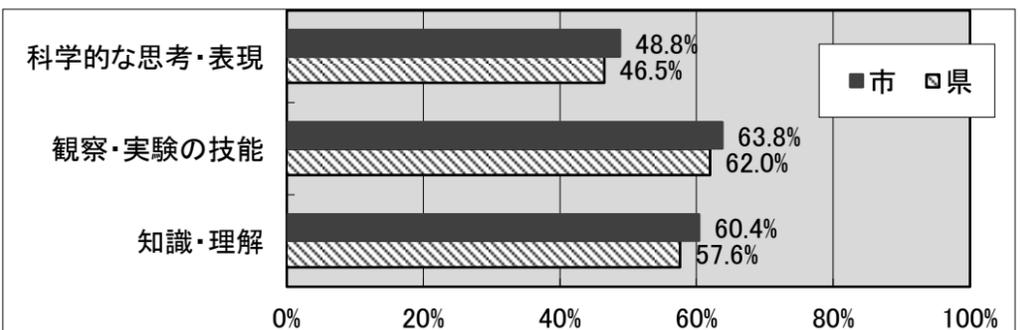
ア 小学校5年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
科学的な思考・表現	72.7%	73.4%	-0.7
観察・実験の技能	70.3%	69.2%	1.1
知識・理解	64.6%	64.5%	0.1



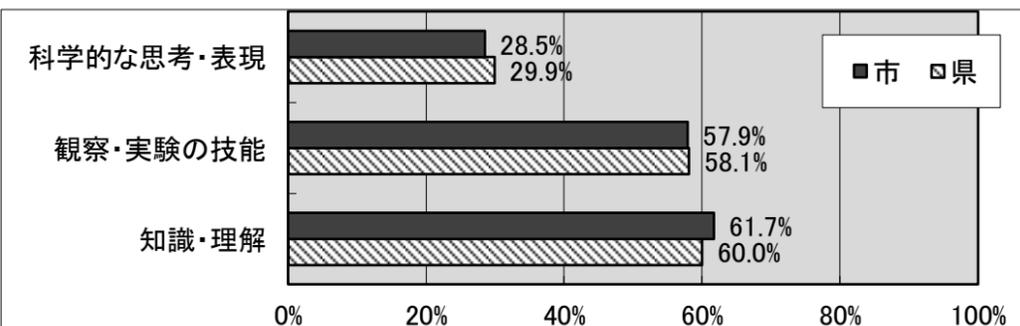
イ 中学校1年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
科学的な思考・表現	48.8%	46.5%	2.3
観察・実験の技能	63.8%	62.0%	1.8
知識・理解	60.4%	57.6%	2.8



ウ 中学校2年生

	平均通過率		県との差
	市	県	
科学的な思考・表現	28.5%	29.9%	-1.4
観察・実験の技能	57.9%	58.1%	-0.2
知識・理解	61.7%	60.0%	1.7



- 内容・領域別平均通過率では、小5の「物質・エネルギー」、中2の「エネルギー」、「粒子」、「地球」において県を下回っている。
- 観点別平均通過率では、小5の「科学的な思考・表現」、中2の「観察・実験の技能」、「科学的な思考・表現」が県を下回っている。
- 「科学的な思考・表現」は、中1、中2いずれも5割を下回っており、課題が見られる。
- ◆ 観察、実験の技能の定着を図るとともに、図や表、説明文等を児童生徒に読み取らせ、理解を確認すること、また根拠を明らかにしながら説明させる活動を重視した指導を行う。

(4) 小学校第5学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	出題学年			問題内容別		内容領域別		観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図
	大問	中間	小問	基礎・基本	思考・表現	A 物質・エネルギー	B 生命・地球	科学的な思考・表現	観察、実験の技能	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	
1	1		1	小3	○		○			○	61.0%		0.5%	60.9%		0.5%				方位磁針の仕組みやN極やS極を理解しているか。
2			2	小3	○		○			○	57.2%		1.7%	56.5%		1.9%				実験の目的や方法を理解し、磁石の性質を理解した上で、実験結果を考えることができるか。
3	2	1	1	小4	○		○			○	75.0%		1.5%	74.9%		1.6%				回路のつなぎ方と名称を理解しているか。
4			1	小4	○		○			○	71.7%		0.3%	72.3%		0.3%				乾電池のつなぎ方による電流の強さの違いを理解しているか。
5			2	小4	○		○			○	39.6%		0.3%	39.8%		0.3%				
6	3		1	小5	○		○			○	69.4%		0.1%	69.7%		0.1%				顕微鏡の正しい操作手順を身に付けているか。
7			2	小5	○		○			○	77.6%		1.8%	78.6%		2.1%				顕微鏡で見るためのスライドガラスなどで作る標本を、プレパラートと理解しているか。
8			3	小5	○		○			○	77.5%		0.2%	79.4%		0.2%				顕微鏡の操作で、物の見え方を変える際のプレパラートの動かし方を身に付けているか。
9	4		1	小5		思・表1	○		○			78.3%	2.3%		77.3%	2.8%				発芽前後の子葉の変化から、肥料がなくても発芽する理由を考えることができるか。
10	5		1	小4	○		○			○	62.8%		0.2%	64.6%		0.3%				熱源の位置を変えたときの水の温まり方について理解しているか。
11			2	小4	○		○			○	83.9%		0.1%	84.4%		0.2%				あたためられた水の動きについて理解できているか。
12	6		1	小4	○		○			○	56.9%		0.5%	56.8%		0.6%				水を冷やした際に、温度によってどのようにすがたを変えるかについて理解できているか。
13			2	小4		思・表2	○		○			69.9%	2.0%		68.8%	2.5%				水を冷やした際に、温度によってどのようにすがたを変えるかについて理解できているか。
14	7	1	1	小5	○		○			○	87.3%		0.2%	87.5%		0.3%				メスシリンダーの目盛りの読み方について理解できているか。
15			2	小5		思・表3	○		○			82.3%	0.1%		83.7%	0.2%				水溶液では、溶けた物が見えなくなるほど小さくなって、液全体に広がっていることを理解できているか。
16			1	小5		思・表1	○		○			84.1%	1.3%		81.8%	1.6%				グラフで示された結果から、水の温度ととける量とを関係付けて、食塩とミョウバンのとけ方のちがいで説明できるか。
17			2	小5		思・表1	○		○			81.9%	1.3%		79.0%	1.7%				
18		4	1	小5		思・表2	○		○			48.4%	3.0%		48.5%	3.4%				グラフで示された結果から、食塩とミョウバンの温度によるとける量の違いを生かして確かめる方法を考えることができるか。
19	8		1	小4	○		○			○	42.6%		2.8%	44.7%		3.5%				星座早見の使い方を理解しているか。
20			2	小4		思・表1	○		○			59.5%	0.2%		59.6%	0.3%				夏の大三角の動きを理解しているか。
21			3	小5		思・表1	○		○			73.3%	1.2%		72.5%	1.5%				会話文から、その日の気象衛星の雲写真の様子を考えることができるか。
22			4	小4	○		○			○	59.6%		0.7%	57.7%		0.8%				南に見える星の動きを理解しているか。
23			5	小4		思・表1	○		○				83.0%	0.6%		83.4%	0.6%			
計				問題数	14	9	14	9	9	4	/			/			/			
				出題割合	60.9%	39.1%	60.9%	39.1%	39.1%	17.4%	/			/			/			
				通過率							65.9%	73.4%	1.0%	66.3%	72.7%	1.2%	/			
											68.8%			68.8%			/			

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問2 第4学年「電流の性質」

(2) 正子さんが、図3のようにかん電池1この回路に検流計をつなぐと、検流計のはりのふれる向きと大きさは、図4のようになりました。図1や図2のつなぎ方のとき、検流計のはりのふれる向きと大きさは、それぞれどのようになるでしょうか。次のア～エの中から最も適切なものを1つずつ選んで、その記号を□に書きましょう。

図2の回路のとき □

【基礎・基本】

平均通過率		
市	県	差
39.8%	39.6%	0.2

指導のポイント

図1の直列つなぎの場合(市平均通過率71.7%)に比べ、非常に低く、児童は並列つなぎが苦手であることが明らかである。

児童は、つなぎ方が容易で、モーターの回転も速くなる直列つなぎに興味をもちやすいが、並列つなぎを用いた回路作りにも繰り返し取り組みせ、つなぎ方と電流の向きや大きさを関係付けながら理解させる必要がある。そのためには、電子オルゴールも活用すると電流の向きや大きさを意識しやすくなる。

(イ) 大問6 第4学年「水の状態変化」

太郎さんは、水を冷やしたときの水の様子と温度の変わり方を調べるために図1のような実験をしました。次の問いに答えましょう。

(1) 試験管の水の温度をはかり、その変化を記録すると下のグラフのようになりました。グラフの①～③の部分において、試験管の中の水の様子はどのようになっていたでしょうか。ア～エの中から、最も適切なものを1つ選んで□に書きましょう。

ア ①と②は水だけが入っている。  
③は水と氷がまざっている。

イ ①は水だけが入っている。  
②は水と氷がまざっている。  
③は氷だけが入っている。

ウ ①は水だけが入っている。  
②と③は氷だけが入っている。

エ ①と②は水と氷がまざっている。  
③は氷だけが入っている。

□

(2) ペットボトルに入った水を買った太郎さんが、ペットボトルのラベルを見ると、図2のような注意書きに気づきました。どうして容器がこわれるおそれがあるのでしょうか。その理由を□に書きましょう。

□

(1) 【基礎・基本】

平均通過率		
市	県	差
56.8%	56.9%	-0.1

(2) 【思考・表現2】

平均通過率		
市	県	差
68.8%	69.9%	-1.1

無解答率		
市	県	差
2.5%	2.0%	0.5

指導のポイント

これまででも出題されており、引き続き課題である。特に、(2)は無解答率が高い。

(1)の実験では、児童は温度推移ばかりに着目しがちであるため、水の状態変化を温度変化と関係付けながら注意深く観察させ、記録させるとともに、デジタルコンテンツ等を用いて確認させる必要がある。また、(2)のように生活場面に適用して説明する言語活動を単元終末に位置付け、理解の確認、深化を図ることが重要である。

(5) 中学校第1学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	大問	中問	小問	出題学年	問題内容別			内容領域別			観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図
					基礎・基本	思考・表現	エネルギー	粒子	生命	地球	科学的な思考・表現	観察、実験の技能	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	
1	1		1	小5	○								○	61.1%		0.2%	64.1%		0.2%				顕微鏡の基本的な操作を身に付けているか。(類似問題:小5 大問3)
2			2	中1	○									○	56.8%		1.6%	56.9%		1.4%			植物の葉の基本的なつくりを理解しているか
3	2		1	中1	○									○	38.1%		0.2%	37.1%		0.2%			裸子植物であるマツの花の基本的なつくりを理解しているか。
4			2	中1	○									○	71.6%		0.3%	73.9%		0.2%			被子植物の花と、成長したときにできる果実との関係を理解しているか。
5			3	中1	○									○	74.0%		4.2%	76.4%		3.4%			裸子植物と被子植物のちがいを、正しく説明できるか。
6	3		1	中1	○									○	85.3%		2.1%	86.3%		1.9%			蒸散という語句を、知識として身に付けてしているか。
7			2	中1		思・表1								○	53.9%	1.3%	57.8%	1.4%					実験結果から、葉の各部分からの水の排出量を計算により求めることができるか。
8			3	中1		思・表1								○	55.7%	6.9%	57.2%	5.9%					実験の条件と照らし合わせて、結果を適切にとらえ、蒸散がどこで行われているのかを適切な言葉で表現できるか。
9	4		1	中1	○									○	92.1%		0.4%	92.6%		0.3%			ろ過を正しく行うことができるか。
10		I	2	中1		思・表3								○	78.7%	0.4%	80.3%	0.4%					物質が水に溶けている状態を、モデルで表現できるか。
11			3	中1		思・表1								○	50.3%	3.1%	52.7%	2.6%					溶解度曲線を読み取り、水溶液から結晶が出てくる温度を求めることができるか。
12		II		中1	○									○	54.7%	14.4%	56.7%	14.4%					質量パーセント濃度の求め方を理解しているか。
13	5		1	中1	○									○	60.7%	2.3%	64.5%	2.1%					メスシリンダーを読み取り、物質の体積を求めることができるか。
14			2	中1		思・表1								○	65.2%	5.3%	68.5%	4.7%					金属の密度を求め、物質の種類によって密度は決まっていることを理解できているか。
15	6		1	小6	○									○	47.3%	10.1%	52.3%	9.0%					地震が起きて、大地にできたずれを説明できるか。
16			2	小6	○									○	48.0%	2.2%	49.7%	1.9%					身近な桜島の噴火活動と関連付け、火山から噴出されるものを理解できているか。
17			3	小6		思・表2								○	50.1%	16.6%	59.2%	13.6%					火山活動がもたらすおおいを、日常生活と照らし合わせて説明できるか。
18	7		1	中1	○									○	32.9%	4.2%	35.9%	3.5%					音を出している物体は振動していること、大気中で音を伝えている物質は空気であることを理解しているか。
19			2	中1	○									○	61.3%	1.3%	62.2%	1.2%					グラフから音が低くなったことを読みとること、低くなった周波数を考えることができるか。
20			3	中1	○									○	59.8%	1.2%	61.0%	1.1%					モノコードを使って音を出すとき、音を低くする方法を理解しているか。
21	8		1	中1	○									○	41.0%	3.5%	43.4%	2.9%					光が半円形レンズに入るとき、境界面で屈折することを理解し、作図できるか。
22			2	中1	○									○	69.8%	4.2%	73.1%	3.3%					光が境界面に対し斜めに入射するとき、進行方向が変わる事象を屈折ということを理解しているか。
23			3	中1		思・表2								○	27.0%	2.0%	29.8%	1.7%					光の屈折の規則性をもとに、入射光と屈折光の関係から、使用した物体を考えることができるか。
24			4	中1		思・表2								○	24.1%	2.1%	24.5%	1.8%					凸レンズの焦点の位置に光源を置いたときの光の進み方を理解しているか。
25			5	中1		思・表2								○	16.6%	11.2%	19.4%	9.8%					光源からの光の量が減ったときの像の変化を考え、説明することができるか。
計				問題数	16	9	8	6	8	3	8	6	11										
				出席割合	64.0%	36.0%	32.0%	24.0%	32.0%	12.0%	32.0%	24.0%	44.0%										
				通過率							59.7%	46.9%	4.1%	61.8%	49.9%	3.6%							
											55.1%			57.5%									

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問3 第1学年「植物」

※ 問題文 一部省略

(2) 実験の結果から、太郎さんは葉の表だけ、葉の裏だけ、葉以外の部分からの水が排出された量を計算した。正しく求めたものを次のア～エから1つ選んで記号で答えよ。

	葉の表だけの排出量	葉の裏だけの排出量	葉以外からの排出量
ア	0.9 mL	1.9 mL	0.3 mL
イ	2.9 mL	0.6 mL	0.3 mL
ウ	0.6 mL	2.9 mL	0.3 mL
エ	0.9 mL	2.9 mL	0.0 mL

(3) 太郎さんは、この実験結果から分かったことを次のようにまとめた。( )に適切な文章を入れて、まとめを完成させよ。

【まとめ】

吸水量を調べる実験を行ったところ、

- ・ 枝Aと枝Dの結果から、植物は葉から水を排出するしくみを原動力として吸水していることが分かった。
- ・ 枝Bと枝Cの結果から、( )が分かった。

【思考・表現1】

(2) 平均通過率		
市	県	差
57.8%	53.9%	3.9
(3) 平均通過率		
市	県	差
57.2%	55.7%	1.5

指導のポイント

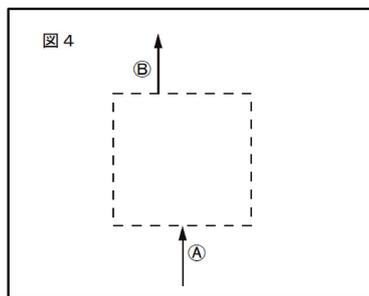
平均通過率が県を上回ってはいるが、6割と低い。(2)は、実験の条件と結果を踏まえて、排出量を算出することが必要である。また、(3)では結果から適切に考察する力が求められている。何を確かめるためにどのような実験をどのような条件で行うべきか、そして、どのような結果が得られればよいのかといった見通しを明確にした課題解決を重視する必要がある。

(イ) 大問8 第1学年「光の屈折」

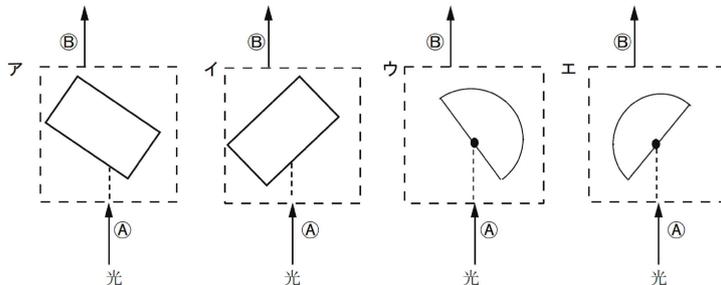
※ 問題文 一部省略

先生：「この現象を、光の②」といいます。」

「さらに、図4のようにガラスまたはレンズを置くと、③ほら、光は④から⑤の方向に進みます。」



(3) 下線部③で、図4の点線内に置いたガラスまたはレンズはどれか。下のア～エから最も適切なものを1つ選んで記号で答えよ。



(4) 下線部④での、光源を置いたところ(⑤)はどこか。下のア～エから1つ選んで記号で答えよ。

- ア Aの位置    イ Bの位置    ウ Cの位置    エ Dの位置

(5) 下線部⑥のように、凸レンズの前に上から板を入れて、凸レンズの上半分まで少しずつ隠していくと、スクリーンに写る像はどのように変化するか、説明せよ。

【思考・表現2】

(3) 平均通過率		
市	県	差
29.8%	27.0%	2.8
(4) 平均通過率		
市	県	差
24.5%	24.1%	0.4
(5) 平均通過率		
市	県	差
19.4%	16.6%	2.8

指導のポイント

光の進む方向やできる像などを思考して判断する活用に関する問題が4ページにわたり出題された。会話文や図表から情報を適切に読み取り、作図しながら思考する力等が求められている。

日々の授業においても目的意識をもって観察、実験を行い規則性を見いだすとともに、規則性を活用して問題を解決する場面を設定する必要がある。その際は、思考過程が分かるように記述し、説明し合う活動等を設定することが大切である。

(6) 中学校第2学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	出題学年			問題内容別		内容領域別							観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図				
	大問	中問	小問	基礎・基本	思考・表現	エネルギー	粒子	生命	地球	科学的な思考・表現	観察、実験の技能	知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率					
1			1	中2	○			○				○	93.2%		0.9%	93.4%		1.0%							無セキツイ動物の特徴を理解しているか。				
2	1		2	中2	○			○				○	53.8%		0.4%	55.1%		0.4%							セキツイ動物の分類から特徴を導き出すことができるか。				
3			3	中2	○			○				○	83.6%		0.5%	83.5%		0.4%							カスミンシウウオの特徴から、分類することができるか。				
4			1	中2	○			○				○	60.2%		0.7%	61.1%		0.8%							消化、吸収に関わる消化酵素と器官を正しく理解しているか。				
5		2	2	中2	○			○				○	54.3%		2.3%	56.0%		2.0%							血液の流れを理解し、酸素を多く含む血液が流れているところを正しく理解しているか。				
6			3	中2	○			○				○	30.3%		13.7%	32.2%		13.3%							「細胞による呼吸」では、酸素を使って養分から生きるために必要なエネルギーをとり出していることを理解しているか。				
7			1	中1	○		○					○	61.5%		4.6%	60.9%		5.2%							物体にはたらく重力を、力の矢印を使って図示することができるか。				
8			2	中1	○		○					○	12.9%		2.5%	12.2%		2.1%							物体がおよぼす重力や圧力を求めることができるか。				
9			1	中2	○		○					○	81.3%		0.8%	81.9%		0.8%							分解の意味を理解しているか。				
10			2	中2	○		○					○	49.9%		13.0%	52.4%		13.4%							水溶液の濃度の求め方を理解しているか。「重点課題」として問題から出題。				
11			A	中2			○					○		50.7%	7.9%		49.5%	8.1%							分子を理解し、水の電気分解の化学変化をモデル図で表すことができるか。「重点課題」として問題から出題。				
12			B	中2			○					○		30.5%	8.2%		29.0%	8.6%							分子を理解し、水の電気分解の化学変化をモデル図で表すことができるか。「重点課題」として問題から出題。				
13			1	中1	○		○					○	53.4%		0.9%	54.1%		0.8%							酸化マグネシウムを化学式で表すことができるか。				
14			2	中2	○		○					○	37.2%		10.9%	35.1%		10.4%							ガスバーナーの基本的な操作方法を理解しているか。				
15			3	中2	○		○					○	58.2%		8.5%	57.5%		8.3%							データをもとに正しいグラフのかき方を理解しているか。				
16			4	中2			○					○		22.6%	13.9%		23.1%	13.1%							考察したマグネシウムと化合する酸素の質量比から、酸化銅の値を求められるか。				
17			1	中1	○			○				○	69.6%		12.1%	74.4%		10.3%							初期微動継続時間を理解しているか。				
18			2	中1				○	○					39.9%	4.4%		38.3%	4.7%							地震の到達時間のデータから震央を類推し、図を使って表現することができるか。				
19			3	中1	○			○				○	44.5%		1.4%	47.3%		1.2%							緊急地震速報について正確に理解できているか。				
20			4	中1				○	○					22.6%	6.7%		23.3%	7.1%							緊急地震速報の仕組みを理解しているか。				
21			1	中2				○	○					9.3%	20.7%		8.0%	21.2%							海面からの水蒸気が絶たれることで、台風の勢力が衰えていくことを資料3から読み取り、説明できるか。				
22			2	中2				○	○					12.9%	29.9%		12.1%	30.3%							台風の進路の右側では、左側より風が強くなる理由を、台風の進路と低気圧の性質を関連させて説明できるか。				
23			3	中2	○			○	○				56.4%		4.9%	56.4%		4.7%							複数の天気図から、天気の移り変わりを類推できるか。				
24			1	中2				○	○					26.2%	4.5%		26.1%	4.4%							露点の違いから水蒸気の量を比較することができるか。				
25			2	中2				○	○					41.2%	10.4%		35.4%	10.3%							会話文と表から、洗濯物が乾きやすい条件を考察することができるか。				
計				問題数	16	9	2	8	6	9	11	5	9																
				出題割合	64.0%	36.0%	8.0%	32.0%	24.0%	36.0%	44.0%	20.0%	36.0%																
				通過率							56.3%			28.5%			7.3%			57.1%			27.2%			7.3%			
													46.3%						46.3%										

イ 特に課題のあった設問  
(ア) 大問7 第2学年「気象」

※ 問題文 一部省略

【資料1】 低気圧について

- ・ 周辺よりも気圧が低いところである。
- ・ 北半球では左回り(反時計回り)に風が吹き込む。
- ・ 中心付近では上昇気流が生じ、雲がしやすい。



【資料2】 温帯低気圧について

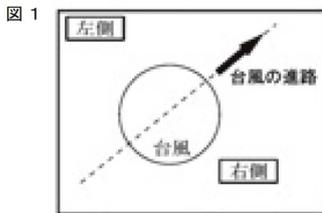
- ・ 中緯度の温帯付近で発生する低気圧である。
- ・ 前線をとめない、日本列島付近では、温帯低気圧の南東側に温暖前線、南西側に寒冷前線ができることが多い。
- ・ 発達した温帯低気圧では、前線付近に雲が発生する。

【資料3】 熱帯低気圧について

- ・ 低緯度の熱帯の海上で発生する低気圧である。
- ・ 熱帯地方は海水温度が高いため、海面から蒸発した多量の水蒸気が台風のエネルギー源や雲の原料となり、上昇気流が生じ雲ができる。海水温度が高い海上に熱帯低気圧がとどまることで、熱帯低気圧の勢力が強くなる。
- ・ 熱帯低気圧の勢力が強くなり、最大風速が17m/秒以上のものを台風と呼ぶ。
- ・ 台風も低気圧の仲間なので、中心には左回り(反時計回り)に風が吹き込む。

(1) 台風は日本付近では勢力が衰え、熱帯低気圧に弱まったり、温帯低気圧に変わったりする。台風の勢力が衰えるのはどのようなときか。【資料1】～【資料3】をもとにして考え、2つ答えよ。

(2) 正子さんが調べたように、台風の中心には左回り(反時計回り)に風が吹き込む。そのため、図1に示すように、台風の進路の右側では特に風が強くなって危険が大きいと考えられる。台風の進路の右側では、左側より風が強くなるのはなぜか。【資料1】と【資料3】をもとにその理由を考え、解答用紙の図を用いて説明せよ。



(イ) 大問8 第2学年「湿度」

※ 問題文 一部省略

表1

記号	A	B	C	D
日時	4月3日 9時	5月10日 9時	5月31日 9時	6月3日 9時
気温 [°C]	14.0	24.0	22.0	20.0
露点 [°C]	5.0	14.0	16.0	16.0
湿度 [%]	56	56	70	79

(1) 下線部①より、表1のA～Dのうち、1m³に含まれる水蒸気の量が最も多い日を示しているのはどれか。最も適切なものを次のア～キから1つ選んで記号で答えよ。

- ア Aのみ    イ Bのみ    ウ Cのみ    エ Dのみ  
オ AとB    カ BとC    キ CとD

(2) 下線部②より、表1のA～Dのそれぞれの日に洗濯物を干したとき、最も乾きやすいと考えられるのはどの日か。最も適切なものをA～Dから1つ選んで記号で答えよ。また、そのように考えた理由もあわせて書け。  
ただし、A～Dのどの日の天気も晴れていて、風はほとんど吹いていなかったものとする。

【思考・表現2】

(1) 平均通過率		
市	県	差
8.0%	9.3%	1.3
(1) 無解答率		
市	県	差
21.2%	20.7%	0.5

【思考・表現3】

(2) 平均通過率		
市	県	差
12.1%	12.9%	-0.8
(2) 無解答率		
市	県	差
30.3%	29.9%	0.4

指導のポイント

平均通過率が県・市とともに非常に低く、また無解答率が非常に高い。

授業においては、温帯低気圧と熱帯低気圧の違いを問うなどして言葉の定義を大切にした指導を行いたい。その際、教師の解説のみで進めるのではなく教科書等の資料から生徒自身に読み取らせること、また、読み取ったことを説明(書く、話すのどちらも重視)させたり、「よく分からないところはどこか」を尋ね、意見交換や解説を行ったりすることを大切にしたい。

また、台風が鹿児島島周辺を通過する際の進路と被害状況などを取り上げ、理由を説明させるなど日常生活と関連付けた指導を行う必要がある。

【思考・表現1】

(1) 平均通過率		
市	県	差
26.1%	26.2%	-0.1
(2) 平均通過率		
市	県	差
35.4%	41.2%	-5.8

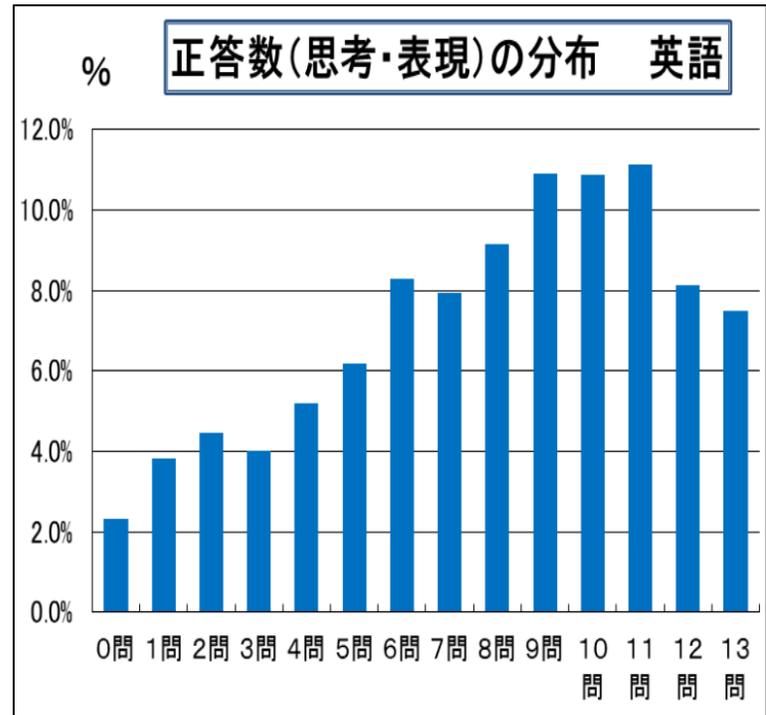
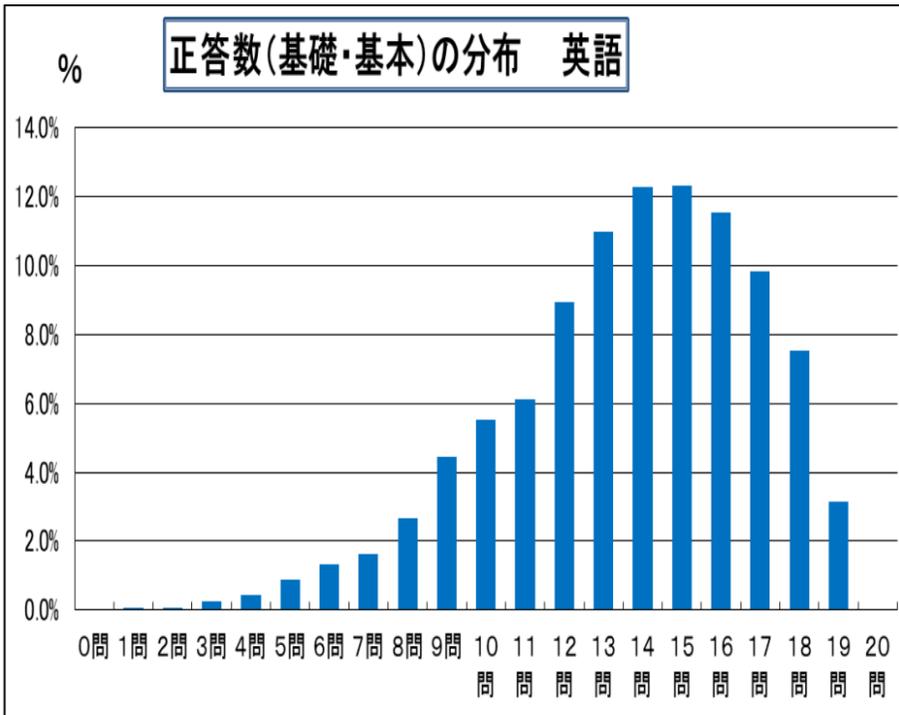
指導のポイント

会話文と表から「露点」等の用語の定義を捉え、思考することが必要である。授業でも教師の説明のみでなく、生徒に説明を読み取らせ、「どこが分からないか」問いながら定義を理解させたい。

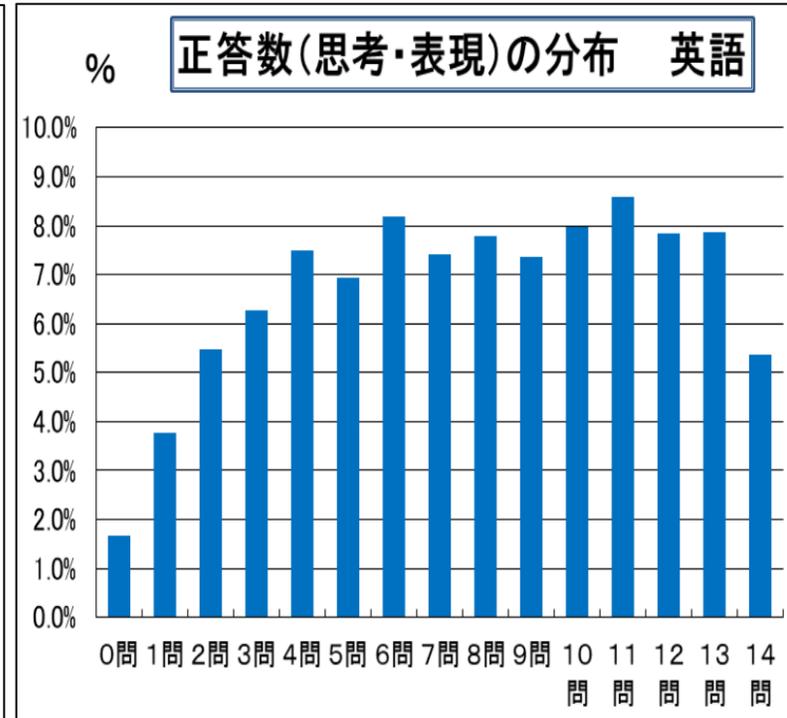
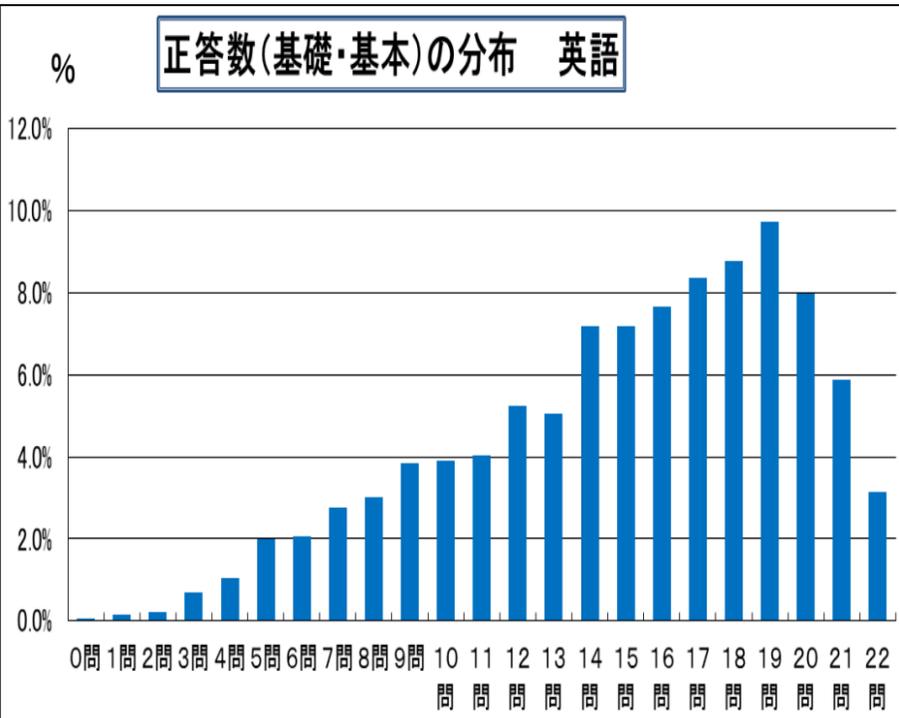
(1) 全体

学 年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
	市	県	県との差	市	県	県との差	市	県	県との差
中1	71.8%	68.4%	3.4	60.1%	55.9%	4.2	67.0%	63.3%	3.7
中2	67.6%	64.4%	3.2	55.3%	52.6%	2.7	62.8%	59.8%	3.0

【中学校第1学年】



【中学校第2学年】

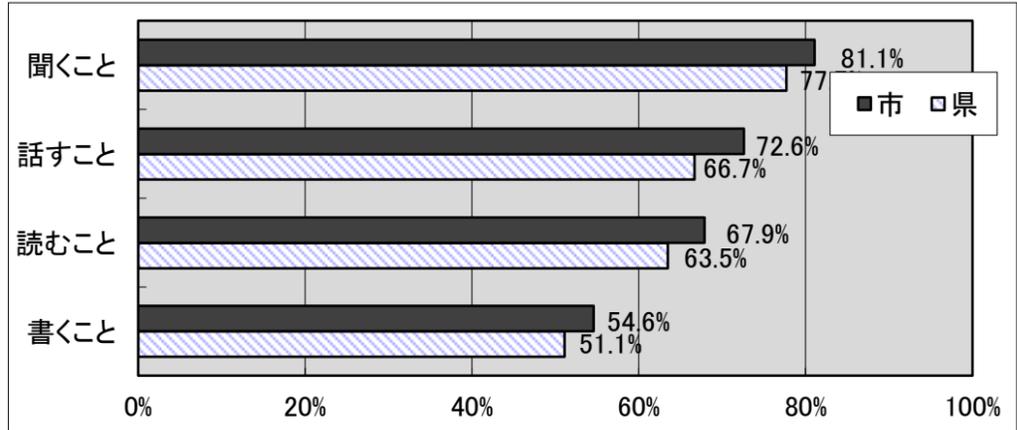


- 全体では、中1、中2とも、県を上回っている。
- 「基礎・基本」では、いずれの学年も県を上回っているが、中2が中1を下回っており、課題が見られる。
- 「思考・表現」では、いずれの学年も県を上回っているが、中2は6割に満たない状況であり、課題が見られる。
- 学年が上がるにつれて平均通過率が下がっており、特に、中2の「思考・表現」においては5問以下の正答数である生徒の数が中1より多く、課題が見られる。
- ◆ 学習した語や表現を実際に活用し、繰り返し話したり書いたりする活動や、英文の読解においては、読解する時間を十分に確保し、読み取った内容を表現させるなどの活動を重視する。

(2) 内容・領域別平均通過率

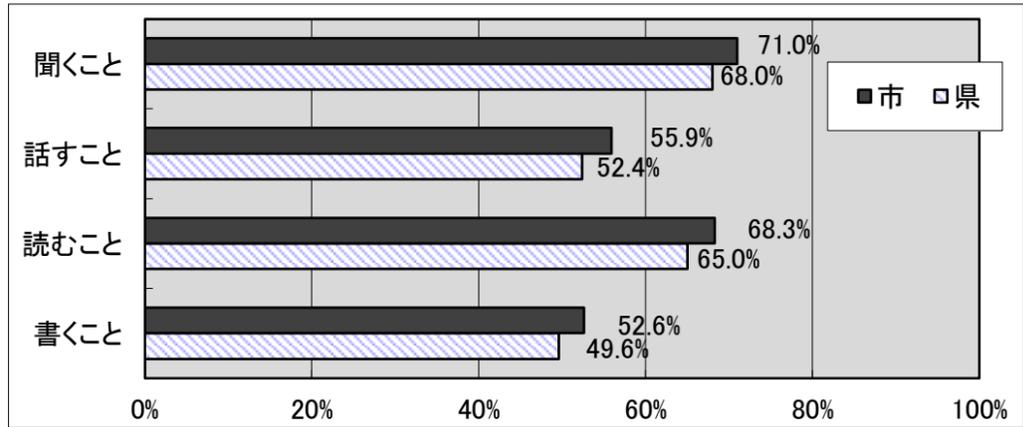
ア 中学校第1学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
聞くこと	81.1%	77.7%	3.4
話すこと	72.6%	66.7%	5.9
読むこと	67.9%	63.5%	4.4
書くこと	54.6%	51.1%	3.5



イ 中学校第2学年

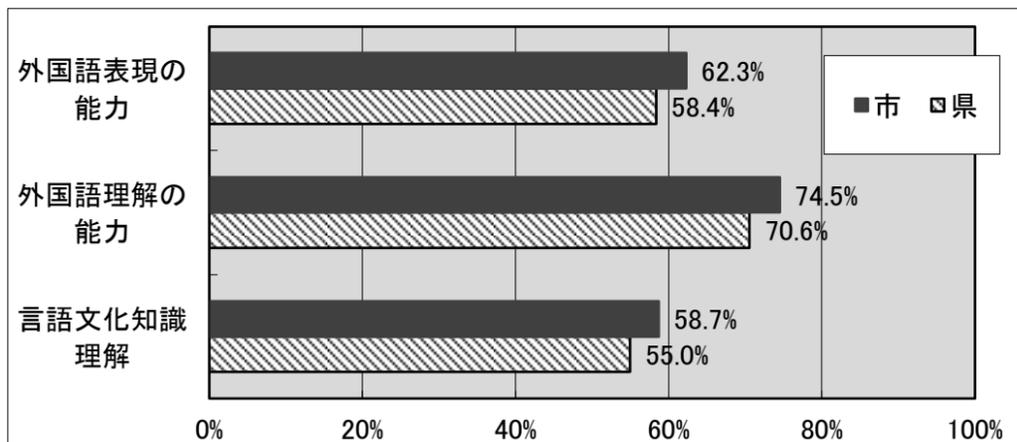
	平均通過率		県との差
	市	県	
聞くこと	71.0%	68.0%	3.0
話すこと	55.9%	52.4%	3.5
読むこと	68.3%	65.0%	3.3
書くこと	52.6%	49.6%	3.0



(3) 観点別平均通過率

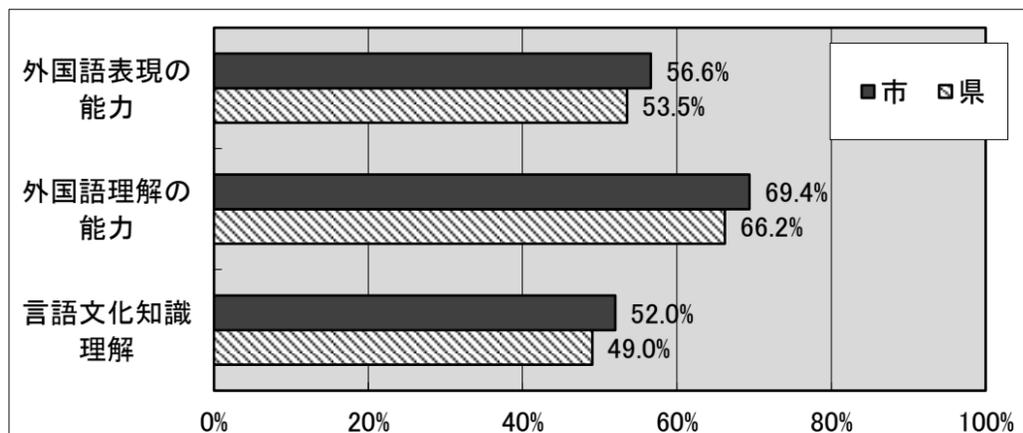
イ 中学校第1学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
外国語表現の能力	62.3%	58.4%	3.9
外国語理解の能力	74.5%	70.6%	3.9
言語文化知識理解	58.7%	55.0%	3.7



ウ 中学校第2学年

	平均通過率		県との差
	市	県	
外国語表現の能力	56.6%	53.5%	3.1
外国語理解の能力	69.4%	66.2%	3.2
言語文化知識理解	52.0%	49.0%	3.0



- 内容・領域別平均通過率では、すべての内容・領域において県を上回っているが、中1においては「書くこと」が、中2においては「話すこと」と「書くこと」が6割を下回っており、課題が見られる。
- 観点別平均通過率でも、すべての観点において県を上回っているが、中1においては「言語文化知識理解」が、中2においては「外国語表現の能力」と「言語文化知識能力」が6割を下回っており、課題が見られる。
- ◆ 読む活動においては、話の概要や展開等に加えて、話の背景にある文化などについての関心を高める時間を取り入れ、理解を深めた内容を英語で伝え合ったり、英文でリプロデュースする活動を充実させる。

(4) 中学校第1学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	設問			問題内容別		内容領域別				観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図				
	大問	中問	小問	基礎・基本	思考・表現	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	表現	理解	言語や文化についての知識・理解	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率					
1		(1)		中1	○		○				○		97.6%		0.1%	97.5%		0.1%				英語を聞いて絵の人物がするスポーツを聞き取ることができるか。				
2	1	(2)		中1	○		○				○		91.6%		0.1%	92.3%		0.1%				英語を聞いて時計の表している時刻を聞き取ることができるか。				
3		(3)		中1	○		○				○		90.9%		0.1%	92.0%		0.1%				英語を聞いて放課後の予定(すること・曜日)を聞き取ることができるか。				
4		(1)		中1	○		○	○			○		91.5%		0.1%	92.6%		0.1%				be動詞の疑問文に対して適切に答えることができるか。				
5	2	(2)		中1	○		○	○			○		81.5%		0.2%	88.0%		0.2%				日付を問う英語の問いに答えることができるか。				
6		(3)		中1	○		○	○			○		77.4%		0.3%	79.5%		0.3%				疑問詞whereを使った場所を問う質問に対して適切に答えることができるか。				
7		(4)		中1	○		○	○			○		49.6%		0.3%	60.2%		0.4%				相手の話から指示代名詞itの示すものを理解して質問に適切に答えることができるか。				
8	3			中1	○		○	○			○		56.6%		0.1%	60.7%		0.1%				コミュニケーション場面から考えられる質問を選択することができるか。				
9	4	(1)		中1		思・表1	○	○			○			82.3%	0.1%		84.6%	0.1%				対話を聞き取り質問に適切に答えることができるか。				
10		(2)		中1		思・表1	○	○			○			57.4%	0.1%		63.3%	0.1%				対話を聞き取り質問に適切に答えることができるか。				
11		(1)		中1	○			○			○		86.5%		0.2%	88.1%		0.2%				英文の概要を把握して適切なタイトルを答えることができるか。				
12	5	(2)		中1	○			○			○		76.0%		0.4%	79.9%		0.4%				対話文から曜日と教科を関連させて正確な時間割表を答えることができるか。				
13		(3)		中1	○			○			○		32.6%		0.5%	37.8%		0.7%				まとまりのある文を読んで、副詞(there)の表す内容を適切に答えることができるか。				
14		(1)		中1	○			○			○		67.0%		0.2%	71.7%		0.2%				文と文の関連に注意して、対話の流れから適切な英文を選択することができるか。				
15	6	(2)		中1	○			○			○		72.2%		0.2%	76.3%		0.2%				文と文の関連に注意して、対話の流れから適切な英文を選択することができるか。				
16		(3)		中1	○			○			○		34.5%		0.5%	40.3%		0.4%				文と文の関連に注意して、対話の流れから適切な英文を選択することができるか。				
17		(1)		中1	○			○			○		70.3%		0.3%	76.2%		0.3%				対話文を読んで代名詞の表す内容を適切に答えることができるか。				
18	7	(2)		中1		思・表2		○			○			77.7%	0.3%		81.9%	0.3%				対話文の内容を正確に把握し、対話の流れに合う文を適切に補うことができるか。				
19	8	(1)		中1		思・表2		○			○			43.9%	0.5%		46.6%	0.4%				まとまりのある英文を読んで、その内容に対する英語の質問に適切に答えることができるか。				
20		(2)		中1		思・表2		○			○			74.6%	0.6%		80.2%	0.7%				まとまりのある英文を読んで、その内容に対する英語の質問に適切に答えることができるか。				
21		(1)		中1	○			○	○		○		90.0%		0.4%	91.7%		0.4%				be動詞の疑問文の正しい語順を答えることができるか。				
22	9	(2)		中1	○			○	○		○		20.3%		0.5%	17.5%		0.5%				SVGの英文の正しい語順を答えることができるか。				
23		(3)		中1	○			○	○		○		37.3%		0.6%	45.6%		0.6%				否定命令文の正しい語順を答えることができるか。				
24		(4)		中1	○			○	○		○		73.6%		0.6%	75.6%		0.6%				How many～?の疑問文の正しい語順を答えることができるか。				
25		(1)		中1	○			○	○		○											対話の中で、場面状況と相手を意識し、適切な語を入れることができるか。				
26	10	(1) 伝達		中1		思・表3		○	○		○			54.9%	10.6%		64.5%	8.2%				対話文の中で、相手の意向を理解し、適切な英文を書くことができるか。				
27		(2) 正確		中1		思・表3		○	○		○			50.4%	10.6%		60.2%	8.2%				スペリング、符号等がすべて正確な英文を書くことができるか。				
28		(1) 伝達		中1		思・表3			○	○	○			70.6%	8.6%		71.7%	7.2%				与えられたメモを生かしながら、出身地を伝達することができたか。				
29		(2) 正確		中1		思・表3			○	○	○			58.9%	8.6%		59.9%	7.2%				スペリング、符号、語形変化を意識し、正確に英文を書くことができるか。				
30	11	(1) 伝達		中1		思・表3			○	○	○			36.9%	18.8%		35.2%	20.2%				与えられたメモを生かしながら、好きな教科の理由となる情報を前文とのつながりを意識して伝達することができたか。				
31		(2) 正確		中1		思・表3			○	○	○			23.2%	18.8%		21.0%	20.2%				スペリング、符号、語形変化、代名詞、論理的な英文展開などを意識し、正確に英文を書くことができるか。				
32		(3) 伝達		中1		思・表3			○	○	○			61.0%	10.1%		67.5%	9.0%				与えられたメモを生かしながら、食べ物の好き嫌いに関して、前文とのつながりを意識して伝達することができたか。				
33		(4) 正確		中1		思・表3			○	○	○			34.8%	10.1%		44.2%	9.0%				スペリング、符号、語形変化、接続詞の使用などを意識し、正確に英文を書くことができるか。				
計	問題数			20	13	10	10	10	13	20	20	17														
	問題割合			60.6%	39.4%	23.3%	23.3%	23.3%	30.1%	35.1%	35.1%	29.8%														
												通過率			68.4%	55.9%	3.3%	71.8%	60.1%	3.0%						
															63.3%			67.0%								

イ 特に課題のあった設問

(7) 大問9 第1学年「SVCの英文の語順整序」 【基礎・基本】

9 次の(1)～(4)のそれぞれが自然な対話となるように、の部分に[ ]内の語を並べかえて英文を完成させなさい。答えは、左から順に記号で書きなさい。ただし、[ ]内の語は、文のはじめにくる語も小文字になっています。

(2) A:  . Is it yours?  
B: No, it's my brother's.

[ア nice イ this ウ is エ bike]

(2) 平均通過率		
市	県	差
17.5%	20.3%	-2.8

**指導のポイント**  
平均通過率が県を下回り、2割に届いていない。“This is nice bike.”の誤答が多いものと推測される。SVCのSが「指示代名詞＋名詞」となる文の形、及び「This is a ＋形容詞＋単数の可算名詞」のような文の場合の冠詞の使用について十分理解させる必要がある。SVCの文においては、Sが指示代名詞のみとなる文と「指示代名詞＋名詞」となる文双方を同時に繰り返し様々な例を挙げて表現させることが望ましい。

(4) 大問11 第1学年「Sが物である英文」 【思考・表現3】

11 次は、アメリカに留学したケイタ (Keita) が行った自己紹介を作成する際のメモと、その原稿です。メモの情報を上から順番にすべて伝えられるように、下線部に適する英文を書きなさい。それぞれの下線部には3語以上の英語を書きなさい。

**自己紹介メモ**

- ・名前 : 田中 圭太
- ・年齢 : 13歳・中学生
- ・出身 : 日本
- ・好きな教科 : 数学 (理由: 面白いから。)
- ・好きな食べ物: カレーライス (curry and rice)
- ・嫌いな食べ物: すし (sushi)

(2) 平均通過率		
市	県	差
35.2%	36.9%	-1.7
(2) 無解答率		
市	県	差
20.2%	18.8%	1.4

※ (2)は、理由「面白いから。」を、下の2つ目の下線部に3語以上の英語で表現することが求められている。

Hello. I am Keita Tanaka.

I'm 13 years old.

I'm a junior high school student.

\_\_\_\_\_

I like math. \_\_\_\_\_

I like curry and rice, \_\_\_\_\_

Nice to meet you.

**指導のポイント**  
ここでは、「数学は面白い」を英語で表現することになるが、「意思伝達」の採点においては、さらに前述のmathを代名詞のitに置き換えることが求められている。日本語では、2回目に登場する主語は省略される場面も多く、また「人」ではなく「物」が主語となる文へのなじみが薄いため、英文では、的確に主語となる表現を捉え、前述の名詞を代名詞に置き換える練習が日頃から必要となる。  
また、「理由」や「～だから」という日本語からbecauseを用いる生徒がいたことも推測される。「AだからB」を英語で表現する場合は、“B, because A.”または“Because A, B.”と1文で表現することも、特に書く活動において取り入れておきたい。

(5) 中学校第2学年

ア 各設問の分類と平均通過率 ※平均通過率が40%を下回った設問と、無解答率が10%を上回った設問に着色している。

設問	大問	中問	小問	出題 学年	問題内容別		内容領域別				観点別			県平均通過率			市平均通過率			校内通過率			出題の意図		
					基礎 ・ 基本	思考 ・ 表現	聞くこ と	話すこ と	読むこ と	書くこ と	表現	理解	言語や文 化について の知識・理解	基礎 ・ 基本	思考 ・ 表現	無解答率	基礎 ・ 基本	思考 ・ 表現	無解答率	基礎 ・ 基本	思考 ・ 表現	無解答率			
1		(1)		中1	○		○					○			88.9%		0.1%	89.5%		0.1%			与えられた英文を聞いて、情報を適切に聞き取ることができるか。		
2		(2)		中2	○		○					○			96.2%		0.2%	97.3%		0.2%			日本語で事前に与えられている状況とイラスト及び放送される英文から、情報を適切に聞き取ることができるか。		
3		(1)		中1・2	○		○	○				○	○		69.7%		0.4%	71.8%		0.4%			対話を聞き取り、対話が行われている場所を把握することができるか。		
4		(2)	①	中2	○		○	○				○	○		49.4%		0.5%	54.1%		0.3%			対話を聞き取り、待ち合わせ場所を正確に聞き取ることができるか。		
5		(2)	②	中2	○		○	○				○	○		51.6%		0.6%	59.5%		0.5%			対話を聞き取り、待ち合わせ時刻を正確に聞き取ることができるか。		
6		(1)		中1	○		○	○				○	○		44.0%		0.3%	43.5%		0.3%			依頼に対して適切に答えることができるか。		
7		(2)		中1	○		○	○				○	○		56.5%		0.4%	64.4%		0.4%			疑問詞whereを用いた質問に適切に答えることができるか。		
8		(1)		中2		思・表1	○	○				○	○			65.1%	0.3%		65.9%	0.3%			対話を聞き取り、理由について不定詞の副詞的用法を用いて適切に答えることができるか。		
9		(2)		中2		思・表1	○	○				○	○			91.0%	0.2%		92.6%	0.2%			対話を聞き取り、登場人物の予定について答えることができるか。		
10		(1)		中2	○				○			○			78.7%		0.2%	80.8%		0.2%			まとまりのある英文を正しく読み取り、話の流れを把握することができるか。		
11		(2)	①	中2	○				○			○			67.8%		0.4%	71.2%		0.4%			比較の長い文章を読んで、その内容に関する英語の質問に英語で答えることができるか。		
12		(2)	②	中2	○				○			○			61.6%		0.5%	64.2%		0.5%			比較の長い文章を読んで、その内容に関する英語の質問に英語で答えることができるか。		
13		(1)		中1	○				○			○			67.5%		0.3%	69.7%		0.4%			文と文の関連に注意して、疑問詞whenを用いた質問の文を選択することができるか。		
14		(2)		中2	○				○			○			82.9%		0.3%	85.4%		0.4%			文と文の関連に注意して、理由を表わす文を選択することができるか。		
15		(3)		中2	○				○			○			65.6%		0.4%	71.7%		0.4%			文と文の関連に注意して、許可を得る文を選択することができるか。		
16		(1)		中2	○				○			○			77.7%		0.5%	80.3%		0.4%			文脈から自然な流れで文章を構成することができるか。		
17		(2)		中2	○				○			○			75.3%		0.4%	79.5%		0.4%			文脈から自然な流れで文章を構成することができるか。		
18		(3)		中2	○				○			○			81.1%		0.6%	83.6%		0.6%			文脈から自然な流れで文章を構成することができるか。		
19		(1)		中2	○				○			○	○		54.6%		0.8%	59.0%		0.7%			空欄の前後関係から形容詞を選択することができるか。		
20		(2)		中1・2		思・表2			○			○	○		29.0%	22.3%		35.2%	20.6%				前後の文から、論理的な文の構造に気付き、下線部の理由を日本語で説明することができるか。		
21		(3)		中2		思・表2			○			○	○		47.2%	1.9%		48.7%	2.0%				文脈から空欄に正しい英文を選択することができるか。		
22		(4)		中2		思・表2			○			○	○		55.9%	2.1%		58.0%	2.1%				読み取った英文の内容について、他の表現で言い換えたときに正しいものを選択できるか。		
23		(1)		中1	○				○			○			17.9%		0.6%	18.7%		0.5%			SVCの英文の正しい語順を答えることができるか。		
24		(2)		中2	○				○			○			75.3%		0.7%	79.1%		0.6%			have toを用いた英文の正しい語順を答えることができるか。		
25		(3)		中2	○				○			○			65.1%		0.7%	70.5%		0.6%			2つの目的語をとる動詞の用法を理解し、正しい語順に並べかえることができるか。		
26		(4)		中2	○				○			○			56.6%		0.8%	58.4%		0.6%			不定詞の副詞的用法を理解し、正しい語順に並べかえることができるか。		
27		(1)		中2	○			○				○			31.8%		15.1%	35.6%		13.2%			文脈や時制に沿って、適切な動詞を正しく書くことができるか。		
28		(2)	伝達	中1・2		思・表3		○				○			40.0%	27.2%		43.2%	25.6%				会話の流れを類推し、適切な英文を正しく書くことができるか。		
29		(2)	正確	中1・2		思・表3		○				○			24.9%	27.2%		28.3%	25.3%				スペリング、符号、語形変化、代名詞の使用など、文を書く上で気を付けなければならないことを意識し、正確に英文を書くことができるか。		
30		(1)	伝達	中1・2		思・表3			○			○			81.0%	9.6%		82.9%	9.0%				与えられた条件を満たし、指定されたトピックに関して相手を意識しながら「意志伝達」が可能な英文を書くことができるか。		
31		(1)	正確	中1・2		思・表3			○			○			71.7%	9.6%		74.2%	9.0%				スペリング、符号、語形変化、代名詞の使用などを意識し、正確に英文を書くことができるか。		
32		(2)	伝達	中1・2		思・表3			○			○			61.9%	13.1%		65.7%	12.1%				与えられた条件を満たし、指定されたトピックに関して相手を意識しながら「意志伝達」が可能な英文を書くことができるか。		
33		(2)	正確	中1・2		思・表3			○			○			49.3%	13.1%		52.4%	12.1%				スペリング、符号、語形変化、代名詞の使用などを意識し、正確に英文を書くことができるか。		
34		(3)	伝達	中1・2		思・表3			○			○			45.5%	17.0%		48.0%	15.2%				与えられた条件を満たし、指定されたトピックに関して相手を意識しながら「意志伝達」が可能な英文を書くことができるか。		
35		(3)	正確	中1・2		思・表3			○			○			33.0%	17.0%		34.0%	15.2%				スペリング、符号、語形変化、代名詞の使用などを意識し、正確に英文を書くことができるか。		
36		(4)	構成	中1・2		思・表3			○			○			41.0%	9.9%		44.8%	9.2%				文と文のつながりがよく、文章全体の流れが自然な文章を書くことができるか。		
計		問題数		22	14	9	10	13	14	21	22	18													
		出題割合		61.1%	38.9%	19.6%	21.7%	28.3%	30.4%	34.4%	36.1%	29.5%													
		通過率		64.4%			52.6%			5.4%			67.6%			55.3%			5.0%						
				59.8%						62.8%															

イ 特に課題のあった設問

(ア) 大問 8 第 2 学年「内容理解」

【思考・表現 2】

8 次の英文を読み、あとの(1), (2)の問いに答えなさい。  
 (2) 下線部②の理由を25字程度の日本語で説明せよ。  
 ※ 英文 一部省略

Two months later, Takeshi met the old woman on the street. She said, "Thank you for sending me the pictures. Please come to my house and have some tea." "Oh, thank you," he answered. When he went to her house, he saw a picture in the room. "I took that picture!", said Takeshi. The old woman said, "Yes, that's right!" ② Takeshi was very happy. Then, she

(2) 平均通過率		
市	県	差
35.2%	29.0%	6.2
(2) 無解答率		
市	県	差
20.6%	22.3%	-1.7

**指導のポイント**

平均通過率が県・市ともに低く、また無解答率が高い。下線の直前の英語をそのまま抜き出して訳すのではなく、その内容からTakeshiの心情に沿って内容を理解し、解答する設問となっている。

授業での内容理解においても、本文を訳すだけでなく、登場人物の心情を捉えさせる発問の工夫が求められる。

(イ) 大問 10 第 2 学年「英作文」

【思考・表現 3】

10 次は、ミキ (Miki) とルーシー (Lucy) との対話と、二人の電子メールでのやりとりです。(1), (2)の問いに答えなさい。  
 (2) 自然な文の流れになるように、\_\_\_\_\_に入る3語以上の英文を1文書け。

Hi, Miki.  
 Today I saw some of your friends in Midori Park.  
 They were playing tennis, but I didn't see you.  
 Are you busy or sick?  
 I want to go to the library with you tomorrow.  
 Please send me a message.  
 Your friend,  
 Lucy

Hi, Lucy.  
 Thank you for asking.  
 I didn't go to Midori Park today.  
 \_\_\_\_\_ because I have math test next Monday.  
 Let's go to the library tomorrow!  
 Bye,  
 Miki

(2) 平均通過率		
市	県	差
43.2%	40.0%	3.2
(2) 無回答率		
市	県	差
25.6%	27.2%	-1.6

**指導のポイント**

平均通過率が県・市ともに低く、また無解答率がかなり高い。下線直前、直後の内容を踏まえて相手に何を伝えるかを推測すること、英文で表現することに苦手意識があることが明確である。

授業の最初に取り入れる small talkを充実させ、自分の考えを伝える練習を積み重ねることが大切である。

## IV 学習状況調査の結果

※ 分析において注目したデータを太字で示している。また、平成28年度と平成29年度の結果が比較できる設問のみ、それぞれの結果を示している。

- 1 家では、自分で学習（宿題や自分で計画した学習）していますか。

	小5			中1			中2		
	鹿児島市		県	鹿児島市		県	鹿児島市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① している。	53.5%	<b>52.6%</b>	53.9%	50.3%	<b>45.7%</b>	48.1%	43.1%	<b>45.0%</b>	45.4%
② どちらかといえばしている。	30.3%	<b>31.9%</b>	30.2%	31.0%	<b>32.2%</b>	31.6%	30.1%	<b>31.0%</b>	31.5%
③ あまりしていない。	14.0%	<b>13.1%</b>	13.2%	16.6%	<b>18.9%</b>	17.4%	21.6%	<b>19.8%</b>	19.1%
④ していない。	2.1%	<b>2.3%</b>	2.5%	2.1%	<b>2.8%</b>	2.6%	4.8%	<b>4.0%</b>	3.7%

- 2 あなたが自分で考えてやる宿題（自学ノートなど）の内容は、どんなものが多いですか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① ドリル等の問題をする。	26.9%	<b>26.6%</b>	26.6%	22.2%	<b>24.2%</b>	21.9%	23.7%	<b>23.6%</b>	21.8%
② 教科書や問題集の練習問題をする。	26.3%	<b>27.4%</b>	25.7%	38.6%	<b>38.7%</b>	36.8%	39.6%	<b>40.3%</b>	40.5%
③ 教科書や参考書の文章や図、グラフなどを書き写す。	12.4%	<b>11.1%</b>	12.2%	3.0%	<b>11.5%</b>	13.2%	11.1%	<b>12.0%</b>	12.7%
④ 自分でテーマを決めて調べ学習をする。	11.5%	<b>12.5%</b>	13.4%	5.1%	<b>5.2%</b>	6.6%	3.4%	<b>3.3%</b>	3.7%
⑤ 次の時間の予習をする。	10.5%	<b>10.5%</b>	10.0%	6.4%	<b>5.7%</b>	6.2%	3.1%	<b>3.8%</b>	3.6%
⑥ 計画を立てて学習していない。	12.3%	<b>11.8%</b>	12.0%	14.4%	<b>14.6%</b>	15.1%	19.1%	<b>16.8%</b>	17.4%

- 3 あなたは、家で学習しているときに、分からない問題があったら、どうしますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 後で、学校の先生に聞く。	3.1%	<b>3.3%</b>	3.7%	3.2%	<b>3.2%</b>	3.5%	3.8%	<b>4.3%</b>	4.3%
② 後で、友達に聞く。	5.3%	<b>5.9%</b>	6.8%	12.2%	<b>13.0%</b>	15.0%	14.0%	<b>16.8%</b>	18.3%
③ 後で、塾の先生や家庭教師の先生に聞く。	4.4%	<b>5.0%</b>	3.5%	12.1%	<b>12.3%</b>	8.7%	16.8%	<b>16.9%</b>	12.3%
④ 家族や親戚に聞く。	56.4%	<b>57.2%</b>	55.4%	37.3%	<b>35.8%</b>	34.6%	25.0%	<b>24.5%</b>	23.9%
⑤ 自分で調べる。	25.7%	<b>23.8%</b>	25.1%	27.0%	<b>28.2%</b>	30.4%	30.5%	<b>29.1%</b>	32.4%
⑥ そのままにしておくことが多い。	5.0%	<b>4.7%</b>	5.3%	8.2%	<b>7.3%</b>	7.6%	9.8%	<b>8.3%</b>	8.7%

【調査1～3】 家庭学習に関する状況及び分からない問題があったときの児童生徒の意識  
 調査1の③、④から、2割程度の児童生徒は家庭学習が定着しておらず、その割合は学年が上がるにつれ増えている。調査2の④「自分でテーマを決めて調べ学習をする」と回答した児童生徒が学年が上がるにつれ少なくなっている。調査3について、家での学習で分からない問題があったら、⑥「そのままにしておくことが多い」と回答する児童生徒が、学年が上がるにつれ増えている。このような傾向は、これまでと同様であり、改善が難しい状況が継続している。  
 教師は、児童生徒に分からない問題等にマーカーや付箋をつけさせるなどしてその状況を把握し、全体指導や個別指導に反映させる必要がある。また、家庭での学習内容について授業内容と連動させながら見直しをもたせる必要がある。

- 4 あなたは、授業中にどのような内容についてノートをとっていますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 板書してあることを写している。	37.7%	<b>35.3%</b>	35.2%	49.1%	<b>43.2%</b>	45.5%	54.2%	<b>50.9%</b>	51.3%
② 板書してあることを写すだけでなく、自分や友達の考えも書き込んでいる。	30.5%	<b>31.1%</b>	31.0%	10.6%	<b>12.6%</b>	12.6%	7.3%	<b>8.7%</b>	9.4%
③ 板書してあることを写すだけでなく、先生の言葉も書き込んでいる。	13.6%	<b>14.1%</b>	13.9%	27.9%	<b>30.5%</b>	28.3%	27.1%	<b>30.0%</b>	28.8%
④ 先生が指示したところだけ書いている。	6.8%	<b>6.2%</b>	7.4%	1.8%	<b>2.5%</b>	3.1%	1.5%	<b>2.4%</b>	2.4%
⑤ 板書を参考に、自分なりにまとめ直しながら書いている。	10.5%	<b>12.7%</b>	11.6%	9.8%	<b>10.3%</b>	9.6%	8.5%	<b>7.1%</b>	6.7%
⑥ ノートは、ほとんどとらない。	0.7%	<b>0.7%</b>	0.7%	0.7%	<b>0.8%</b>	0.7%	1.2%	<b>0.9%</b>	1.0%

【調査4】 授業中のノートのとり方に関する児童生徒の意識  
 ①～③及び⑤から、ノートをとることは、ある程度定着が図られている。  
 ⑤「自分なりにまとめ直しながら書いている」とする生徒は、学年が上がるにつれて減っている。  
 授業では、学習問題に対する考えを自分なりに書く時間を十分確保した上で、それを基に意見交換をさせ、再度、ノートにまとめ直す時間を確保する必要がある。また、授業終末や次時の導入時に、自らのノートを見て学習を振り返らせることによって、学習内容の定着や自己の成長の自覚を促すとともに、分かりやすいノートの取り方を意識させていくことも大切である。

- 5 あなたが、初めてのことを学習するときの気持ちはどれですか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① どんなことを学ぶのか楽しみだ。	36.2%	<b>35.7%</b>	36.5%	19.4%	<b>19.1%</b>	20.9%	16.2%	<b>14.3%</b>	15.3%
② 自分が好きな学習のときは楽しみだ。	29.2%	<b>29.1%</b>	28.5%	32.9%	<b>32.8%</b>	31.6%	32.2%	<b>33.5%</b>	32.3%
③ 特に何も思わない。	16.4%	<b>16.2%</b>	16.3%	25.8%	<b>24.4%</b>	25.1%	31.8%	<b>30.1%</b>	31.7%
④ できるかどうか(わかるかどうか)、心配だ。	16.9%	<b>17.2%</b>	16.8%	19.5%	<b>20.3%</b>	19.3%	16.4%	<b>19.5%</b>	18.0%
⑤ どうせ自分にはできない(わからない)と、あまり期待しない。	1.2%	<b>1.8%</b>	1.7%	2.3%	<b>2.7%</b>	2.8%	3.3%	<b>2.4%</b>	2.4%

【調査5】 初めてのことを学習するときの児童生徒の意識  
 学年が上がるにつれ、①「どんなことを学ぶのか楽しみだ」とする生徒が減少し、③「特に何も思わない」とする生徒が増加する傾向は、これまでと同様である。  
 児童生徒の興味・関心を高め、学びの必然性が感じられるような問題解決的な学習を一層推進する必要がある。そのためには、「～しよう」という行動目標の設定ばかりではなく、「なぜ、～なのだろうか」、「～するにはどうすればよいのだろうか」といった問題意識を高めるように導入を工夫し、解決すべき学習問題（学習課題）を板書に明記する。また、学びの有用性を感じられるよう学習内容と関連した体験や身近な事象を取り入れることを大切にしたい。

6 日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか（教科ごとに2つ選択）。

		小5			中1			中2		
		市		県	市		県	市		県
		H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
国語	① 先生の説明を聞く。	46.9%	45.9%	44.0%	65.7%	65.1%	64.3%	72.1%	72.2%	72.4%
	② 学習の手順や方法を考える。	20.1%	20.2%	19.5%	12.4%	11.4%	13.5%	12.7%	12.0%	12.9%
	③ 課題について、調べ学習をする。	12.5%	10.9%	12.1%	10.1%	9.7%	11.0%	10.2%	8.4%	10.4%
	④ 自分でじっくり考える。	16.1%	17.5%	16.0%	17.4%	19.7%	18.1%	19.3%	19.6%	21.2%
	⑤ 自分の考えを文章にまとめる。	38.0%	39.6%	38.6%	36.3%	38.7%	35.0%	34.2%	31.8%	30.7%
	⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。	29.5%	29.4%	31.8%	29.2%	28.0%	29.1%	30.2%	34.9%	29.6%
	⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。	9.3%	9.7%	9.3%	6.5%	6.7%	6.8%	5.0%	5.2%	5.4%
	⑧ お互いに発表したり、説明したりする。	27.3%	26.4%	28.1%	21.6%	20.1%	21.5%	15.4%	15.4%	16.6%

		小5			中1			中2		
		市		県	市		県	市		県
		H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
社会	① 先生の説明を聞く。	44.2%	44.4%	40.8%	74.2%	79.4%	73.8%	84.3%	80.8%	77.9%
	② 学習の手順や方法を考える。	11.1%	10.6%	10.2%	9.9%	11.8%	10.4%	14.4%	11.1%	11.0%
	③ 課題について、調べ学習をする。	39.1%	39.4%	37.8%	29.9%	30.8%	31.4%	30.2%	28.0%	28.4%
	④ 自分でじっくり考える。	18.3%	16.2%	15.9%	22.0%	21.7%	21.0%	23.3%	22.6%	20.9%
	⑤ 自分の考えを文章にまとめる。	12.4%	11.5%	12.3%	9.5%	10.4%	9.4%	6.7%	8.1%	8.0%
	⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。	17.3%	18.0%	20.7%	22.1%	16.4%	22.3%	20.4%	25.9%	27.8%
	⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。	43.3%	44.3%	46.2%	18.9%	18.9%	19.9%	11.3%	12.1%	13.7%
	⑧ お互いに発表したり、説明したりする。	13.8%	15.2%	15.3%	12.5%	9.8%	11.0%	8.5%	10.7%	11.3%

		小5			中1			中2		
		市		県	市		県	市		県
		H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
算数 数学	① 先生の説明を聞く。	43.5%	43.3%	40.8%	59.8%	63.9%	61.2%	66.4%	66.4%	63.9%
	② 学習の手順や方法を考える。	21.7%	22.7%	22.6%	25.7%	25.4%	25.4%	28.7%	24.3%	24.7%
	③ 課題について、調べ学習をする。	7.0%	6.9%	8.9%	6.0%	6.1%	7.5%	6.7%	6.0%	6.4%
	④ 自分でじっくり考える。	45.3%	46.8%	47.3%	48.7%	47.1%	47.8%	46.7%	48.1%	49.5%
	⑤ 自分の考えを文章にまとめる。	12.6%	11.9%	11.7%	4.5%	5.1%	4.7%	3.3%	2.9%	3.1%
	⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。	28.9%	28.1%	28.9%	31.1%	28.8%	30.2%	29.1%	34.0%	33.1%
	⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。	7.0%	5.3%	5.6%	5.7%	5.4%	5.1%	4.0%	4.3%	3.9%
	⑧ お互いに発表したり、説明したりする。	33.8%	34.7%	33.6%	17.6%	17.5%	17.3%	14.1%	13.6%	14.5%

		小5			中1			中2		
		市		県	市		県	市		県
		H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
理科	① 先生の説明を聞く。	53.5%	54.1%	52.2%	67.4%	69.7%	69.0%	77.3%	78.9%	76.4%
	② 学習の手順や方法を考える。	23.0%	23.1%	24.6%	23.7%	23.2%	23.7%	27.2%	22.0%	21.7%
	③ 課題について、調べ学習をする。	23.4%	24.6%	25.8%	20.7%	20.3%	21.6%	17.4%	16.7%	17.2%
	④ 自分でじっくり考える。	17.1%	17.1%	17.6%	14.1%	15.5%	15.6%	17.7%	15.5%	17.0%
	⑤ 自分の考えを文章にまとめる。	12.0%	11.7%	11.6%	6.5%	6.6%	7.1%	6.9%	5.3%	5.1%
	⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。	39.1%	39.9%	37.9%	46.0%	44.2%	41.6%	36.9%	45.0%	44.5%
	⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。	10.2%	9.7%	9.3%	8.5%	7.7%	8.0%	5.3%	6.5%	6.7%
	⑧ お互いに発表したり、説明したりする。	21.1%	19.4%	20.1%	12.1%	12.1%	12.5%	10.4%	9.5%	10.4%

		小5			中1			中2		
		市		県	市		県	市		県
		H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
英語	① 先生の説明を聞く。				68.4%	68.0%	68.6%	73.5%	72.0%	70.2%
	② 学習の手順や方法を考える。				9.8%	9.3%	10.5%	13.1%	9.7%	10.1%
	③ 課題について、調べ学習をする。				6.7%	7.4%	8.5%	7.3%	6.3%	6.6%
	④ 自分でじっくり考える。				17.5%	16.3%	18.0%	21.1%	16.6%	18.9%
	⑤ 自分の考えを文章にまとめる。				4.4%	4.4%	4.5%	6.0%	5.7%	6.3%
	⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。				47.1%	48.4%	46.2%	43.8%	52.0%	49.7%
	⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。				3.3%	3.9%	3.7%	2.5%	3.0%	3.1%
	⑧ お互いに発表したり、説明したりする。				41.3%	40.8%	38.9%	31.5%	33.9%	33.9%

【調査6】 教科指導に関する児童生徒の学び方  
 前年度と比較し、特に増減が見られた箇所を着色している。教科の特性や学年によって異なる部分はあるが、①「先生の説明を聞く」が減少し、⑥「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。」、「⑧ お互いに発表したり、説明したりする。」活動が増えた教科、学年が多く見られる。  
 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、対話的な活動を取り入れた授業が増えつつあるが、そのような活動を行うことが目的化したり、形式化したりしてはならない。教師が児童生徒のつまづき等を想定して教材研究を行い、分かりやすく説明すること、児童生徒自らがじっくりと課題に向き合うこと、対話によって考えを広げ深めることなどが、教科の特性を踏まえてバランスよく行われ、「深い学び」がもたらされることが重要である。どのような資質・能力を育成するためにどのような活動を取り入れるのかを明確にして、授業に臨みたい。

7] あなたは、次のような授業で学んでいて、どのように感じますか。

(1) 先生がくわしく説明してくれる授業

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① とてもやりがいを感じる。	42.9%	<b>41.3%</b>	40.6%	37.4%	<b>35.8%</b>	36.9%	33.3%	<b>35.4%</b>	34.7%
② やりがいを感じる。	47.9%	<b>48.9%</b>	49.0%	50.9%	<b>52.0%</b>	51.9%	52.7%	<b>52.0%</b>	52.5%
③ あまりやりがいを感じない。	7.8%	<b>8.3%</b>	8.6%	10.1%	<b>9.6%</b>	9.2%	11.0%	<b>10.6%</b>	10.6%
④ やりがいを感じない。	1.3%	<b>1.5%</b>	1.6%	1.5%	<b>2.0%</b>	1.7%	2.9%	<b>1.8%</b>	1.9%
<b>①と②の和</b>	90.8%	<b>90.2%</b>	89.6%	88.3%	<b>87.8%</b>	88.8%	<b>86.0%</b>	<b>87.4%</b>	87.2%

(2) 自分たちで考えたり話し合ったりする授業

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① とてもやりがいを感じる。	40.9%	<b>39.8%</b>	39.5%	38.2%	<b>39.4%</b>	39.6%	34.0%	<b>37.5%</b>	37.6%
② やりがいを感じる。	47.6%	<b>47.3%</b>	47.9%	47.8%	<b>46.9%</b>	47.4%	49.1%	<b>49.1%</b>	48.9%
③ あまりやりがいを感じない。	10.2%	<b>11.1%</b>	10.7%	12.2%	<b>10.6%</b>	10.7%	14.0%	<b>11.3%</b>	11.2%
④ やりがいを感じない。	1.3%	<b>1.7%</b>	1.8%	1.7%	<b>2.4%</b>	2.0%	3.0%	<b>2.0%</b>	2.1%
<b>①と②の和</b>	88.5%	<b>87.1%</b>	87.4%	86.0%	<b>86.3%</b>	87.0%	<b>83.1%</b>	<b>86.6%</b>	86.5%

(3) 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① とてもやりがいを感じる。	35.7%	<b>35.5%</b>	34.6%	23.5%	<b>24.2%</b>	24.6%	18.6%	<b>21.4%</b>	21.3%
② やりがいを感じる。	50.0%	<b>48.3%</b>	49.2%	53.8%	<b>52.1%</b>	53.4%	53.5%	<b>54.7%</b>	55.3%
③ あまりやりがいを感じない。	12.7%	<b>14.0%</b>	13.9%	19.5%	<b>19.6%</b>	18.6%	22.9%	<b>20.0%</b>	19.6%
④ やりがいを感じない。	1.7%	<b>2.1%</b>	2.2%	3.1%	<b>4.0%</b>	3.1%	4.8%	<b>3.9%</b>	3.5%
<b>①と②の和</b>	85.7%	<b>83.8%</b>	83.8%	77.3%	<b>76.3%</b>	78.0%	<b>72.1%</b>	<b>76.1%</b>	76.6%

(4) 難しい課題に挑戦する授業

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① とてもやりがいを感じる。	51.7%	<b>50.6%</b>	49.9%	41.4%	<b>41.9%</b>	41.0%	34.3%	<b>36.0%</b>	35.7%
② やりがいを感じる。	31.2%	<b>30.7%</b>	31.4%	36.5%	<b>36.4%</b>	37.8%	40.4%	<b>41.6%</b>	41.9%
③ あまりやりがいを感じない。	13.2%	<b>14.1%</b>	13.9%	17.0%	<b>15.8%</b>	16.0%	19.2%	<b>17.6%</b>	17.6%
④ やりがいを感じない。	3.8%	<b>4.6%</b>	4.6%	4.9%	<b>5.5%</b>	5.0%	6.0%	<b>4.8%</b>	4.5%
<b>①と②の和</b>	82.9%	<b>81.3%</b>	81.3%	77.9%	<b>78.3%</b>	78.8%	<b>74.7%</b>	<b>77.5%</b>	77.6%

(5) 自分たちで調べて、課題を解決する授業

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① とてもやりがいを感じる。	59.6%	<b>58.0%</b>	56.8%	48.6%	<b>50.7%</b>	50.7%	41.3%	<b>43.2%</b>	44.2%
② やりがいを感じる。	30.1%	<b>31.8%</b>	32.4%	38.1%	<b>36.6%</b>	37.3%	42.7%	<b>43.5%</b>	42.4%
③ あまりやりがいを感じない。	8.4%	<b>8.2%</b>	8.7%	10.5%	<b>9.2%</b>	9.4%	11.8%	<b>11.0%</b>	10.6%
④ やりがいを感じない。	1.8%	<b>2.0%</b>	1.9%	2.5%	<b>2.8%</b>	2.2%	3.4%	<b>2.2%</b>	2.3%
<b>①と②の和</b>	89.7%	<b>89.8%</b>	89.2%	86.7%	<b>87.3%</b>	88.0%	<b>84.0%</b>	<b>86.7%</b>	86.6%

【調査7】 教科指導等に関する児童生徒の学び方や意識の状況  
 特に、中学校において、「難しい課題に挑戦する授業」や「自分たちで調べて、課題を解決する授業」に対して、「とてもやりがいを感じる」、「やりがいを感じる」と回答した割合が増加しており、指導方法改善が進んだ成果が伺える。  
 一方、小学校では、「自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業」において、「とてもやりがいを感じる」、「やりがいを感じる」と回答した割合がやや減少している。  
 【調査6】で述べたように発表や話し合い等の活動が形式的に行われることがないように目的を明確にするとともに、発表を苦手とする児童等への個に応じた指導・支援も大切にしていける必要がある。

- 8 あなたは、授業で、分からないことがあったら、どうしますか。  
もっとも当てはまるものを、1つえらんでください。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 先生に聞く。	23.5%	24.1%	27.5%	17.3%	18.3%	20.4%	15.6%	16.0%	18.9%
② 友達に聞く。	39.1%	39.3%	40.5%	47.1%	45.3%	48.1%	44.9%	49.5%	49.4%
③ 後で、塾の先生や家庭教師の先生に聞く。	3.8%	3.1%	2.4%	8.9%	8.6%	6.0%	12.2%	12.6%	8.5%
④ 後で、家族や親戚に聞く。	20.1%	20.2%	16.6%	10.9%	11.4%	9.6%	7.4%	6.5%	6.0%
⑤ 自分で調べる。	10.7%	9.9%	9.8%	10.7%	10.9%	10.4%	12.5%	10.7%	11.1%
⑥ そのままにしておく。	2.7%	3.2%	3.1%	5.0%	4.9%	4.7%	6.5%	4.6%	5.2%

- (1) ①と②を選んだ人に聞きます。その理由は何ですか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 分からないままにしたくないから。	42.8%	44.7%	47.3%	34.1%	35.7%	37.0%	31.3%	32.1%	33.9%
② 聞いたら分かるかなと思うから。	22.5%	21.7%	23.0%	29.9%	26.6%	28.5%	32.7%	32.7%	34.8%
③ 先生や友達は聞きやすいから。	19.9%	19.9%	19.5%	24.3%	24.9%	23.7%	22.8%	23.2%	22.2%

- (2) ③と④を選んだ人に聞きます。その理由は何ですか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 説明が分かりやすいから。	21.8%	21.4%	20.5%	24.1%	22.7%	19.0%	24.9%	24.5%	22.5%
② いつも聞いているから。	11.8%	12.7%	12.4%	11.4%	8.8%	9.1%	10.4%	9.7%	9.6%
③ 聞きやすいから。	17.4%	18.1%	17.9%	18.5%	15.0%	13.6%	15.9%	15.3%	15.2%

- (3) ⑤を選んだ人に聞きます。その理由は何ですか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 自分で調べたいから。	25.4%	23.5%	27.1%	32.1%	25.2%	26.7%	33.9%	29.4%	33.9%
② 自分で調べるように先生に言われているから。	0.7%	0.9%	1.1%	0.6%	0.7%	0.5%	1.4%	0.3%	0.6%
③ だれにも聞くことができないから。	2.6%	4.8%	4.6%	3.8%	3.2%	3.1%	5.8%	3.0%	4.4%

- (4) ⑥を選んだ人に聞きます。その理由は何ですか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① いつもそうしているから。	1.7%	2.3%	2.5%	5.7%	3.3%	3.5%	7.0%	4.9%	5.8%
② 聞いたり調べたりするのがめんどうだから。	1.9%	2.4%	2.9%	5.2%	4.3%	4.7%	7.9%	4.0%	6.1%
③ 分からないことをうまく伝えられないから。	3.9%	6.1%	5.8%	4.6%	4.5%	4.1%	5.4%	4.0%	4.9%
④ 聞きにくいから。	2.4%	2.6%	2.8%	4.4%	3.1%	3.5%	4.9%	2.8%	4.4%

【調査8】 分からないことが出てきたときの児童生徒の意識

昨年度と比較すると、「そのままにしておく」と回答した児童生徒が、小5は増加し、中2は減少した。小5は、(4)で「③ 分からないことをうまく伝えられないから。」が特に増加している。

教師は、互いに聞いたり教え合ったりする学び合える雰囲気づくりを日々の授業や学級経営の中で進めるとともに、個々のつまづきを詳細に把握し、個別の指導に十分時間をかける必要がある。対話的な活動に取り組みさせる際にも、個々の状況を丁寧に見届け、個に応じた指導・支援に配慮する必要がある。

- 9 学習する中で楽しいと感じたり、やりがいを感じたりする時は、どんな時ですか。(複数回答可)

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① 教科の学習(国語、算数など)	54.5%	55.7%	54.9%	53.2%	54.5%	53.4%	46.6%	48.8%	48.4%
② 道徳や総合的な学習の時間	45.3%	47.2%	46.9%	33.1%	34.4%	34.8%	28.5%	31.9%	31.6%
③ 特別活動(学級活動、学校行事など)	77.2%	80.9%	79.1%	79.0%	80.1%	80.2%	77.6%	79.8%	79.9%
④ 楽しさや、やりがいを感じる時はない。	3.5%	4.2%	4.4%	5.8%	5.9%	5.7%	7.4%	5.2%	5.4%

【調査9】 教科指導等に関する児童生徒の意識の状況

「① 教科の学習(国語、算数など)」、「② 道徳や総合的な学習の時間」、「③ 特別活動(学級活動、学校行事など)」のいずれも全ての学年で昨年度を上回っており、充実したことが伺える。大変好ましい結果であり、今後もそれぞれの目標の達成に向かう中で主体的に学習に取り組む態度や思考力・判断力・表現力等を育成したい。

10 あなたの学級では、授業のめあて（学習目標）を立てていますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① よくしている。	64.1%	63.7%	64.8%	58.0%	57.4%	60.0%	49.9%	57.2%	57.7%
② どちらかといえばしている。	26.0%	27.2%	25.8%	27.8%	29.2%	27.8%	31.0%	29.4%	29.5%
③ あまりしていない。	8.6%	7.9%		11.7%	10.3%		15.0%	10.7%	
④ していない。	1.1%	0.9%		2.1%	2.8%		3.7%	2.5%	
①と②の和	90.1%	90.9%	90.6%	85.8%	86.6%	87.8%	80.9%	86.6%	87.2%

【調査10】「目標の明確化と学習課題の工夫」の状況

①と②の和が、どの学年も昨年度を上回っており、特に、中2は伸びが大きい。但し、中1、中2は、県と比較すると低い割合である。授業改善が進んでいることが伺えるので、引き続き、問いを生かした課題や、単元を通して追究する課題を設定するなど、教科や学習内容のねらいに応じて学習課題を工夫し、授業の目標を明確にするとともに、児童生徒がめあて(学習目標)を意識して学習に取り組むような指導・工夫が必要である。

11 めあてを確認した後、学習を見通す活動（めあてを解決するためにどのように考えればよいか見通す活動）を行っていますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① よくしている。	31.1%	35.7%	37.2%	22.4%	21.2%	22.8%	21.8%	16.8%	18.3%
② どちらかといえばしている。	40.1%	41.7%	41.6%	38.1%	42.0%	43.6%	38.4%	44.6%	45.4%
③ あまりしていない。	23.9%	19.7%		31.1%	29.0%		30.1%	31.6%	
④ していない。	4.7%	2.7%		8.0%	7.6%		9.5%	6.8%	
①と②の和	71.2%	77.4%	78.8%	60.5%	63.2%	66.4%	60.2%	61.4%	63.7%

12 授業の終わりに学習内容を振り返る活動（ノートにまとめたり、考えたことを整理したりするなど）を行っていますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① よくしている。	35.2%	41.5%	42.9%	21.1%	25.4%	26.9%	16.0%	21.7%	22.9%
② どちらかといえばしている。	33.4%	34.6%	33.3%	36.8%	37.3%	37.6%	34.4%	38.6%	38.3%
③ あまりしていない。	25.2%	19.1%		31.8%	29.0%		38.3%	31.8%	
④ していない。	6.0%	4.5%		9.9%	8.1%		11.0%	7.8%	
①と②の和	68.6%	76.1%	76.2%	57.9%	62.7%	64.5%	50.4%	60.3%	61.2%

【調査11, 12】「見通しと振り返りの活動の重視」に関する状況

どちらの設問も①と②の和が、いずれでの学年でも昨年度を上回っており、授業改善が進んでいることが伺える。但し、県と比較すると低い状況が見られる。

課題の解決に何が必要か、どう考えれば解決できそうか、どんな工夫をすればよさそうかなど学習の見通しを立てる活動や、板書やノートに書いたことを生かしてまとめをしたり、本時の思考過程(考えたこと)を整理したりするなどの効果的な振り返りの活動を、単元あるいは、単位時間の中で、計画的に位置付けることによって、児童生徒の学ぶ意欲の向上や学習内容の定着を図る必要がある。

13 授業では、自分で考えたり、自分から進んで活動に取り組んだりしていますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① よくしている。	25.4%	28.3%	28.5%	20.2%	22.3%	22.0%	19.9%	19.7%	19.8%
② どちらかといえばしている。	50.9%	49.3%	49.5%	52.3%	49.7%	50.5%	53.2%	51.5%	51.5%
③ あまりしていない。	21.9%	20.4%	20.0%	27.5%	25.0%	24.6%	31.1%	25.6%	25.4%
④ していない。	1.6%	1.8%	1.7%	2.5%	2.7%	2.7%	4.3%	3.1%	3.0%
①と②の和	76.3%	77.6%	78.0%	72.5%	72.0%	72.5%	73.1%	71.2%	71.3%

14 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H29	H29	H29	H29	H29	H29
① よくできている。	34.0%	35.0%	34.4%	33.1%	32.6%	31.4%
② どちらかといえばできている。	48.5%	47.7%	50.0%	50.3%	51.6%	51.6%
③ あまりできていない。	15.6%	15.2%	13.5%	14.6%	14.1%	14.8%
④ まったくできていない。	1.8%	1.7%	1.9%	1.8%	1.7%	1.9%
①と②の和	82.5%	82.7%	84.4%	83.4%	84.2%	83.0%

- 15 授業では、先生から教えてもらったことや友達と話し合ったことなどを通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。

	小5			中1			中2		
	市		県	市		県	市		県
	H28	H29	H29	H28	H29	H29	H28	H29	H29
① よくしている。	26.8%	27.1%	26.3%	22.4%	26.0%	24.5%	17.9%	23.1%	22.3%
② どちらかといえばしている。	45.9%	46.2%	45.7%	50.1%	46.2%	46.9%	51.3%	48.5%	48.8%
③ あまりしていない。	23.4%	23.9%	24.6%	25.7%	23.8%	24.5%	33.0%	25.2%	25.5%
④ していない。	3.5%	2.6%	3.0%	4.2%	3.8%	3.7%	6.3%	3.1%	3.2%
①と②の和	72.7%	73.3%	72.0%	72.5%	72.2%	71.4%	69.2%	71.6%	71.1%

- 16 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かすことができていますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H29	H29	H29	H29	H29	H29
① よくできている。	35.6%	35.8%	24.7%	23.7%	19.2%	18.2%
② どちらかといえばできている。	46.6%	46.3%	48.6%	48.6%	50.8%	50.2%
③ あまりできていない。	15.7%	15.3%	22.8%	23.8%	25.8%	27.0%
④ まったくできていない。	2.0%	2.2%	3.6%	3.5%	4.1%	4.1%
①と②の和	82.2%	82.1%	73.3%	72.3%	70.0%	68.4%

【調査13～16】「主体的・協働的な学習活動の工夫」に関する状況

調査13は、小5が昨年度を上回り、中2が昨年度を下回っている。調査14は、中1と中2が、県を上回っている。調査15は、小5と中2が昨年度を上回っており、どの学年も県を上回っている。調査16は、どの学年も県を上回っている。各学校において児童生徒の積極的な取組や思考を促す工夫の成果がうかがえる。

学習活動の設定に当たっては、活発な雰囲気や児童生徒の表情など外見の様子を想定するだけに終わらないようにしたい。特に、基本的な知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を発揮させる活動では、教科の特性や学習内容を踏まえて、どのような発言内容や取組内容を引き出すのかというねらいを明確にして活動を設定することが重要である。

※ 調査10～16は、県教育委員会が示している「授業改善のポイント」に沿った分析であり、『平成29年度鹿児島学習定着度調査結果報告書』（県教育委員会）を参考にしている。「授業改善のポイント」については、県教委HP「学校教育＞学力＞確かな学力の定着＞学びの羅針盤・授業改善のポイント」を参照し、各学校における共通実践に生かしていただきたい。

## V 今後の対策－主体的・対話的で深い学びを実現するために－

### 1 今後の対策

ア 全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の問題を全職員が解いて、**児童生徒に求められている学力を把握**する。

当該学年の担当職員だけでなく全職員が実際に問題を解いてみて、どのような力を児童生徒に付けていくべきか共有することが大切です。そのために、**平成30年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料**等を積極的に活用しましょう。

※ コンピュータ上で次のURLをクリックすると国立教育政策研究所のWebページにジャンプします。  <http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

イ 各学校では、**数値目標や共通実践事項を設定**し、学力向上対策と指導方法の工夫改善が、諸検査結果等につながるようにする。

定着の低い内容について、**各教科年間指導計画へ朱書き**等を行い、指導に生かしましょう。本調査結果を生かした年間指導計画例が、『平成29年度鹿児島学習定着度調結果報告書』（平成30年3月発行、鹿児島県教育委員会）に示されています。自校の平均通過率や市平均との差、取組内容を明記することで重点化した指導につながるとともに、翌年度以降にも自校の課題や改善策が引き継がれていきます。

ウ **児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**を推進する。

(◎は、本年度の重点)

- ① 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した**目標の明確化** (◎)
- ② 児童生徒に**主体的な問題解決を促す学習課題（学習問題）の設定** (◎)
- ③ 児童生徒の**思考・判断を促す「発問」の工夫**
- ④ 児童生徒が**自分の考えを相互に説明する活動の充実**
- ⑤ **思考過程が分かる構造的な「板書」**（整合するめあてとまとめの確実な提示）
- ⑥ 児童生徒が**調べたり文章を書いたりする「宿題」（家庭学習）の取組** (◎)
- ⑦ 他者の**「話を聞く態度」の育成**（学校と家庭での習慣付け） (◎)

新学習指導要領において示された「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びであるか、全職員で確認することが、まず第一歩です。そのために、次ページの資料等を活用した校内研修を行いましょう。そして、**上記の7点について**自校なりの具体策を検討しましょう。その際、研究協力校等の取組を参考にさせていただくために、実践例を掲載しました。

また、取組に当たっては、**保護者の理解や協力を得る**ことも重要です。「学習指導要領はどのように変わったのか。」「今後、大学入試等はどのように変わっていくのか。」「これからの時代に求められる学力を育成するために、学校と家庭ではどのようなことを大切にしていくなのか」などについて、説明や意見交換を行う場を設けましょう。

## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たって

小学校（中学校）学習指導要領 第1章第3の1の(1)から

※ 下線は筆者による

(1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童（生徒）の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

※ 「第1の3の(1)から(3)までに示すこと」とは

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。



図 資質・能力の三つの柱

### 【取組に当たっての留意点】

ア これまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと。

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に**目指す資質・能力を育てるために**「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。

ウ 各教科等において**通常行われている学習活動(言語活動、観察・実験、問解決的な学習など)の質を向上**させることを主眼とするものであること。

エ **単元や題材など内容や時間のまとまりの中で**、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

オ 深い学びの鍵として**「見方・考え方」を働かせる**ことが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。

カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その**確実な習得を図る**ことを重視すること。

### 3 各教科における主体的・対話的で深い学び

平成29年発行の学習指導要領解説の各教科編を参照し、各教科における主体的・対話的で深い学びとはどのようなものを把握して、授業に臨みましょう。



【中学校数学の例】

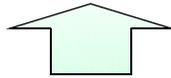
#### 数学科の目標(育成を目指す資質・能力)

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

※ 「数学的な見方・考え方」とは

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。



#### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。

その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。

- (1) 主体的な学び  
生徒自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなどの「主体的な学び」
- (2) 対話的な学び  
事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えや事柄の本質について話し合い、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりするなどの「対話的な学び」
- (3) 深い学び  
数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容する「深い学び」

#### 【指導のポイント】

- 1時間で全てが実現されるものではありません。単元等を見通して、重点化を図りましょう。
- グループ活動等が目的となってはいけません。「どんな資質・能力が育成されたのか。」が大切です。児童に数学的活動の楽しさを味わわせながら実現したいものです。
- 習得・活用・探究という過程の中で「見方・考え方」を働かせることを通して、より質の高い学びにつなげることが重要です。「子供が問題を見いだせたか。」など子供の視点に立った省察を大切にしたいものです。



#### 4 研究協力校等における取組例

##### (1) 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した目標の明確化

学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要があります。そして、学習指導のねらいが児童の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっているかが具体的に想定されている必要があります。このような状況を具体的に示したものが評価規準であり、各学校において設定するものです。<sup>\*1</sup>

そこで、単元や題材の目標を明確にするためには、まず、各教科の『学習指導要領解説』で単元等のねらいを確認する必要があります。次に、評価の観点ごとに、「単元の評価規準」を設定します。そして、単元の指導計画を作成しますが、その際に、どの時間にどの評価の観点を重視して指導と評価を行うのかを計画します。1 単位時間の中で全ての児童生徒を 4 観点から評価し、指導に生かすことは現実的ではありませんから、「本時では、このことについて評価し、どの児童生徒も『十分満足できる状況』や『おおむね満足できる状況』に高めるのだ」と明確にして授業に臨むことが重要です。このように指導の重点化が図られると、その時間でどのような活動に時間を割くべきかが明らかになってきます。「主体的・対話的で深い学び」を単なる指導方法として捉え、「グループ活動をいつもしなければならぬ」、「反復練習には、取り組ませるべきではない」などと形式的に考えることは望ましいことではありません。

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して目標を明確化し、その目標を達成するためにふさわしい活動を位置付けることが求められています。

【例：中学校第 1 学年理科<sup>\*2</sup>】

##### ア 単元名 葉・茎・根のつくりと働き

##### イ 単元のねらい

観察によって、種子植物の葉、茎、根の基本的なつくりの特徴を見いだすとともに、それらを光合成、呼吸、蒸散についての実験結果と関連付けて捉えさせ、植物の体のつくりと働きについて総合的に理解させる。

##### ウ 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
生物の観察、植物の体のつくりと働き、植物の仲間に関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。	生物の観察、植物の体のつくりと働き、植物の仲間に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	生物の観察、植物の体のつくりと働き、植物の仲間に関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを行い、植物の体のつくりと働き、植物の仲間に関する事物・現象について基本的な概念・多様性や規則性を理解し、知識を身に付けている。

##### エ 単元の指導計画（全 9 時間）

節	時間	指導目標	主な学習活動	評価			
				関	思	技	知
葉のつくり	2	葉の表皮の観察結果を基に、葉の筋の通り方から葉を分類し、その特徴と筋の働きを推論することができる。	葉、茎、根の働きについて既習事項を基に話し合い、葉の表皮の観察を行う。	○		○	
		葉の表皮や内部の観察結果を基に、葉のつくり、水や養分の通り道について説明することができる。	葉の断面の観察を行い、葉の表皮や内部のつくりの特徴をまとめ、発表し合う。		○		○
葉の働き	4	葉のつくりの観察結果と光合成の実験結果を基に、葉緑体で光合成が行われていることを推論できる。	葉の中で光合成が行われている場所を予想して実験を行い、結果を基に考察したことを発表し合う。		○		

\* 1 国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』（平成 23 年 11 月）から引用

\* 2 平成 29 年度市中学校教科別研修会（理科）公開授業指導案を基に作成

谷山小学校では、数学的な思考力・表現力の育成を図るために、言葉や数、式、図、表、グラフなど様々な手段を用いて考えたり、自分の考えや根拠を説明・表現したりする算数的活動の工夫改善に取り組みました。そこで、「考える力・表現力を高める学習の進め方」(表1)を作成し、各学習過程において重視すべき学習活動や教師の指導の視点を明確にして共通実践を推進しました。このような取組によって、全職員が問題解決的な学習の進め方を共通理解するとともに、実際の授業においては取り扱う題材の特性や児童の実態に応じてある部分を重点化して指導するなど、内容や時間のまとまりを見通した指導が展開されることが期待されます。

表1 考える力・表現力を高める学習の進め方

学習過程	主な学習活動	学習形態	教師の指導の視点
導入	1 学習課題をつかむ。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題の意味を的確に捉えさせることができるような問題を設定する。</li> <li>○ 問題の意味を的確に捉えさせる。</li> <li>○ 興味・関心・驚きや疑問を喚起させる工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項(前時・前単元・前学年)や経験、知識を揺さぶり、考えさせる。</li> <li>・ 日常生活と関わりのある問題の設定</li> </ul> </li> </ul>
	2 本時のめあて(学習問題)を立てる。	個→全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時(前時間・前単元)までの学習との比較を大切にする。</li> <li>○ 問題を基に、授業で調べることを、できるようになることを明確にする。</li> </ul>
	3 答えを予想する。(答えの見通し)	個→全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項を例示し、自分なりの予想ができるようにさせる。</li> </ul>
	4 解決の方法・手順を考える。(解決の方法の見通し)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題解決の見通しをもたせ、手順や方法を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵、図、線分図、数直線、具体物、言葉の式、等</li> </ul> </li> </ul>
展開	5 自分なりの方法で調べる。 ① 様々な方法を用いて調べる。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個に応じた効果的な支援をする。(ヒントコーナー、カード、助言)</li> <li>○ 多様な考えを引き出すことができる算数的活動を工夫する。</li> <li>○ 自力解決に必要な時間を十分保障する。</li> </ul>
	② 調べたことをまとめる。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 説明させるための手立てや工夫をする。<b>根拠をもつ</b></li> <li>・ 算数における言語(言葉・図・表など)を意識させる。</li> <li>・ 提示資料の準備</li> <li>○ 算数のよさに気付いている児童を称賛する。</li> </ul>
	6 小集団で考えを出し合う。	ペア グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よりよく説明し合う手立てや工夫をする。<b>根拠を生かす</b></li> <li>・ 相手の考えを納得し、よりよくする気持ちを大切にすること。</li> <li>・ 受容的な学級の雰囲気大切にすること(うなづき)。</li> <li>・ Q-Uを生かした小集団のペアリング、グループピング</li> <li>○ 学習内容、児童の実態に応じたグループ形態を工夫すること。</li> <li>○ 自分の考えを発表する発表話型や自分や友達の考えをつなぐつなぎ言葉を活用し、練り上げを目指す。</li> <li>○ 算数のよさに気付いている児童を称賛すること。</li> </ul>
練り上げる	7 一人調べ、小集団での考えを基に話し合う。  ※ 日頃から説明する場を多く設定する(算数に限らず)。	全体 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 算数のよさを一人一人が実感できるような工夫をする。</li> <li>・ 多様な考え方のよさを知り、よりよい考え方を模索する場であるという認識を児童に定着させる。</li> <li>・ 考えの共通点や相違点について比較・分類すること。</li> <li>・ 子供の思考を揺さぶる場を設定したり、教具を準備したりすること。</li> <li>・ 出されなかった考えや間違いを活用して揺さぶ</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>りをかけることによって、話し合いを深める。</li> <li>○ まとめにつながる<u>キーポイント（ここだマン）</u>を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 板書を工夫する（考えの分類、キーワードを明確に）。</li> </ul> </li> </ul>
終末	まとめる	8 本時のまとめをする。	個→全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キーポイントを基に、学習問題に呼応するようにまとめる。</li> <li>○ 分かったことを整理し、全体でまとめをし、一般化を図る。 「はかせ」の視点：速く・簡単に・正確に</li> <li>○ 考えの深まりに気付かせる。</li> </ul>
		9 練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ できる。</li> <li>・ 使える。</li> <li>・ 便利だ。</li> </ul>	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 練習問題の内容や取組方法を工夫し、よさを更に味わわせたり、考え方を確かめさせたりする。</li> <li>○ 必要に応じて、深化、補充を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題の工夫（量や質）</li> <li>・ 問題提示の工夫</li> <li>・ 解答の仕方</li> </ul> </li> <li>○ 児童一人一人の学習成果を把握する。</li> </ul>
	10 学習を振り返る。	個→全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習について振り返らせる（自己評価）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価内容（考える・聞く・伝える・まとめの理解）</li> <li>・ 本時の学習のよさについて話し合う。</li> </ul> </li> <li>※ 次時の課題まで考えられる（予想できる）とよい。</li> </ul>	

出典：谷山小学校 平成28・29年度研究紀要『学ぶ楽しさを実感できる算数学習の在り方』（平成30年2月）

伊敷中学校では、学習指導要領改訂が示す理念や資質・能力の考え方について校内研修を行った上で、学校として目指す資質・能力について教科横断的な視点から検討を行いました。その際、学校教育目標を中核として職員の意見を取りまとめ、表2に示す五つの力を設定するとともに、具体的な生徒の姿をルーブリック（目標に準ずる達成度を判断する基準）として共有化しました。学校教育目標の具現化に向けて、全職員で目標が具体的に共有され、日々の授業で実践が進むことが期待される取組です。

表2 汎用的な資質・能力の育成を図るルーブリック

学校教育目標「確かな学力と創造力を身に付け、健康な体と豊かな心をもった生徒の育成」					
	①課題発見力	②情報活用力	③論理的思考力	④協働する力	⑤メタ認知
レベル4	日常生活の中から自ら課題を発見していくことができる。	情報を比較しつつ、それらの真偽を見極め、適切に活用することができる。	多面的・多角的な視点を踏まえた上で、論理的に自分の考えを説明することができる。	集団として最適解や納得解を提案することができる。	生活の中で学びを生かし、よりよい問題解決を図ることができる。
レベル3	課題の意義を自らの生活と結び付けて捉えることができる。	適切な方法で複数の情報を収集することができる。	適切な言葉や方法で、自らの考えとその根拠を説明することができる。	お互いの意見を整理しながら、考えの質を高めていくことができる。	学んだことを基にして、次の疑問をもったり、適用を図ったりすることができる。
レベル2	課題に対して既習や自らの生活と結び付けながら、解決への見通しをもつことができる。	課題を解決するために情報収集に関する見通しをもつことができる。	自らの考えとその根拠や理由を説明することができる。	お互いの考えの共通点や差異点を見いだしつつ、話し合うことができる。	自らの学習の過程を振り返ることができる。
レベル1	学習課題を的確に把握することができる。	課題を解決するためにどんな情報が必要か考えることができる。	自らの考えに根拠をもつことができる。	課題を把握し、他者に自分の考えを伝えることができる。	できたこと・分かったことを自分の言葉でまとめることができる。

出典：伊敷中学校 平成29年度研究紀要『新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた生徒の育成』（平成29年5月）

(2) 児童生徒に主体的な問題解決を促す学習課題（学習問題）の設定

田上小学校では、主体的な学びを実現するために、単元や一単位時間の導入において、「考えたい。」「解決したい。」と児童の学習意欲が高まるような課題設定の工夫に取り組みました。表3や表4のような視点からの課題設定によって、学ぶことの意義を実感したり、自分なりの考えをもって目的意識のある学習活動が展開されたりすることが期待されます。

表3 課題設定の視点

課題の視点	捉え
実生活につながる課題	生活の中から解決したい問題を見だし、解決方法等を考え、その適用範囲を広げていくことのできる課題
最終的な学習につながる課題	単元終末に解けるようにしたい知識・技能等を活用して解決する課題や最終目標となる活動が示される課題
体験的な活動から発見した課題	これまで体験したことやその時間に体験したことから問題意識をもつことのできる課題
ずれを生かした課題	誤概念や予想、自他の考えのずれ等、想定外の事実を知ることによって問題意識をもつことのできる課題
発展的な課題	単元で学習した内容を広げたり、深めたりすることができる内容（他の単元の学習や他の学年の学習）の課題

表4 社会科における「見方・考え方」の視点と「問い」「学習問題」の例

視点	「問い」の例	学習問題の例
位置や空間的な広がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように広がっているのだろう。</li> <li>なぜ、この場所に集まっているのだろう。</li> <li>地域ごとの気候は、どのような自然条件によって異なるのだろう。</li> </ul>	3年「学校のまわり」 「なぜ、たくさんのお店が〇〇には、集まっているのだろう。」
時期や時間の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつ、どんな理由で始まったのだろう。</li> <li>どのように変わってきたのだろう。</li> <li>なぜ、変わらずに続いているのだろう。</li> </ul>	3年「店ではたらく人」 「ボンタンアメは、なぜ、92年間も多くの人に親しまれているのだろう。」
事象や人々の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような工夫や努力があるのだろう。</li> <li>どのようなつながり（関係）があるのだろう。</li> <li>なぜ、〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう。</li> </ul>	6年「わたしたちの生活と政治」 「選挙権をもつ市民として、わたしたちは、政治とどのように関わっていく必要があるのだろう。」
構想の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように続けていくことがよいのだろう。</li> <li>共に生きていく上で何が大切なのだろう。</li> </ul>	4年「ごみのしよりと利用」 「これからの環境を守るために、どのような取組が大切だろう。」

表5 各教科の実践例

単元・題材	教師の働き掛け	学習課題・学習問題
第4学年 国語 「きょうみをもったところを中心しようかいしよう」	科学読み物を紹介する文章のモデルを提示し、科学読み物を紹介するための課題について話し合わせる。	科学読み物の筆者の主張を分かりやすく紹介するには、どのように読めばよいか。
第4学年 音楽 「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」	打楽器（すず、カスタネット、クラベス）による二つのリズムの組合せを聞き比べさせ、感想等を話し合わせる。	自分たちのテーマに合った音楽をつくるには、どんな工夫をすればいいのだろうか。
第5学年 家庭 「わくわくミシン」	縫い方の異なるコースターの作品例を提示して比較させ、これまで学習した直線縫いでは縫えないことに気付かせる。	ミシンを使って、きれいで丈夫な角縫いをするには、どうしたらよいだろうか。
第2学年 道徳 「よいと思うことはすすんで」	上級生が意地悪をしているという事例をICTを活用して提示し、「自分だったらどうするか」と問う。	よくないことだと気付いたとき、どんな考えを大切にすればよいのだろうか。

出典：田上小学校 平成29年度研究紀要『共に学び 未来を創る』（平成29年6月）

※ 表5は、掲載の実践例から抜粋して作成

吉田南中学校では、「見通し」・「振り返り」を促す手立ての工夫に取り組んでいます。そこで、特に数学科においては、生徒が見通しをもって主体的に学ぶ授業を展開するために、表のような視点から学習課題を工夫しています。そして、学習課題に出会ったときの生徒の「気付き・発想」を基に問題意識の焦点化を図り、見通しをもった問題解決が展開できるようにしています。

表6 学習課題を工夫する際の視点

教師の視点	生徒の反応例
生徒から疑問、矛盾を引き出せるもの	なぜかな、おかしいぞ。
生徒に適度な困難さを感じさせるもの	これは難しそうだな。
生徒から多様な考えが引き出せるもの	いろいろな方法がありそうだ。
生徒の興味・関心を引き出せるもの	面白そうだ、やってみよう。
生徒の能力、既習事項を考慮したもの	これまで学習したことが使えそうだ。
操作などの活動を通して解決できるもの	活動しながら考えを広げたり深めたりできそうだ。
解決の見通しをもたせられるもの	このことを解決していけばいいかな。
解決の成就感や成功感をもたせられるもの	分かったぞ、やっとできたぞ。

【設定例】第1学年「文字式の表し方」

【学習課題】

松元君は、バスに乗って鹿児島から  $x$  km離れた長崎まで修学旅行に行きました。高速道路を利用し、熊本までの  $y$  kmは時速80kmで走りましたが、その先は渋滞にあたってしまい、残りは時速60kmで走りました。おこづかいは10000円以内と決まっていた。長崎では、おみやげ屋で  $a$  円のカステラを3本と  $b$  円のちゃんぽんを2個買い、5000円札で払いました。

また、入園料  $c$  円の美術館と  $d$  円の博物館に見学に行きましたが、どちらも割引券があったので1割引で入ることができました。帰りは新幹線で、福岡から鹿児島までの  $z$  kmを2時間ちょうどで帰りました。

Q この文章の中の数量を表す式を作りましょう。また、それが何を表すか、グループで問題を出し合ひましょう。

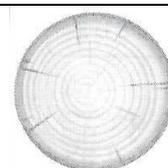
例 (式)  $3a + 2b$  表す数量：おみやげの代金の合計

【設定例】第3学年「平方根の活用」

【学習課題Ⅰ】

図のような断面をもつ丸太がある。

この丸太から、断面が正方形の角材を取りたい。1辺が最大何cmの角材を取ることができるだろうか。



【学習課題Ⅱ】

さしがねの角目で丸太の直径を測って目盛りを読めば、そのまま正方形の角材の一辺の長さが求められる。その理由を説明してみよう。

表7 生徒の「気付き」を学習問題につなげるための観点

観点	生徒の「気付き・発想」	学習問題例
課題を見て、既習内容との比較を基にした観点	前に学習したことと、ここが違うぞ。	〇〇のときは、どのようにすればよいのだろうか。
試行した結果から見いだした規則を基にした観点	こんなきまりがありそうだぞ。本当にそうかな。	見付けたきまりは、本当にそうだろうか。
既習内容を生かして試行したができなかつたことを基にした観点	この考えでできると思ったのにできないぞ。	〇〇を使ってできないときは、どのようにすればよいのだろうか。
試行した結果、明確にできなかつたことを基にした観点	みんな違うぞ。はっきりしないなあ。	はっきりさせるには、どうすればよいのだろうか。
簡単な解決方法を追究したいという意識を基にした観点	できたけど面倒だなあ。	もっと簡単に解決する方法はないだろうか。
更に対象を変えて、同じ活動に取り組みたいという意識を基にした観点	活動しながら考えを広げたり深めたりできそうだ。	〇〇でやったらどうなるのだろうか。

出典：吉田南中学校『研究紀要第49号 課題を解決するために必要な資質・能力を育成する学習指導』

(平成29年10月)

(3) 児童生徒の思考・判断を促す「発問」の工夫

東桜島小学校では、児童の対話力を系統的に育成するために「対話力系統表」を作成し、ねらいを明確にした対話活動を全校で推進しています。教師が、理由を明確にさせたり、比較・関係付け等を促したりするような発問を意図的に行うことで児童の思考が深まるとともに、児童も考え方を学び、自己内対話を繰り返しながら思考できるようになることが期待できます。

表8 対話力系統表（部分）

思考のための言葉	思考の方法	低	中	高
① 「なぜ（どうして）、～なのですか。」 「〇〇の原因として、どういうことが考えられるのだろうか。」 「根拠は何ですか。」	原因・理由	○		
② ○と△を比べると、どこが違い、どこが同じですか。	比較	○		
③ 絵・図・表で表すとどうなりますか。	具象化・図解	○		
④ もし、～ならどうなりますか。 逆の立場から見たらどうなりますか。	仮定	○		
⑤ ほかにもっとよいやり方はないですか。 ～の場合はどうでしょうか。	拡張	○		
⑥ ○は△になっています。だから、◇は▽ではないでしょうか。	推量		○	
⑦ ○〇と△△で分けてみるとどうなるでしょうか。	分類		○	
⑧ 例えていうと、どういうことですか。	例示		○	
⑨ まとめて（つまり）～ということでしょうか。	統合・要約		○	
⑩ ○〇と△△は、どういう関係があるでしょうか。	関係付け		○	
⑪ ○がよかったことから、△もよいと考えられるでしょうか。	類推			○
⑫ ○と□と◇から、どんなきまりが考えられるでしょうか。	帰納			○
⑬ ○〇は△△です。だから、□は何であると言えるでしょうか。	演繹			○

出典：『第63回九州地区へき地・小規模校教育研究大会鹿児島大会 大会要録』収録

東桜島小学校研究概要『主体的・協働的に学ぶ子どもを育成するための指導法の工夫』（平成29年10月）

山下小学校では、「学びの自覚を促す手立て」として、教師の言葉掛けを大切にした実践を進めています。児童が自分の学びを振り返ることができるように問い掛けたり、児童の学びを肯定的な言葉で価値付けることによって「これでよかったんだ。」「できるようになっている」と自己の学びに自信をもたせるようにしています。

表9 教師による言葉掛けの例

学びの自覚を促す言葉掛けの場面	具体的な言葉掛け
問い掛け	本時の課題解決に向けて、既習の学びの自覚を促すとき 「今、何に向けて学習を進めているところかな。」 「前の時間には、どんなことが分かった（できた）かな。」 「これまで習った方法で解決できないかな。」
	考えのよさを既習の見方・考え方とつなげて自覚を促すとき 「この考え（見方・考え方）は、前にも学習したことはなかったかな。」
	考えや活動などのよさを他者の評価を通して自覚を促すとき 「〇〇さんの考えのよいところはどこかな。」 「〇〇さんの動きは、前に比べてどこがよくなっているかな。」
	自分の変容の自覚を促すとき 「今日、分かった（できるようになった）ことは何かかな。」 「どのような考えをもてるようになったかな。」 「初めの考えとどう変わったかな。」
	課題解決の方法や過程のよさを自覚を促すとき 「なぜ、うまくいったのかな。」 「どうすれば成功するのかな。」
価値付け	考えや表現、活動などのよさを価値付けるとき 「〇〇という見方で考えたところがいいね。」
	学んだことを生かして課題を解決したことを価値付けるとき 「これまでに学習したことをうまく生かしていたね。」 「前に学習したことと結び付けて考えているところがいいね。」

出典：山下小学校 平成29年度研究紀要『主体的に課題解決へ向かう子供を育てる授業づくりⅡ』

(平成29年11月)

(4) 児童生徒が自分の考えを相互に説明する活動の充実

桜洲小学校では、全ての児童が授業に主体的に参加し、「分かる・できる」喜びを実感できるようユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫に取り組みました。その際、学習活動や発問の焦点化、互いに学び合う活動による考えの共有化、ICTの効果的活用や活動の流れの揭示等による視覚化を重視し活動の充実を図りました。



図 授業づくり「3つの柱」

出典：桜洲小学校 平成28・29年度研究紀要『すべての子供が参加し、「分かる・できる」喜びを実感できる授業づくり』（平成30年1月）

清水小学校では、児童が外国語によるコミュニケーション活動を積極的に行うことができるよう、各単元のゴールを具体的に示すようにしました。また、児童にとって必然性のある場面設定や、定型的な会話のみでなくその場で思考・判断しながらコミュニケーションを図れるような場面設定に取り組みました。さらに、児童がアクティビティに自信をもって取り組めるよう個人、ペア、グループ、一斉などの学習形態をねらいを踏まえながら段階的に設定するようにしました。

表10 場面設定や授業形態の工夫例

学年・単元	単元全体のゴール	場面設定・授業形態の工夫
第4学年 どんな給食が好き？	夢の給食メニューを友達に紹介しよう。	各ブースで一人ずつ、画用紙に描いた絵を示しながら、夢の給食を発表させた。
第5学年 Hi, friends!1 Lesson7 What's this?	清水ゲームショーを開催して、クイズを出し合おう。	英語による会話に自信をもたせるためにペアワークによる活動を3時間行った後、第4時にグループごとのゲームブースでクイズを出し合うグループワークを設定した。
第6学年 Hi, friends!2 Lesson3 I can swim.	清水小のためにできることをプレゼンしよう！	導入でマララ・ユスフザイさんの国連演説の動画を視聴させた上で、清水小のために自分たちには何ができるか考えさせ、意欲を高めた。
第6学年 Hi, friends!2 Lesson4 turn right.	鹿児島市の観光地を道案内しよう！	市内観光地を目的地とする場面設定により必然性を高めた。また、案内役だけに地図を持たせたり、即興で地図を見て案内させたりすることで責任感や臨場感を高めるとともに、聞き手との会話を大切にしたい案内を心掛けさせた。
第6学年 Hi, friends!2 Lesson8 What do you want to be?	お世話になった人たちに「夢スピーチコンテスト」を開こう！	単元末に保護者に向けて、イラスト等を見せながら発表する場を設定した。練習の際には、発表の様子をタブレットpcで撮影し、動画を見ながら互いにアドバイスするようにした。

出典：清水小学校 平成28・29年度研究紀要『自らの思いや考えを積極的に伝え合う児童の育成』（平成30年2月）※ 表10は、掲載の実践例を基に作成